

小林營智纂譯

獨逸國勢誌

博聞社藏版



東國通

東國通

凡例

メンゼル氏ノ獨乙史、マルカム女史ノ獨乙史ニコレソシノ

此編ニ政體論、ムルレル氏ノ近世政治沿革史及ヒ本年倫敦出版ノ政家

年報等ヨリ抄譯スト雖ヒ間々類ニ觸レテ他書ヨリ抄出セシ所亦少

ナキヨリ大煩ヲ厭フテ今盡ク其書名ヲ擧ケズ

此編本ト獨乙國勢ノ一斑ヲ示シ以テ世ノ需メニ應セント欲ス故

ニ項目十數ニ涉ルト雖ヒ猶ホ之ヲ詳述セス然レハ編首ニ較歴史ヲ

詳述セシ所以ノ者ハ其國勢ノ沿革ヲ示シ以テ今日ノ富強ヲ致シタ

ルノ源由ヲ知ラシメント欲スルノ意ノミ、看者幸ニ偏倚ノ咎ヲ歸ス

ル勿レ

一精ヨリ細ニ入り鹿ヨリ密ニ入ルハ事物自然ノ常ナリ此編ノ如キハ

固ヨリ其階梯ノミ故ニ編纂ノ體裁然クセザルヲ得サル者アリ詳細

ニ至テハ他日ヲ期セントス杜撰ヲ以テ之ヲ概スル勿レ

一此編ノ章句ハ凡テ原書ニ隨ヒ敢テ私見ヲ加ヘズ是レ余ノ淺學ナル

或ハ事實ヲ誤ルノ恐アラフコトヲ慮ルニ由ルナリ
一此編ハ抄譯ニ係ルト雖モ務メテ原文ニ據リ妄リニ文章ヲ修飾セズ
布言重複措辭錯綜爲メニ江湖ノ誹譏ヲ受クルハ余ノ固ヨリ辭セザ
ル所ナリ

一數量ヲ何萬何千何百何十ト迂遠冗長ヲ厭ハス記スル者ハ世人未タ
數字排列ノ式ニ慣レサルニ由ル然レモ其甚タ冗長ニ涉ルモノハ已
ムコトヲ得ズ數字排列ノ式ヲ用ユ

一人名ハ右傍ニ單線ヲ施シ地名及ヒ種屬ノ名稱ハ複線ヲ附シ以テ混
亂ノ憂ナカラシム

一貨幣衡量里程等ハ本邦ノ制ニ改算セス凡テ原書ヲ循用ス其里程ノ
一英里ハ我十四丁四十三間餘ニ當リ貨幣ノ「マルク」ハ我銀貨ノ二
十五錢ニ當リ「ターレル」ハ我銀貨ノ七十五錢ニ當ル

明治十七年十二月

小林營智識

獨乙國勢誌

目錄

第一篇

○獨乙國ノ略歴史

一丁

紀元前ヨリ千八百七十年ノ獨佛戰爭ニ至ル

第二篇 獨乙聯邦ノ形勢

○獨乙聯邦ノ積面及ヒ人口

百十九丁

○帝室

百二十三丁

○現今ノ政體

百二十五丁

○宗教

百三十八丁

○教育

百三十九丁

○陸軍

百四十六丁

○海軍

百五十五丁

○歳入歳出及國債

百六十三丁

或ハ事實ヲ誤ルノ恐アラシクテ慮ルニ由ルナリ
一此編ハ抄譯ニ係ルト雖モ務メテ原文ニ據リ妄リニ文章ヲ修飾セズ
布言重複措辭錯綜爲メニ江湖ノ誹譏ヲ受クルハ余ノ固ヨリ辭セザ
ル所ナリ

一數量ヲ何萬何千何百何十ト迂遠冗長ヲ厭ハス記スル者ハ世人未ダ
數字排列ノ式ニ慣レサルニ由ル然レモ其甚々冗長ニ涉ルモノハ已
ムコトヲ得ズ數字排列ノ式ヲ用ユ

一人名ハ右傍ニ單線ヲ施シ地名及ヒ種屬ノ名稱ハ複線ヲ附シ以テ混
亂ノ憂ナカラシム

一貨幣衡量里程等ハ本邦ノ制ニ改算セス凡テ原書ヲ循用ス其里程ノ
一英里ハ我十四丁四十三間餘ニ當リ貨幣ノ「マルク」ハ我銀貨ノ二
十五錢ニ當リ「ターレル」ハ我銀貨ノ七十五錢ニ當ル

明治十七年十二月

小林營智識

獨乙國勢誌

目錄

第一篇

○獨乙國ノ略歴史

一丁

紀元前ヨリ千八百七十年ノ獨佛戰爭ニ至ル

第二篇 獨乙聯邦ノ形勢

○獨乙聯邦ノ積面及ヒ人口

百十九丁

○帝室

百二十三丁

○現今ノ政體

百二十五丁

○宗教

百三十八丁

○教育

百三十九丁

○陸軍

百四十六丁

○海軍

百五十五丁

○歳入歳出及國債

百六十三丁

○ 輸出入税外國貿易及物産工業并ニ航海
○ 鐵道電信郵便

百六十九丁
百七十九丁

第三篇 獨乙聯邦各州ノ形勢

- 普魯士王國
- 巴威里王國
- 瓦敦堡王國
- 薩索尼王國
- 巴丁大公國
- 梅略稜堡斯乖零大公國
- 黑西大公國
- 荷敦堡大公國
- 不倫瑞公國
- 薩克威密大公國
- 梅略稜堡斯德零大公國

百八十五丁
二百二十六丁
二百三十一丁
二百三十七丁
二百四十二丁
二百四十四丁
二百四十五丁
二百四十六丁
二百四十八丁
二百五十丁
二百五十二丁

- 薩克梅認凝公國
- 安合公國
- 薩克各堡頓達公國
- 薩克亞敦堡公國
- 樓爾德侯國
- 里丹侯國
- 斯瓜斯堡盧德斯達侯國
- 斯瓜斯堡孫德沙森侯國
- 留士給拉侯國
- 燒間堡里丹侯國
- 留士哈勒斯侯國
- 早堡自由都府
- 律北克自由都府
- 不來梅自由都府

二百五十三丁
二百五十四丁
二百五十六丁
二百五十八丁
二百五十九丁
二百六十丁
二百六十一丁
二百六十二丁
二百六十三丁
二百六十四丁
二百六十五丁
全丁
二百六十八丁
二百七十丁

獨乙國勢誌

小林營智 纂譯

○第一篇

獨乙國ノ略史

紀元前百三十年
獨乙國ノ起源

獨乙國ノ名ヲ始メテ世人ノ知リシハ實ニ紀元前百三十年ニ在リ其以前ノ事跡ハ邈焉トシテ歴史ノ據ル可キ者無シ此年ニ至リ其中ノ一部落伊太利ノ東北界ヲ侵ス者アリ之ヲシンブリ種屬ト云フ蓋シ今ノヂヨトランド、スレスヴヰグノ二州ヨリ出ルナリ初メ其伊太利ニ入ルヤ志ス所ハ羅馬府ヲ侵スニ非ラズ唯ダノリカムヲ略スルニ在リノリカムハ羅馬中ノ一州ナルヲ以テ羅馬ノ「コンシユル」(官名)「パプリユス、カルボ」兵ニ將トシノリカムニ至リ其妄リニ國境ヲ侵攻スルヲ實言スシンブリハノリカムハ未ダ曾テ羅馬ノ所轄地タルヲ知ラズト辯疏シ煩リニカルボノ歡心ヲ求ムカルボハ固ヨリ其情ヲ知リ陽ニ之ヲ容レ翌日全軍ヲ以テシンブリノ不意ヲ伐テ大ニ之ヲ驚ス然レハシンブリハ毫

シンブリノ勇

戰馬爲ノニ
殺動ス

紀元前五十年

紀元前十年獨
乙諸部落
ノ版圖ニ歸ス

モ屈セバ益々勇氣ヲ發シテ軍ヲ整ヘ決戰シ遂ニ羅馬ノ軍ヲ破リ伊太
利全州爲メニ震動ス然ルニシンブリハ伊太利ヲ侵攻セズチウトン種
屬ト兵ヲ合セ轉シテ比斯ニ至ル其諸部落皆兵ヲ以テ之レニ屬シ益々
猖獗ヲ逞フシ戰ヘバ必ス勝チ攻ムレバ必ズ取リ到ル所敵ナキニ至ル
此ニ於テ羅馬大舉シテ之ヲ伐チ破リシンブリ爲メニ亡ブト云フ
此後獨乙ノ事久シク世ニ聞ヘズヂヨリウス、シーザーノ時ニ至リアリ
オピシウスト云フ者上來因河ノ諸部落ヲ併セ勢ヲ振フ然レモシーザ
ー伐テ之ヲ降シ連リニ下來因河及ヒモーセル河ノ諸部落ヲ徇ヘ其地
悉ク版圖ニ屬ス此諸部落ヲ概シテベルシート稱セリ紀元前五十四年
酋長アンピオリキスナル者アリアルテンテス深林中ノ茅廬ヨリ起リ
テベルギー部落ヲ煽動シ再ヒ羅馬ノ羈絆ヲ脱センコトヲ謀ルシーザ
ー伐テ之ヲ破リ遂ニ羅馬ニ屬ス紀元前十年オーガスタス帝大兵ヲ發シ
テ獨乙諸部落ヲ伐チ盡ク其版圖ト爲シ帝ノ腹心ノ名將ヅルスヲシテ
其北部ヲ管セシムウルス其兵ヲ率非テ任地ニ赴キ道路ヲ開キ以テ行

アルミニウス
兵ヲ起シテ
馬ノ版圖ヲ脱
ス

軍ニ便ニシ城砦ヲ修メテ以テ不虞ニ備ヘ且多ク恩惠ヲ施シテ土人ノ
心ヲ收攬ス故ニ其來因地方ニ駐在スルヤ頗ル衆ノ歡心ヲ得タリ既ニ
シテ其ウエセル河ヲ越ヘチエルシーノ地ヲ畧スルノ後獨乙人民ノ自
由ナル慣習ニ反シテ強テ羅馬ノ法律ヲ行ハント欲スルニ至リ怨讎四
起シテ大ニ土人ノ心ヲ失ヘリ
時ニアルミニウスナル者アリ諸蕃族ヲ誘導シテ兵ヲ起コシ屢々羅馬ノ
軍ヲ敗リ竟ニ其版圖ヲ脱ス然ルニ國人猶ホアルミニウスヲ嫉ム者アリ
遂ニ其レガ爲メニ命ヲ落ス實ニ紀元二十一年ナリ爾來獨乙諸部落分
裂シテ統一セスアルミニウス死セシヨリ三百七十六年ニ至ルマテ獨乙
國ノ形勢ニ大變革ナシ其間羅馬帝プロブス獨乙ヲ併セテ羅馬ノ一州
ト爲サント欲セリ然レモ其意ヲ果ス能ハズ當時獨乙ノ諸部落中甲ノ
部落ヨリ乙ノ部落ニ轉スル者及ヒ朝ニ羅馬ノ州郡ヲ侵カシタニ其部
落ニ還ル者アリト雖モ未タ曾テ他國ノ地ヲ畧シテ永ク國礎ヲ立テシ
ト之レアラサルナリ其後三百年代ノ終ニ羅馬漸ク衰ヘ野蕃ノ猖獗ヲ

鎮壓スルヲ能ハズ是レニ由リテ獨乙諸部落相ヒ争ヒ並ニ國土ヲ侵畧
シ歐洲ヲ分裂シテ各所ニ王國ヲ樹立セリ是レ則チ歐洲各國ノ基本ニ
シテ方今基布ノ勢ヒ專ラ茲ニ胚胎セリト云フ

在昔獨乙人ハ專ラ游戲ヲ職トシ戰闘ヲ業トス若シ其職其業ナキ時
ニ當テハ熊皮ノ上ニ起臥シ終日或ハ醉ヒ或ハ眠リ以テ其時期ノ到
ルヲ待ツ獵ヨリ歸リ軍ヨリ退クキハ必ス團樂相集リ宴ヲ張リ盃ヲ
舉ケ互ニ祝賀ス酒ハ麥酒及ビ蜜酒ヲ用非或ハ更巳ニ深ケ宴方サニ
酣ナルキニ至リ喧嘩爭論交々起リ相毆打シテ鮮血ヲ流スニ至レリ
此宴會ハ常ニ國ノ大計ヲ議ス然レモ之ヲ決スルハ必ズ次會ヲ期シ
次會ハ前會ノ如クニ酩酊スル者ナシ蓋シ獨乙人モ亦々他ノ野蠻人
民ニ齊ク博奕ヲ嗜ミ屢々其軍器家居妻子等ヲ賭スルモ猶ホ足ラズ
シテ遂ニ自カラ賣リテ奴隷トナルモ尙ホ厭フコトナシ夫レ獨乙人
ハ其行爲斯ノ如ク放逸無頼ナリト雖モ男子ノ婦人ヲ待遇スルノ厚
キ他ニ其例ヲ見ズ此ノ風俗後世ニ播及シ中古益々之ヲ養成シ遂ニ

方今歐洲各國婦人ノ品行ヲシテ古昔希臘羅馬ノ婦人ヨリ高尚ナラ
シムルニ至レリ獨乙人ハ天ノ人ヲ生スルヤ婦人ニ厚クシテ男子ニ
薄ク神聖ノ性聰明ノ質婦人ノ稟ル所男子ニ比スレバ頗ル多量ナリ
ト思慮ス是故ニ婦人ヲ以テ將來ノ事ヲ前知スル者ト爲シ大事ヲ起
ス毎ニ必ズ先ツ之ヲ婦人ニ諮ル婦人ハ常ニ其夫若シクハ子ト共ニ
軍ニ從ヒ其或ハ敗ヲ取ラントスル時ハ死ヲ以テ極諫シ其夫其子ヲ
シテ益々奮戰セシメ敗ヲ轉シテ勝ト爲シ禍ヲ翻シテ福ト爲サシム
若シ其救済ス可カザル時ニ際スレバ更ニ阿寶ヲ加ヘ之ヲシテ憤然
自裁シ以テ敵人ノ窘辱ヲ受ケザラシム

往古獨乙國ニ於テハ今日ノ市場ノ如キ者ヲ見ズ自由ノ人民其生ヲ
營マントスルヤ自ラ其地ヲ求メテ蝸廬ヲ結ビ其妻子眷屬ト共ニ此
中ニ住シ又多ク奴隷ヲ養ヒ別ニ殿廬ヲ作り之ニ居ラシム此廬ハ己
レノ廬ニ比スレハ稍狭少ナリ而シテ地ヲ割キ奴隷ニ分貸シ其歲貢
ヲ徵收シ若シ不虞ノ事起ルトキハ軍役ニ從事セシム蓋シ獨乙ノ奴

古代ノ政治

隸ハ多ク敵ノ捕虜ナリ然リト雖モ主人ノ奴隸ヲ視ルコト猶ホ父ノ
 子ニ於ケルガゴトシ頗ル之ヲ愛撫スルヲ以テ名ハ奴隸ナリト雖モ
 其實ハ毫モ臣民ト異ナル所ナシ斯ク自由ノ民ハ各々其家族ノ長ニ
 シテ其地ノ君主ナリケレバ訟獄ヲ聽斷シ刑罰ヲ執行シ褒賞ヲ施與
 スル等ハ皆ナ其欲スル所ニス
 自由ノ人ト其妻子眷族トヲ合セテ之ヲ一族ト云ヒ數族ヲ合セテ一
 村ト爲シ每村必ス一區ノ共有地アリ每週或ハ朔望ノ日族長此ニ會
 シ村長其議長トナリ訴訟ヲ聽斷ス村ヲ合セテ郡ヲ爲シ郡長其議長
 タリ郡ヲ合セテ縣ヲ爲シ縣長之ヲ管ス縣ヲ合セテ國ヲ爲シ國王之
 ヲ統フ獨乙國ノ古言ニ國王ヲ稱シテ「クニ」ト云フ「クニ」トハ家族ノ義
 ナリ蓋シ國王ハ全國家族ノ長タル義ニ取ルナリ
 國王ノ常人ニ異ナル所ハ長髪ヲ被リ金環ヲ戴キ自由ノ人及ヒ衆多
 ノ奴隸之レニ從屬スルニ在リ然レモ威權薄クシテ近世ノ王者ニ似
 ズ且ツ歲貢ナキヲ以テ國王ト雖モ一般自由民ノ如ク唯其私地ノ歲

國王ノ權利及
ビ政治

古代ノ戰法兵
制

入ヲ收ムルニ過キズ但シ人民牛羊等ヲ獻シテ其恭敬ヲ表スルコトハ
 往々之レ有リ國王ハ親ヲ族長ヲ召集シ國家ヲ保護スルノ方法及ヒ
 政治ヲ矯正スルノ趣旨ヲ諮詢シ其議案ヲ示シ其示ス所ノ議案實行
 スベキ時ハ族長皆ナ自ヲ手ヲ拍チ是レ之ヲ可トス若シ實行ス可ヲ
 サル時ハ皆ナ口ヲ極テ之ヲ誹謗シ是レ之ヲ否トスルナリ凡ソ自由
 民ハ皆兵タルベシ故ニ常ニ兵器ヲ備ヘ概テ步兵ナリ或ハ騎兵トナ
 ルモアリ其乗ル所ノ馬甚タ小ナリト雖モ強健ニシ千里ヲ馳驅スベ
 シ兵士ハ皆ナ槍刀ヲ帶ビ刀ニ二ツノ長柄アリ左手ニ楯ヲ取ル長サ
 五尺幅二尺計リ木ヲ以テ之ヲ作り彩色ヲ施ス太古ノ時ハ甲冑ナシ
 羅馬ノ軍ヲ破ルニ及テ其甲冑ヲ掠奪シ始メテ之ヲ着スルコトヲ知レ
 リ其部落ニ於テハ每騎一卒ヲ率ヒ騎馳レバ馬鬣ヲ取リテ共ニ走リ
 騎倒ルレバ代リテ其馬ニ跨ル者アリ戰鬪ノ起ラントスルトキ國論
 戰ニ決スルヤ國王兵法ヲ知レハ親ヲ三軍ヲ率非若シ知ラザレバ諸
 侯ヲ選テ元帥トナシ王ニ代リテ兵ヲ率非シム既ニ敵ニ臨ムヤ全軍

槍ヲ鳴ラシ楯ヲ叩キ鼓ヲ打チ角ヲ吹キ高ク歌曲ヲ謠ヒ以テ軍勢ヲ助ケ曲ノ高低ニ由リテ戰ノ勝敗ヲトセリ其戰フヤ常ニ尖角形ノ陣ヲ張リ奮撃突戰ノ時ハ其銳殆ント抗ス可ヲズ故ニ羅馬ノ軍之レカ爲メニ敗ヲ取リシナリ

獨乙國古代ノ教法ハ詳ニ世ニ傳ハラズ概テ深林ヲ以テ拜場トナシ教堂ヲ設ケズチヨリユス、シーザー營テ言ヘルコトアリ曰ク獨乙人ハ日月火ノ三象ヲ拜スト雖其隣國ノ如ク僧侶アルコトヲ聞カズト或ハ曰ク獨乙ノ國祖ヲスウヰスコト稱ス後チ祭テ神トナシ且其名ニ因リ其國ヲ稱シテトエチ又ハ「ドエチ」ト云ヘリ兩者共ニ「スウヰスコ」ノ轉化ナリ今日獨乙語中ニ猶此語アリ然レモ羅馬人ハ此名ヲ以テ之ヲ呼ハズ或ハ各部落ヲ別稱シ或ハ概シテ之ヲゼルマニート稱ス蓋シゼルマニートハ兵士ノ意ニシテ高盧ノ音ニ轉化セシ者ナリ又女神アリエルサト名ツクエルサハ地ノ義ナリ大洋中ノ一島ニ湖水アリ森林アリエルサ此林中ニ居リ屢々出テ衆生ヲ濟度ス其出ツル

ヤ美麗ノ車ニ乘リ白馬ヲ駕シ湖濱ニ至リ馬車ト共ニ水ニ浴シ從僧ヲ助ケ且ツ奴隸ヲシテ之ヲ助ケシメ浴シ終リ盡ク奴隸ヲ殺スト云フ此他「ウーデン」ト名クル福神アリ「サル」ト云フ軍神アリ「フライア」ト稱スル婚姻ノ神アリ水曜日、木曜日、金曜日ハ此三神ニ取リテ名ツクルナリ當時獨乙ノ部落中最モ強大ナル者ハ第一ヲサキソント云フ此部落ハ專ラ侵掠ヲ事トシ次第ニ境域ヲ擴メテ獨乙ノ北部ヲ併吞ス初メ此部落ハイルブ河口ノホルスタインヨリ起リ貌利顛王今ノ英國之ヲ其國ニ招キテスコッフ及ヒピクツノ侵掠ヲ防禦セシム是ニ於テ兵ニ將トシテ貌利顛ニ入り盡クピクツヲ逐ヒ自ラ其地ヲ領セリ又サキソンノ一部落ニ「アングロ」ト云ヘル者アリ英倫ノ名ハ蓋シ之レニ取レルナリ第二ヲ「ランクス」ト云フ此部落ハサキソンノ西南ウエセル河ト來因河ノ間ニ在リ其民戰ヲ好ミ威名ヲ四方ニ耀カセリ後チ高盧ヲ畧シテ國ヲ建テ佛蘭西ト云フ是レ「ランクス」ニ因レルナリ第三ヲ「アレマニ」ト云フ此ノ部落ハ獨乙ノ中央ニ在リテ諸部落ヲ聯合セル者ナリ蓋シ

十
アレマニートハ總人貢ノ義ナリ今佛蘭西人獨乙全國ヲ稱シテアレマニート云ヘリ第四ヲゴス及ヒワシタルスト云フ此二部落ハ獨乙ノ東方ニ在リゴスノ史乘ニ著ハレシハ蓋シ紀元二百五十年羅馬帝ダシユスノ時ヲ以テ始メトス此年ゴス羅馬ノ境ヲ侵カセリ初メゴスハスカンヂナヅキヤニ起リ諸チウトン部落ハ皆ナゴスヨリ出シナリ後チ此ノ部落羅馬ニ服從シ羅馬帝コンスタンチン甚タゴスヲ愛シゴス人ヲ以テ近衛兵ト爲セリ三百年代ノ終ニ於ケル獨乙ノ景況ハ略記セルガ如クニシテ今ノ獨乙版圖中タニウブ河ノ右來因河ノ左及ヒ兩河ノ間ニ在ル長城ノ南ハ盡ク羅馬ニ屬シ而シテ羅馬ハ其地ノ王ヲ立テ獨乙諸部落ヲ領セシメタリ

附錄
土地分領ノ法

獨乙ノ習慣ニシテ新ニ地ヲ畧スレハ抽籤シテ以テ之ヲ分チ首長自ラ若干ヲ取り部下各其力ノ強弱ニ從ヒ其若干ヲ受ク首長ノ威權ハ唯ダ戰時ニ止ラス武ヲ偃セ兵ヲ藏ムルノ後ト雖ヒ或ハ其權威ヲ保持シテ部下ヲ統轄セザルヲ得ザルガ故ニ別ニ方法ヲ設ケ略地ハ首

長悉ク之ヲ取り更ニ地ヲ割テ部下ヲ封シ約シテ緩急共ニ臣下ノ職分ヲ盡サシメ然カセザル者ハ直ニ其地ヲ奪ヘリ初メ此法ヲ行ヒシ者ハ唯強大ノ首長ニ限リシニ小弱ノ者モ漸ク之ニ倣ヒ各其地ヲ割テ其部下ニ與ヘ地ヲ得ル者ハ皆獨立シテ首長トナル故ニ獨乙全國封建制據ノ勢ヲ爲シ政權一途ニ歸セズ其弊實ニ鮮少ナラズ然リト雖ヒ是ガ爲メニ頗ル戰鬪ノ勇氣ヲ養成セシカバ當時未ダ封建制度ノ弊害ヲ言フ者ナシ此頃國王ノ輔弼即チ臣僕ハ馬丁縫手掌室等ニテ始メハ其名稱ノ如ク各々手ヲ下シテ賤役ニ服セシモ後ニ其國漸ク殷富ニ赴キ奢侈ノ風行ハルニ及ビ其名稱ヲ存スト雖ヒ國ノ大權ヲ掌握スルノ官トナレリ

獨乙古代ノ法

古代獨乙國ニ法律アリト雖ヒ唯ダ習慣口傳ノ法律ニシテ未タ典籍ニ登載セシ者ナシ後來文化漸ク開ケ紀元後六百年代ニ至リ羅何語若クハ獨乙語ヲ以テ獨乙法律ヲ編纂セル者之レアリクロヴ非スモ亦タ獨乙語ヲ以テ律書ヲ編成シタリト雖ヒ後世ニ傳ハラズ今存スル者

ハ唯ダ羅旬語ヲ以テ記シタル者ノミ獨乙ノ法律中自由民律及ビ奴隸律ハ頗ル羅馬法律ト其趣ヲ異ニス獨乙法律ハ誹謗ヨリ人命ニ至ルマテノ各犯ニ付キ各種ノ刑ヲ設ケリ例ヘハ均シク是レ竊盜ナリト雖ヒ豚ヲ盜ム者ハ贖罪金十五シルリングヲ科シ其他ハ若干ヲ科ス均シテ是レ人ヲ殺ス者ナレハ奴隸ヲ殺ス者ハ三十五シルリングヲ科シ自由人ヲ殺ス者ハ三百シルリングヲ科スルガ如シ人ヲ罵詈スル者ハ三シルリング以上六シルリング以下ヲ科スシルリングハ一貨ノ價ナリ今ノ英貨ノ若干金ニ當ルヤ得テ知ル可ラズ若シ犯罪者貧ニシテ其罪ヲ贖フコト能ハサレバ神ヲ呼ビ地上地下我贖産ノ我罪ヲ贖フベキナシト誓ヒ其所有地ノ四隅ヨリ土塊各一掬ヲ採リ之ヲ其親戚ニ交附スルコトヲ表シ然ル後チ其親衣ヲ脱シ手ニ一挺ヲ提グ其所有地ノ四周ヲ巡行ス既ニ此禮ヲ終レバ親戚其負債ヲ擔當シテ之ヲ辨償セザル可ラズ若シ親戚モ亦皆貧ニシテ之ヲ辨償スルコト能ハザレハ本犯ノ者死刑ニ服ス又リプアリーニ於テハ土地家屋ヲ

賣買スルニ甚ダ奇異ノ禮ヲ行ヘリ其法ハ買者其土地家屋ノ大小ニ從ヒ三人若クハ六名若クハ十二人ノ證人ト全員ノ童子ヲ携ヘ其所ニ赴キ證人ノ面前ニ於テ價金ヲ賣者ニ交換シ然ル後チ掌ヲ以テ各童子ヲ拍チ且其兩耳ヲ傷リ終身此事ヲ忘却セザラシム英國ニ於テモ古昔ハ久シク此法ヲ行ヒタリ又犯罪ヲ審案スルハ公然陪審官ヲ選ビテ之ヲ行ハシム此官皆被告ト同階級ノ人ナリ若シ又被告ノ罪狀殆ント明瞭ナリト雖ヒ其證ヲ得ザルニ由リ之ヲ斷決スルコト能ハザルハ或ハ之ヲシテ其朋友ト同シク誓ヲナシテ其冤ヲ證セシメ或ハ試法ヲ以テ之ヲ審鞠ス其法或ハ素手ヲ以テ烙鐵ヲ執ラシメ或ハ熱湯ヲ探ラシメ或ハ原告ト擊圓シテ雌雄ヲ決セシメ若シ其手焚ズ爛レズ能ク一擊シテ原告ヲ殞ス者ハ並ニ無罪トナシ神之ヲ保護スト爲ス然ラザレバ有罪トナシ神之ヲ極罰スト爲ス歲ヲ累テ月ヲ積ミ耶蘇殺ノ漸ク行ハルニ及ンテ別ニ種々ノ試法ヲ設ク就中水試ト稱シ神水ヲ執リ之ヲ被告ニ飲マシメ罪ナケレバ水能ク其喉

ヲ降り罪アレバ水ヲ注ケハ喉即チ腐潰スルト思慮セリ
 獨乙諸國皆民會ヲ設クアングロサクソンニ於テハ之ヲ稱シテ賢人
 集會ト云ヒフランクスニ於テハ之ヲ三月郊會ト名ツク蓋シ此月郊
 原ニ於テ此會ヲ行フニ取レルナリ斯ノ如ク各國會名ヲ異ニスト雖
 然總テ此會ニ於テハ宣戰講和ノ利害ヲ議論シ其議若シ戰ニ決スレ
 バ國王乃チ全國ノ男子ヲ徵發シ之ヲシテ皆兵仗戎裝ヲ備ヘテ徵地
 ニ來會セシメ侯伯ヲシテ各其國ノ兵ヲ率井シメ國王親ラ全軍ヲ統
 御ス

古代獨乙ノ文字ヲ「ルーン」ト名ツケ諸部落之ヲ知ラザルハ莫シ文
 字ヲ書スルニ筆ヲ用非ズ刀ヲ以テ石若クハ木ニ彫刻ス木ハ專ハラ
 黃楊木ヲ用ユ古語之ヲ稱シテ「ブツク」ト云ヘリ方今獨乙英吉利ノ兩
 語中書籍ヲ「ブツク」ト云フハ此ニ基キタルナリ「ルーン」ハ專ラ之ヲ
 神事ニ用非ズリ故ニ古代獨乙人ハ此文字ヲ以テ魔術ト思惟セリ僧
 正オルヒフランス伊呂波線ノ文字ヲ創製セルニ及ビテ「ルーン」ハ全

ク廢物タリオルヒフランスノ文字行ハレシト雖也古代ハ全國一般ニ
 其文字ノ行ハルニ非ズ唯神ノ功德ヲ頌揚シ英傑ノ行事ヲ陳述
 シタル歌曲等ニ用非シノミ萬國皆ナ然リ斯ノ如ク獨乙ニ於テハ文
 字ノ道未タ開ケザレバ隨テ其歴史モ完備セズ建國ヨリ四百年代ノ
 末マデノ歴史ハ皆希臘ノ歴史家ノ力ニ因リテ存セシナリ然リト雖
 也希臘ノ歴史家ハ數百里ヲ隔絶シタル地ニ居リ親シク事實ヲ聞見
 セシニ非ラス加之自ラ開化ノ民タルヲ自負シ獨乙人ヲ輕視シケレ
 バ其述フル所ノ歴史自然其眞ヲ失ヒ確證トナスニ足ラス五百年代
 ノ末ニ當リフランクス部落ノ人大僧正グレゴリート云フ者アリ西
 教會史ヲ著ハシテ五百九十一年迄ノ事ヲ記ス此史事實精確ナラズ
 間々妄誕ヲ雜フト雖也當時ノ歴史中ニ於テハ信據スベキ者ナリ
 三百七十六年ヘルマンリク王ノ時ニ當リ匈奴大舉シテ來攻ス其勢敵
 ス可ラスヘルマンリク王ハ自國ノ亡滅スルヲ見ルニ忍ヒズシテ自殺
 ス羅馬帝ヴレンヌゴスノ請願ニ由リ官吏ヲ遣リ以テゴスヲ監理ス然

匈奴羅馬ノ軍
合セテ百万人
羅馬遂ニ敗績
ス

羅馬國東西ニ
二分ス

ルニ其官吏貪暴度ナク殘虐極メテ甚シキヲ以テオス憤怒ニ堪ヘズ三
百七十八年兵ヲ擧ケ却テ舊來ノ敵國匈奴ノ軍ト合シ進テアドリアノ
一ブルノ平原ニ至リ羅馬ノ軍ト對陣ス兩軍合セテ百万人此ノ如キ大
軍ハ歴史中未タ曾テ見ザル所ナリ此ノ戰爭ニ於テ羅馬ノ軍敗績シヴ
レンス帝ハ遂ニ戰死ス後數年オス王アサナリク羅馬ニ款ヲ通シ頗ル
其親昵ヲ受ケ能ク文明ノ俗ニ化スルト雖モ奢侈ノ風ニ流レズ是ヲ以
テ人才輩出ノ羅馬ノ朝廷ニ登庸セラレ顯職ニ陞進セシ者亦少ナカラ
ズ三百九十五年羅馬帝セオドシエス殂シ帝國ヲ兩分シテ其二子ニ與
フ長子ホノリウス伊太利ニ居テ西帝國ヲ管シ次子アルカヂエス君士但
丁諾格爾ニ在テ東帝國ヲ治メタリ東帝アルカヂエスノ朝ニ仕ヘシゴ
ス人アラリクト云フモノアリ選バレテゴスノ王トナリ突然希臘ヲ
侵掠ス東帝アルカヂエス兵ヲ遣ハシテ之ヲ伐テ其侵地ヲ返還セシメ
タリアアラリク兵ヲ轉シテ羅馬府ヲ圍ミケレハ羅馬和ヲ求ムルニヨ
リ金銀寶玉ヲ得テ之ヲ許シ又轉シテ東帝ホノリウスヲラウエンナニ

紀元四百九年
アラリク
馬ヲ陷ル

紀元四百五十
年代

羅馬大亂二十
一年間九度天
子ヲ廢立ス

圍ムト雖モ其畢竟抜ク可ラザルヲ知リ兵ヲ返シテ再ビ羅馬ニ薄リ四
百九年八月二十三日ノ夜羅馬遂ニ陥リ更ニ進テ伊太利ノ南部ニ徇ヘ
其後チアラリク頓ニ死ス義弟アドルフス嗣テゴス王トナレリアドル
フスハナールノ南西班牙ノ北ニ於テ一ノ王國ヲ樹立セリ此時獨乙ノ
一部落ヴンダルスハ羅馬ノ隙ヲ窺ヒ諸部落ト力ヲ戮セ西班牙ノ西南
ヲ略シ各所ニ部落ヲ建ツヴンダルスノ王以太利ヲ侵カシ羅馬ヲ取リ
金銀財寶ヲ收メテ其國ニ歸リ幾何モナク壽ヲ以テ終フ是レ四百五十
五年ノ事ナリ此ノ時ニ當リ匈奴ノ酋長アツチラナル者アリ其國獨乙
ノ東部ニ位シ匈牙利其中央ニ在リアツチラノ武威四方ニ振ヒ將サニ
歐羅巴ヲ以テ併呑セントスルノ勢ヒアリ是ニ於テ各國連合シテ匈奴
ノ軍ヲ伐テ大ニ之ヲ破リ其士卒二十萬人ヲ殺ス是ニ由リテ西帝國僅
カニ安キヲ得タリ時ニ西帝國ハ綱紀廢弛風俗敗頽シテ其危キヲ累卵
ノ如シゴス人ヴンダル人皆ナ羅馬ニ入り盡ク市民ヲ劫掠シ恣ニ廢立
ヲ行ヒ二十一年間九度天子ヲ換フルニ至レリ

時ニ羅馬帝ニ仕ヘ獨乙ノ傭兵ニ將タルオドーセルナル者遂ニ羅馬帝ヲ廢シテ其位ヲ篡フ實ニ四百七十六年ナリ是ヲ以テ西帝國ハ刃ニ血ヲオシテ亡滅セリオドーセル羅馬ノ位ヲ篡ヒ十二年間之ヲ保ツト雖トモオストロゴスノ酋長セオドリクナル者來リ侵シ大ニオドーセルヲ破リ遂ニオストロゴス帝國ヲ創立シ其位ニ在ルヤ專ラ獨乙諸部落ヲ聯合スルヲ以テ志ト爲シ兵ヲ休ムルヲ三十年農ヲ勸メ商ヲ通シ親ヲ役ヲ督シ多ク耕地ヲ作レリ五百二十六年セオドリク死スルニ及テ獨乙諸部落忽チ離散シ東帝シヤスチニアン其間ニ乘シテ獨乙ヲ弱メント欲シ屢兵ヲ發シテゴス人ヲ伐チ大ニ之ヲ破リ遂ニ伊太利伊太利ハ元トゴスノ領地ナリヲ東帝國ノ版圖ニ復シタリ五百七十二年ロンバルデアノ王アルホイン大軍ヲ率非テ伊太利ニ入り遂ニ其地ヲ取ル既ニシテアルホイン死ス後十年ロンバルデア人オーザリスヲ立テテ王ト爲スオーザリス死ス其寡婦セオリンダヲ立ツ此時ニ當リ諸邦無事國民耶蘇教ニ化シ典章文物燦然トシテ觀ルニ足ル可キ者アリ六

六百年代
諸邦大平ニ歸
シ國民耶蘇教
ニ化ス

百二十五年セオリンダ死ス此時ロンバルデアノ版圖ハ殆ンド伊太利全國ヲ併セタレドモ上伊太利ノ三府及ヒ羅馬府ハ未タロンバルデアニ屬セズ希臘ノ朝(即チ東帝國)此ニ縣ヲ置キ知事ヲ遣リ之ヲ治ム爾來百有餘年獨乙諸部落大ニ亂レ兄弟相ヒ噬ミ姉妹相ヒ殺シ亦寧日ナク之ヲ記スルモ猶ホ人ヲシテ悚然ノ思ヲ爲サシム當時耶蘇教ヲ信スルノ歴史家ハ此有様ヲ觀テ世界ノ將サニ破滅セントスルノ前兆ナリト云ヘリ其慘狀推シテ知ル可シ

七百四十一年ヘピン佛蘭西王ト爲リ羅馬ヲ援ケテロンバルデアノ猖獗ヲ止メ又羅馬及ヒ其他ノ地ヲ法王ニ獻ス法王之ヲ賞シ羅馬ノ貴族ニ列シ神都守護職ノ號ヲ與フ是ニ於テ政權遂ニ教權ト合シ大ニ暴威ヲ逞フシ後數百年間獨乙全國之ヲ苦ムト云フ七百六十八年ベピン死ス二子アリーヲカルロマント云フニコームトリヤヲ領シ一ヲシャルレマント云フオーストラシヤヲ領シタリ既ニシテカルロマン禍ニ罹リテ死ス是ニ於テシャルレマン獨リ全國ノ王ト爲ルシャルレマンハ

帝位ニ登リ獨
シ全國始メテ
統一ス

八百年代

ルイドイツツ
ル諸侯ヲ封ス

天性英武豪邁ニシテ功ヲ喜ヒ大ヲ好ミ外敵國ヲ征スルニ非ラザレバ
内政治ヲ修メ常ニ事ナキヲ恐ル且ツ舊ヲ厭ヒ新ヲ創ムルヲ好ミ在
位四十三年ノ間ニ佛國ノ面目一變シ延テ歐羅巴全洲ニ及ヒ獨乙古代
ノ制度ヲ皆廢止シ小國ノ獨立セシ者悉ク混一シテ一大帝國ト爲リ國
民ノ思想社會ノ事物全ク一變シテ改良セサルハ莫シ是ニ至リ獨乙諸
部落始メテ統一セリシヤルレマン既ニ歐羅巴ノ過半ヲ征服シタレハ
遂ニ再ヒ羅馬西帝國ヲ興シ自ラ其帝位ヲ踐ムニ至ル八百十四年シヤ
ルレマン殂ス後チ其版圖分レテ佛蘭西伊太利獨乙ノ三國トナルニ及
ヒルイドイツツル獨乙全國ヲ領シ又王號ヲ稱ス而シテ封建制度ヲ用非全
國ヲ諸侯ニ分領セシメタリ八百七十六年ルイドイツツル殂ス其子チャ
ーレス位ヲ嗣ク時ニ佛人其君ノ幼稚ナルヲ悦ハス獨乙王ニ兼テ佛蘭
西ノ王タランヲ乞フ獨乙王之ヲ聽ス是ニ於テ獨佛兩國再ヒ合併シ
一君ヲ戴ク時ニ八百八十四年ナリチャールレス怯懦不徳ニシテ人望ヲ
失ヒ遂ニ位ヲ廢セラルル兩國復タ分離ス八百八十八年ルイドイツツルノ

附録

シヤルレマン
帝ノ法律

孫アルールフヲ立テ王ト爲スアルールフ屢諸蕃ヲ伐チ又羅馬法王ヲ
助ケテ功アリ其子ルイ位ヲ嗣クト雖モ幼冲ニシテ威令行ハレズ諸侯
割據シ漸ク封建ノ勢ヲ爲セリ加フルニ匈牙利人屢來侵シ敵ス可ラズ
ルイ深ク之ヲ傷ミ匈牙利人ニ十年間貢税ヲ納レンヲ約ス此ニ於テ
國人六ニ之ヲ怒リルイモ亦狂ヲ發シテ死ス時ニ九百十一年ナリ是ニ
由テカルロヴヰニヂヤンノ統全ク絶ス

八百年代ニ至リシヤルレマンノ帝位ニ即クヤ獨乙ノ古律ヲ編纂セ
ント欲シ載セテ典籍ニ在ル者ハ之ヲ輯録シ典籍ニ載セスト雖モ習
慣口傳ニ因リテ人民ノ遵奉スル所ノ者ハ新ニ法律拾遺官ヲ設ケ之
ヲシテ民間ニ就キテ精ハシク搜索シ細カニ筆記セシメ必ズ每秋貴
族議院ヲ開キ此ノ成文不文ノ兩種ノ法律ヲ併セテ之ヲ下附シ親ヲ
此會ニ臨ミ其場ニ列スル將校縣令大僧正等ニ命シテ各其職ヲ獻セ
シメ衆議ノ可ナル者ヲ採リテ法律ヲ改正シ翌年五月ニ至リ全國議
院ヲ開キ過ク之ヲ人民ニ揭示セリ後チ八百二十七年ニ至リシヤル

此法律ヲ觀テ
當時人類ノ酷
ナルヲ知ル
可シ

巡迴裁判官ノ
制

レマンノ法律トルイスノ法律ト併セテ之ヲ編纂セリ當時人類ノ
強暴ナリシコトハ此ノ法律ノ酷ナルヲ觀テ推知スベキナリシヤル
レマンノ法律ハ強盜一犯スレバ其耳ヲ斷テ再犯スレバ其鼻ヲ切り
三犯スレバ之ヲ殺ス蓋シ其盜賊ヲ處スル他刑ニ比較スレバ甚々苛
酷ナリ偽誓スル者ハ右手ヲ斷ツ暴飲シテ止マザル者ハ灌水法ヲ以
テ之ヲ刑シ其暴飲ノ惡習ヲ絶ツ方今獨乙國此法ヲ以テ病ヲ治シ大
ニ功驗ヲ見ル所アルガ如シ國王若クハ官府ニ對シテ反逆ヲ謀ル者
ノ首ハ死刑ニ處シ從ハ甲乙互ニ管刑ヲ施サシメ若シ反狀大逆ニ涉
ル者ハ從ト雖モ甲乙皆其鼻ヲ斬ラシム又地方人民ノ各自私ニ訴訟
ヲ聽斷スルヲ禁シ更ニ親ヲ裁判官ヲ選ビ地方ニ分置シ其訴訟ヲ
聽斷セシム又巡迴裁判官ヲ設ケ毎年時ヲ定メテ之ヲ派遣シ各地ヲ
巡迴セシムルヲ猶ホ英國ノ裁判官ノ法ノゴトシ地方聽訟官ノ裁判
ニ服セサル者ハ之ヲ巡迴裁判官ニ控訴スルヲ得タリ古律ニ七頁
陪審ノ法アリシヤルレマンノ法律亦此法律ヲ採用シ巡迴裁判官ヲ

治罪ノ法

ノ此七頁ヲ選バンメ親ヲ之ニ允可ヲ與ヘ此ノ頁外ニ補助三頁ヲ命
ス又特命全權陪審官ヲ置キ陪審官ノ統領トナシ終身此職ヲ奉セシ
メタリ又代言ノ法ヲ設ケ疾病若クハ無學ニシテ自ヲ訴訟ヲ爲ス
能ハサル者ヲシテ代言人ヲ以テ訴訟ヲ爲スヲ得セシム囹圄ニ絞
架各一ヲ備ヘテ各地裁判官ヲシテ常ニ其修繕ヲ加ヘ急用ニ供ス又
一架ヲ四通八達ノ市街ニ立テ輕罪ヲ懲サシメタリ原被兩造ヲ審判
スルニ古代ノ試法ヲ用非テ圓試火試熱湯試ヲ行フ其外更ニ烙鋤試
十字試水試ノ三法ヲ創定ス烙鋤試ハ九個ノ鋤ヲ烙キ地上ニ散列シ
各其距離ヲ異ニシ被告ヲシテ跣足ニシテ此ヲ歩シ一鋤ヲ踐マシム
其足焚ケサレハ之ヲ無罪トセリ十字試ハ之ヲ偽誓ノ審判ニ用ユル
ナリ其法原被兩造ヲシテ十字架前ニ立テ兩手ヲ頭上ニ舉ケシメ早
ク此體勢ニ疲倦シテ手ヲ降サント欲スル者ヲ有罪トナシ神之ヲ判
スト爲セリ水試ハ被告ニ繩ヲ着ケ其地ノ河中ニ投シ若シ沈メハ之
ヲ無罪トナシ浮メバ有罪トナシ清淨潔白ニ非ラズトナシ水ノ之ヲ

中心ニ受クルヲ諱ムナリ然ルニ沈メル者ハ判シテ無罪トナスト
雖也溺レテ死ニ至ル者多シ

シヤルレマン
帝ノ職制

シヤルレマンノ職制ハ司法卿ヲ以テ一等官トナシ聽訟督保ノ事ヲ
司ラシメ諸裁判官ノ正邪ヲ監視シ之ヲ黜陟スルノ權ヲ與フ初メ此
官ヲ置キシハ諸侯ノ權勢威力ヲ減殺センガ爲メニシテ帝室ニ屬ス
ル土地ヲ管理セシメシナリ二等官ヲ敎部卿トナシ全國敎法ノ事ヲ
司ラシム三等官ヲ大藏卿トナシ帝室ノ歲入ヲ司リ官衙ノ經費ヲ計
リ官務ヲ掌ラシム又古代ノ地方官ノ制ハ全國ヲ數大區ニ分チ每區
ニ侯ヲ置キ之ヲ管セシム侯トハ元ト將軍ノ義ニシテ初メ皆ナ兵ヲ
率非テ地ヲ略シ戰止ミテ之ヲ領セシ者ナリシヤルレマンノ時ニ至
リ侯ノ驕恣ニシテ統一ノ政ヲ施シ難キヲ知リ毎ニ事機ニ乘シテ其
地ヲ沒收シ之ヲ分チテ小區トナシ區守ヲ置キテ之ヲ管セシム又巡
廻裁判官ヲ置キ毎年一月四月七月十月ニ全國ヲ巡廻セシムシヤル
レマン以前ハ國王ノ兵ヲ徵スルヤ唯ダ封土ヲ有セシ者ヲ徵發スル

シヤルレマン

帝ノ兵制

ノミナリシガ此時ニ至リ兵民相ヒ分ルハノ弊ヲ察シテ新ニ徵兵ノ
制ヲ創ム凡ソ人民宅地三個ヲ有スル者ハ戰時必ズ兵器ヲ執リ之ニ
從ハシメ宅地三個ヨリ少キ者ハ隊伍ヲ結ヒ伍中ノ一員若クハ數員
ノ兵仗戎裝ヲ辨セシメ宅地十二個ヲ有スル者ハ自ラ其兵仗戎裝ヲ
全備シテ出陣セシメ宅地十二個ニ滿タザル者ハ矛楯各一個若クハ
弓一個竝ニ二個箭十二個ヲ帶ビ從軍セシム然レ其後全國ノ兵ヲ徵
發セシフハ甚タ稀ナリ初メ諸僧正皆其本分ノ職ヲ忘レ神聖ノ名ヲ
汚カシテ妄ニ軍陣ニ臨ミシガシヤルレマンノ時ニ至リ之ヲ嚴禁シ
每軍唯其兩三員ヲ從ヘ創者ノ拜禮ヲ助ケ死者ノ葬事ヲ掌ラシメシ
ノミニシテ兵士トナリ戰フコトヲ許サズ斯ノ如ク新法ヲ創メ兵丁
ヲ徵發セシカバ手足胼胝且夕力耕シテ僅ニ口ヲ餬スルノ徒軍ヨリ
歸ル時ハ田園荒蕪シ生活ノ方法ヲ得ス遂ニ其田ヲ僧正貴族ニ賣リ
未タ數年ヲ出デズシテ全國ニ族ニ分レ一ハ多ク奴隸ヲ養ヒ自由ノ
勢力ヲ逞フシ一ハ羈絆ヲ蒙リ奴隸ニ沈ミテ大ニ舊時ト其景況ヲ

異ニセリ人民ニ漁獵免許採木免許ヲ與フル者ハ帝侯僧正ノ特權ナ
リケレバ餘ノ貴族ハ平生驕恣ノ者ト雖此免許ヲ得ントシテ寺院
ノ臣屬トナリシ者往々之レアリト云フ

是ノ時人民フヲランコニヤ侯コンラットヲ選ビテ王ト爲ス在位六年ノ
間國家多事擾亂止ム時ナシ其死スルヤ嗣子ナキヲ以テ薩索尼ノヘン

リーヲ選ンテ王ト爲ス蓋シコンラット王ノ時ヨリノ獨乙ノ帝位ハ國內
ノ諸侯貴族等協議シ其血統ニ從テ撰擧スルコト爲シタリ是ヨリ先キ

獨乙全國五部ニ分レ各部一隅ニ割據シ王室ノ衰微ニ乘シ公然其命ヲ
拒ミ動モスレバ之ヲ窺フノ志アリヘンリー位ニ即キ是等ノ諸侯ヲ征

服シテ獨乙全國ヲ統一シ政權ヲ一途ニ歸ス又匈牙利ノ侵敵ヲ破リ威
名四隣ニ赫々タリヘンリー最モ心ヲ武ニ注キ騎兵ノ操練ヲ演習セシ

ムルニ當リ常ニ豪族ノ貴女ヲ集メ諸士ノ技ヲ用ユルヲ觀テ衆ニ秀ル
者アレバ紅顏笑ヲ含ミ愛戀ノ狀ヲ爲シテ其技ヲ稱贊セシメタリ

又男子齡十三ニ達スレバ必ズ皆兵器ヲ帶ビ之ヲ用ユルノ法ヲ學バシ

獨乙全國五部
ニ分ル

ヘンリー心ヲ
武ニ注ク

九百年代

オソ帝男武四
隣ヲ攝服ス

メ又新タニ城砦ヲ起シ罪囚ヲ以テ守兵ト爲シ其勤勞ヲ視テ其罪ヲ免
サンコトヲ約シ且全國九男毎ニ一丁ヲ取り之ヲシテ耕耘ヲ廢シテ城砦
ヲ守ラシメ農産三分ノ一ヲ城砦ニ收メ之ヲ其守兵ニ給ス而シテ若シ
不虞ノ侵略ニ逢フ時ハ人民ヲシテ悉ク郭内ニ逃レシムルノ法ヲ立テ
タリ九百三十六年ヘンリー殂ス太子立ツ之ヲオソ一世ト稱スオソノ
位ニ即クヤ諸侯復叛キ王命ヲ奉ヒテ匈牙利人大舉來攻ス獨乙全國物
情恟々タリオソ英邁ニシテ智勇人ニ絶ス能ク内亂ヲ戡定シ又大ニ匈
牙利ノ軍ヲ破リタレバ匈牙利人獨乙ノ兵威ヲ恐レ今日ニ至ルマデ獨
乙本部ヲ侵スコトナシ此際伊太利國大ニ亂レ諸侯相ヒ争ヒ各名義ヲ唱
ヘテ王位ヲ得ンコトヲ謀リ之ヲ統一スル者ナシ因テ伊太利ヨリ使ヲ遣
ハシ其王位ヲ捧ケンコトヲ乞フ獨乙王オソ之ヲ聽シ兼テ伊太利ニ王タ
リ是ニ於テ内亂外寇全ク鎮定シ獨乙全國平安ニ歸シ君民相親ニ王室
ト敎主ト相ヒ軋ルコトナク國家益々富饒ヲ致セリオソハ羅馬法王ヨリ
加冠ヲ受ケ終ニ帝ト稱ス之ヲ獨乙帝ノ始祖ト爲ス九百七十三年オソ

殂ス其子レツド父ノ位ヲ嗣キオソ二世ト稱スオソ二世聰明ニシテ大
 志アリ然レモ未タ伊太利ヲ鎮定セズシテ殂ス其子オソ三世位ヲ嗣ク
 在位二十年ニシテ殂スサキソン家ノ子孫殆ント絶ヘ其存セシ者ハ唯
 ダバマリヤノヘンリー一人アルノミ因テヘンリーヲ撰ンテ王ト爲ス
 ヘンリーノ位ニ即クヤ或ハ兵ヲ伊太利ニ送り或ハ軍ヲ波蘭ニ暴シ或
 ハ師ヲホヘミヤニ出シテ戦争止ム時ナク千二十四年ニ至リテ殂スサ
 キソン朝ノ血統是ニ至リテ全ク絶ス諸侯ト僧徒ト相議シフランコニ
 ヤ侯コンラットヲシテ位ヲ嗣カシム之ヲコンラット二世ト稱ス是レ獨乙
 英主ノ一人ニシテ大ニ衆望ニ副ヘリ

千年代

附錄
僧徒ノ惡弊

九百年代ニ當リテ僧徒皆ナ門閥ヲ以テ其職ヲ得才能ヲ擇ビ之ニ任
 スルヲナシ而シテ僧正僧徒ノ身ヲ以テ諷リニ諸侯ノ間ニ介シ兵力
 ヲ以テ相軋リ門徒ノ教育ニ至リテハ措テ顧ミズ是ヲ以テ人智ヲ開
 明スル所以ノ道全ク地ニ落チタリ蓋シ斯ノ如ク僧徒ノ世俗ノ欲ニ
 惑溺セシ所以ハ當時國王諸侯ノ横肆ヲ禦ガン爲メニ僧徒ノ威勢ヲ

獨乙ノ文化

十字軍ノ影響

増加シ之ト相頡頏セシメシニ由ルナリ當時人民昏愚ニシテ妄リニ
 無根ノ邪説ヲ信シ大逆無道ノ罪ト雖モ斷食謝罪遁世等ノ事ヲ以テ
 贖フベシト思ヘリサキソン諸帝ノ伊太利希臘ニ通ゼシヨリ獨乙ノ
 技術大ニ進歩シ希臘ヨリ多ク技工ヲ招キ益之ヲ獎勵セシカバ家屋
 器具衣服ニ至ル迄面目ヲ改ム是レ全クオソ二世ノ力ニ因ルナリ
 十字軍ノ後ハ寺院ノ威權大ニ加ハリ人民ノ信仰益甚シク十字軍ニ
 出ツル者或ハ地ヲ寺院ニ賣リテ軍備ニ供シ或ハ夫ハ軍ニ死シ妻子
 ハ寺院ニ入り其土地家屋ヲ併セテ之ヲ寺院ニ寄附セシカバ寺院ノ
 勢力愈熾ナリ然レモ十字軍ノ歐洲ヲ裨益スルモ亦鮮ナカラズ蓋
 シ貴族ノ十字軍ニ從ヒシ者ハ皆武門ノ廉節ヲ喪ヒ之ヲ以テ人民ヲ
 薰陶シ其風俗ヲ一變セリ又十字軍ニ從ヒシ者ハ亞細亞ノ物産ヲ知
 リ其菓實花卉禽獸什器織衣衣服等ヲ輸入シ大ニ貿易ノ端ヲ開キ竟
 ニ數處ニ亞細亞物産貿易場ヲ設立シ市府ヲ興起シ人口繁殖シテ富
 豪申出シ漸ク貴族僧徒ノ暴制ヲ抑壓シ各其權利ヲ保全スルノ勢ニ

至レリ

コンラッド既ニ位ニ即クヤ先ツ國內ヲ巡狩シ諸侯ノ互ニ吞噬スル者ヲ鎮壓シ積年ノ國患ヲ除却シ次ニ伊太利ニ至リ帝冠ヲ受ケ多ク良法ヲ創定シ國益ヲ起コセシメ鮮ナカラズ又大ニ版圖ヲ擴メタリ○千三十九年コンラッド歿ス其子ブラック選ハレテ位ニ即キヘンリー三世ト稱ス強悍勇猛ニシテ能ク法王ヲ抑壓シ諸王ヲ威服ス此ノ時ニ當リテ伊太利ハ數部ニ分レ三法王アリテ相ヒ争ヒ決セズヘンリー三法王ヲ廢シ更ニ獨乙人クレモントヲ立テ法王ト爲シ大ニ其威勢ヲ示シ又匈牙利ヲ獨乙ノ版圖ニ歸セシメタリ千五十六年ヘンリー一歿ス其子ヘンリー四世位ヲ嗣ク暴虐無道驕奢放逸酒池肉林ノ樂ヲ極メ祭器ヲ以テ酒盃ト爲シ寺院ノ金銀寶玉ヲ奪ヒ宮女ノ粧飾ニ供シ猶ホ宮中ノ費ニ給スルコ足ラズシテ人民ニ課シ之ヲ補ハシメケレバ怨嗟ノ聲朝野ニ滿ツ然ルニヘンリー一ハ寔ニ之ヲ意ニ介セズ益々奢侈ヲ縱ニシ且宗教ヲ輕侮シ僧侶ヲ見ルコ糞土ノ如シ是ニ於テ諸侯皆ナ叛キ法王グレゴリー一七

ヘンリー三世
ノ勇悍暴虐

父子戦ヒ兄弟
相噬ミ人倫ノ
道地ヲ拂フテ
派滅ス

世大ニ怒リカヲ戮セテヘンリー一ヲ廢シ其宗門ヲ禁シスワビヤ侯ロド
ルヲ立テ王ト爲ス是ニ於テヘンリー一諸國ヲ流浪シ遂ニ同盟ヲ得テ
再ビ獨乙ニ歸リケレハ人民群ヲ爲シテ再ヒ臣節ヲ盡サンコヲ望メリ
因テ自ラ王位ニ復シウヰンナノ大僧正ヲ立テ法王ト爲シクレメント
三世ト稱シ屢々法王グレゴリー七世ト戰ヒ又逆子ヘンリー一ト兵ヲ交
ユ國ニ二王アリ寺ニ二法王アリ兄弟相噬ミ父子相ヒ争ヒ人倫ノ道ハ
地ヲ拂フテ消滅シ其奈ルハ一糸ノ如ク禽獸世界ヲ距ルコ遠カラザル
ニ至レリヘンリー一四世ノ子ヘンリー一五世父ヲ逐ヒ其位ヲ篡フ因テ四
世ハ復々各處ニ漂泊シ貧寒甚シク其鞋ヲ賣リ僅カニ口ヲ糊スルニ至
レリヘンリー一五世歿ス嗣子無シ則チサヤソニ一家ノロテールヲ撰ンテ
王トナスロテール在位間スワビヤ侯フレドリッキフランコニヤ侯コン
ラッド其他ホーヘンストヘン家ノ黨ト兵ヲ搆フ此ヲ以テ深ク法王ト結
ビ其援ヲ得ント欲シテ自ラ帝王ノ權ヲ殺ギ法王ノ臣屬トナリ帝王ヲ
廢立スルノ權ヲ法王ニ與フ法王之ヲ無窮ニ傳ヘント欲シテ其事ヲ宮

壁ニ銘ス、千百三十七年ロテール死ス是ニ於テ獨乙全國兩黨ニ分レテ相争フ然ルニホーヘンストヘン家ノコンラッド三世選バレテ獨乙王ト爲リ外第一、十字軍ニ出テ其功少ナカラズ又内能ク諸侯ヲ征服シ獨乙全國再ビ治平ニ歸シタリ

千百年代

千百五十二年コンラッド三世ノ甥フレドリッキ一世選ハレテ帝位ニ即ク蓋シコンラッドノ遺命ニヨルナリフレドリッキ一世聰明神武ニノ十字軍ニ於テ大ニ名聲アリ第二、十字軍ノ際獨乙諸侯殘暴ヲ極メ其城畔ヲ過ル者アレバ僧徒ト商賈トヲ問ハズ皆ナ之ヲ捕ヘテ城中ニ錮シ大金ヲ以テ其身ヲ贖ハシムフレドリッキ之ヲ愛ヒ兵ヲ以テ諸侯ヲ伐チ竟ニ此ノ殘虐ヲ止メ國內平安ニ歸シタリ又大ニ版圖ヲ擴メ波蘭王及丁抹王ヲ臣屬ト爲ス此ノ如キノ強勢ハ獨乙ニ於テ未タ曾テアラザルナリ是ヨリ先キフレドリッキ既ニ羅馬法王ヨリ帝冠ヲ受ケテ帝ト稱シ千百九十年自ラ兵ヲ率非テ小亞細亞ヲ征セシ時水ニ溺レテ死ス其長子ヘンリー六世位ヲ嗣クヘンリーモ亦能ク兵ヲ用非遂ニ獨乙ホルゴンテ

波蘭、丁抹、獨乙ノ版圖ニ歸ス

ヘンリー六世五國ノ位ヲ踐ム

千二百年代

ロンバルデー、羅馬、シ、ヘンリー五國ノ位ヲ踐ムニ至レリヘンリー殂シ其子フレドリッキ二世位ニ即ク時ニ千二百十一年ナリフレドリッキ二世外國ト戰ヲ開キ又法王ト兵ヲ搆ヘ國ニ居ラザルヲ十有五年國內大ニ亂ル加フルニ蒙古ノ軍四十五萬人來リテ獨乙ノ疆ヲ侵劫ス然レモフレドリッキ勇武ニシテ伐テ之ヲ破リ彼レヲシテ再ビ兵ヲ進メザラシメタリ千二百五十年フレドリッキ二世殂スフレドリッキ生時受ル所ノ冠ハ合シテ七箇アリ而シテ羅馬ハ帝ニシテ其他ハ皆ナ王タリ遺命シテ其子コンラッドヲ以テ羅馬帝兼獨乙王ト爲セリ然ルニ法王ノ舊怨未タ解セズシテ之ヲ聽カズ和蘭王ニ命シテコンラッドヲ伐タシムコンラッド奮闘シテ大ニ和蘭ノ軍ヲ破ル然レモ幾何モナク病ニ罹リテ殂ス是ニ於テ獨乙國君主ナク選帝官ハ利慾ニ溺レ善價ヲ求メテ王位ヲ賣ラント欲シ全國四分五裂スト雖モ之ヲ統一スル者ナク法令制度地ヲ拂ツテ派滅シ之ヲ整治スル者ナク國民ハ奉戴スルノ君主ナク獨乙數百年ノ帝業殆ント地ニ墜チ復タ渾沌ノ世ニ歸セントス獨乙空位ノ代ト云ヒ國

獨乙空位ノ亂

帝ヲ立テザルコト二十二年ノ久シキニ及ベリ空位ノ間ハ全國ノ政權悉ク羅馬法王ニ歸シ細大ノ事皆法王ノ決スル所ナリ終ニ諸侯合議シ法王ニ謀リ千二百七十三年瑞西ニ住スルハスブルグ侯ルトルフ一世ヲ迎ヘ奉シテ帝ト爲ス即チ埃地利國ノ祖先ナリ帝英明ニシテ智勇人ニ絶シ實ニ不世出ノ明君ナリ僧徒ヲ敬シ臣民ヲ愛シ善ク人和ヲ得埃地利ノ地ヲ合セテ之ヲ領シ兼テボヘミヤ國ヲ統御シ武威歐羅巴全洲ニ輝キ敵國外患ナク國家閑暇ニシテ專ラ意ヲ内治ニ留メ諸侯ノ暴慢ヲ禁制シ弊政ヲ蠶革シ務メテ仁政ヲ施行セリ臣民帝ノ德ニ感シ全國致ル處贊歎ノ聲ヲ聞カサルハ無シ千二百九十一年帝殂落ス臣民考妣ヲ喪スルガ如ク皆聲ヲ放テ慟哭シ哀慕ノ情ヲ表セザルハ莫シ獨乙人今ニ至リテ尙ホ其德ヲ頌スト云フ

ルトルフ帝ノ令德

黄金ヲ以テ帝位ヲ賣ル

選帝官ノ一人ナル大僧正ゼラルドハ己カ勢力ヲ逞フセント欲シ多ク金ヲ同僚ニ散シテ其從弟アドルフスヲ選ハシメテ王ト爲ス然ルニアルドフスハ暴虐無道ナルヲ以テ民其苛政ニ苦シミゼラルドモ亦嘗テ

選ハシメタル目的ト齟齬シタルノミナラズ却テ己レノ害トナルヲ以テ之ヲ廢セント欲シ再ヒ選帝官ニ斯ヒ埃地利侯アルベルト一世ヲ選シテ王トナスアルベルト大兵ヲ發シテアドルフスヲ伐テ之ヲ殺シ遂ニ獨リ獨乙全國ニ王タリ然レモ亦酷虐ニシテ國民之レニ服セズ瑞西ノ諸郡兵ヲ擧ケテ埃地利ニ抗スレトモ久シク鎮壓スルヲ能ハズ國內大ニ亂レ戰鬪止ム時ナク終ニ内訌ノ爲メニ命ヲ殞セリ是ニ於テ侯伯僧正相ヒ議シルキセンブルグ侯ヘンリー七世ヲ立テ帝位ヲ踐マシム時ニ千三百〇八年ナリヘンリー七世ノ位ニ即クヤ諸先帝ノ善政善行ヲ標準トシ全國ヲ統一シ國力ヲ強盛ニスルヲ以テ志願ト爲ス然レモ帝室ノ勢微弱ニシテ諸侯ノ驕傲ヲ制シ難キヲ見テ以爲ラク今急ニ諸侯ヲ征シテ國力ヲ費サンヨリハ寧ロ先ツ兵ヲ伊太利ニ出シ之ヲ助ケテ佛蘭西ノ侵地ヲ復シ名聲ヲ外國ニ輝カシ而テ後チ師ヲ轉シテ自國ヲ平定スルノ勝レルニ若カズトシ乃チ軍ヲ伊太利ニ出シ羅馬ニ至リテ帝冠ヲ受ケシガ不幸ニシテ毒殺セラル是レ千三百十三年ナリ

附録
「ハンサ」社ノ
來歴

千二百四十一年獨乙諸府ハ協心戮力シテ通商貿易ニ從事セント欲シ
シ結約シテ一社ヲ設立シ名ケテ「ハンサ」ト云フ抑此社ノ起リシハ十
字軍以來北海及ヒバルチック諸濱ノ人口俄ニ増殖シ貿易日ニ盛大ニ
趣キ各府相議シテ海軍ヲ備ヘ戰艦ヲ地中海ニ艦シテ他國ノ軍艦ト
戰ヘリ然ルニ其初メハ唯々緩急相救援セルノミニシテ永ク約ヲ爲
シ社ヲ結ビシニアラザリシガ千二百四十一年ニ至リ公然結社シテ
北海ノ海賊其他凡テ貿易ノ障害ヲ爲ス者ヲ抑壓セリ千三百年代ヨ
リ四百年代ニ至リテ「ハンサ」社ノ勢力極テ盛ニシテ之ニ與ミスル市
府ノ數凡ソ七十軍艦三十隻兵員一万二千ニ下ラス獨リ商權ヲ專有
セント欲シ屢諸國ト兵ヲ交ヘ常ニ之ニ勝テ強テ那爾威王ヲ要シテ
專商免狀ヲ得タリ其後千六百三十年ニ至ルマデ歐洲ノ商權ヲ專
ラニセシガ此年約ヲ解キ分散セリ

帝位撰擧ノ起
源

獨乙ハ建國ノ初ヨリ數百年ノ間全國人民相會シテ其君主ヲ選舉シ
帝位ヲ世襲セシメズ人口増殖スルニ及ビテ會者數千人喧噪錯亂

貴族ノ風習

シ却テ選舉ノ事ヲ行フコト能ハズ是ヲ以テ人民漸ク其選君ノ權利
ヲ棄却シテ之ヲ貴族ニ委任シタリ其後ハ唯々大貴族數人其立テン
ト欲スル所ノ人ノ姓名ヲ掲ケ周ク人民ニ示シテ其可否ヲ問ヒシノ
ミニシテ未タ撰擧ノ權ヲ專ラニスルコトヲ得ザリシガ千二百年代ニ
至リ掲名ノ權變シテ選舉ノ權トナリ大貴族ハ選帝官ト號シテ擅ニ
帝王ヲ選ヒ人民ハ毫モ此事ニ參與スルコトヲ得ザルニ至レリ斯ノ如
ク選帝ノ權貴族ニ歸セシハ何レノ時ニアリシヤ邈焉トシテ知ル可
ラズト雖也或ハフレドリッキ時代ノ前後ナラン選帝官ハ七人ニシテ
其中僧官三名他ハ侯伯ナリ
此際貴族ノ子弟ハ武士ト稱シ戰ニ臨ムヲ以テ榮トナシ獨乙ノ武威
ヲ四隣ニ輝カセリ然レモ一利アレハ必ス一害アルハ事物ノ常數ニ
シテ武門ノ起リシニ由リ人ノ品行ヲ高クシ道德ヲ尙ヒ英邁ノ士ヲ
養ヒシト雖也又惡弊ノ生セシコト鮮ナカラズ武士中ニハ小弱ヲ酷
待シ無告ノ旅人ヲ捕ヘ其行李ヲ奪ヒ其他亂暴猖獗至ラザルナク相

討伐權利

語テ法律ヲ畏ル、ニ足ラザルモノトシ徒ニ其勇ニ誇リシ者モ少ナカラザリキ當時政綱紊亂シテ斯ル無告ノ民ヲ救フ者ナク唯大諸侯ノ兵威ヲ以テ小諸侯ノ暴行ヲ停メシト諸府ノ社ヲ結ビテ武士ノ横肆ヲ防キシトアルノミナリ是ヨリ「フオースト、レヒト」(討伐ノ權利)ト云フ一超リ暴行ヲ禁シ人民ノ疾苦ヲ救ヒ頗ル政令ノ欠ヲ補ヘリ當時全國ノ人民武ヲ講シテ自ラ其身ヲ衛ルヲ務メ陣ニ臨ミ功ヲ成スヲ以テ榮トナシケレバ僧徒ト雖兵ヲ執リ軍ニ出デシ者アリ古史ニ曰ク獨乙ノ子弟口未ダ言フ能ハザルモ早ク既ニ馬ニ乗ルコトヲ學ビ馬躍ルト雖能曾テ顛墜セシヲナク恰モ岩石ノ確トシテ動カザルガ如ク兵器ヲ使フ其手足ヲ使フガ如シト當時獨乙ニ於テ子弟ヲ教育スルニ專ラ武技ヲ以テセシト此ヲ以テ見ルベキナリシヤルレマンノ後チ獨乙諸帝ノ學事ヲ獎勵セシ者ナカリシニ「フレドリッキ」二世ニ至リテ大ニ意ヲ學事ニ留メ稍觀ルニ足ルベキ者アリシガ尋テ空位ノ亂トナリ學事振ハス千三百四十九年迄ハ諸學科ニ

シヤルレマン
帝後學事ノ景
况

通ゼシ者唯僧徒ノミニシテ一般人民ノ之レニ達スル者絶テナカリシ然レモ獨乙人ハ概チ才思ニ富ミ事ニ觸レテ感慨スル所多ク且草味多事ノ時ニ際シ十字軍ノ怪談異事アリ武門ノ勇略豪氣アリ寺院ノ盛禮壯觀アリテ志ヲ起シ感ヲ發シケレバ詩歌ノ事大ニ興リ他ノ際味國ノ比ニアラズ是レ獨乙ノ文學隆盛ヲ致セシ偶然ニ非ル所以ナリ

文學技術ノ景
况

千三百年代ニ當リ僧徒ノ著シタル羅旬語ノ歴史陸續世ニ出テタルノミナラズ獨乙國語ヲ以テ記シタル者モ亦多クアリベルソルドスリワルトト云フ者火藥ヲ發明シ千三百六十年火藥製造水車ヲ設ケ千三百七十二年初メテ加儂砲ヲ鑄造シ千三百八十七年「ハンス」社ニ於テ初メテ鐵彈ヲ用井タリ蓋シ火藥ノ發明アリシヨリ以來市府ハ大ニ利ヲ得テ貴族ハ却テ勢ヲ失フニ至レリ

大學校ノ組織

千三百年ニ創立セル大學ハ皆チ教師生徒ノ社ヲ結ビ則チ定メテ立テシ者ニシテ每校皆特別ノ免許權利ヲ有セリ各大學校ヲ數部ニ分

チ每部教官ヲ置キシ一猶ホ方今蘇格蘭ノ諸大學校ノ制ノゴトシ大
 學ニ總理アリ各部ノ教師ハ生徒ノ投票ヲ以テ之ヲ撰ヒ生徒ノ甲大
 學校ヨリ乙大學校ニ游ブヲ許シ生徒ノ此游ヲ爲ス者ノ食ヲ路傍ニ
 乞フテ旅費ヲ助ケシ一少ナシトセズ教課ヲ分テ四科トナス曰ク神
 學曰ク醫學曰ク法學初メ先ツ此ノ三科ヲ教授シ之ヲ卒レバ其生徒
 ニ學士ノ免許ヲ與フ第四科ハ之ヲ七種ニ分ツ曰ク文典曰ク論說學
 曰ク論理學曰ク數學曰ク物理學曰ク心理學曰ク道德學是ナリ之ヲ
 卒レバ其生徒ニ博士ノ免許ヲ與フ當時新ニ講筵ヲ開ク者アレバ學
 生忽チ堂ニ滿チ貴族平民ノ差別ナク多ク其校ニ入りテ業ヲ受ク
 レーグノ大學校ハ創立ノ後チ日ナラズシテ學生七千人ニ至リタリ
 ト云フ

ヘンリ！七世ノ死スルヤウエルフ黨ハルイ、パーブリアンヲ推シウエ
 ルプリンゲル黨ハ埃地利侯フレドリッキヲ撰ヒテ之ヲ立テント欲シ戰
 争久シク決セヌ千三百二十二年ニ至リ兩軍對陣シテ鹿ヲ争ヒ迷ニ埃

兩權相和シ帝
 權ヲ兩分ス

地利ノ軍ハ敵ノ僞兵ノ爲メ大ニ敗レフレドリッキモ亦捕虜トナレリル
 イハ斯ノ如ク全勝ヲ得シト雖モ猶其枕ヲ高フシテ安眠スルヲ能ハズ
 此時羅馬法王ハ佛蘭西王ノ助ケニ頼リ獨乙全國ノ宗教ヲ禁ス是ニ於
 テルイハフレドリッキノ禁獄ヲ免シ之レト謀リテ自今以後兩雄ノ争ヲ
 已メ帝權ヲ兩分シテ各其一ヲ保有シ俱ニ羅馬帝ノ尊號ヲ稱セント約
 シ兵ヲ率非テ伊太利ニ入り法王ヲ廢シ別ニ法王ヲ立テニコラス五世
 ト名ツケ因テ羅馬ニ於テハ此法王ヨリ帝冠ヲ受ケタリ幾何モナク
 レドリッキ殂シルイ一人獨乙全國ノ王トナレリルイ貪婪ニシテ厭ク
 ヲ知ラズ舉國ルイノ所爲ヲ惡ミ之ヲ廢シテホヘミヤ王ノ子チャーレ
 ス四世ヲ立ツチャーレス四世ハ法王ノ力ニ由リテ位ニ即キシヲ以テ
 國人率子之ヲ奉スルヲ欲セズ選帝官モ亦多クハ帝位ヲ英吉利王ニ與
 ヘント欲セリ然モ英吉利ノ議院ニ於テ之ヲ拒ミテ受ケザラシメタリ
 チャーレスハ恥辱ヲ忍ヒ人嘲ヲ介セズ奇計ヲ用非テ羅佛ノ連合ヲ破
 リ遂ニ其目的ヲ達シ又兩法王ヲ置テ互ニ教權ヲ争フ一蚌鬪ノ如クナ

選帝官ヲ限定
シテ七員ト爲
ス

ヲシメ已レ永ク漁父ノ利ヲ專ニスルコトヲ得タリ是ニ於テチャーレス
ハ令ヲ發シテ選帝官ヲ七員ト確定シ之ヲ金詔ト名ツケ千三百五十六
年ノ耶蘇生誕日ニ此令ヲ發ス是レ世ノ能ク知ル所ナリ此詔令凡ソ三
十章選帝ノ法即位ノ禮ホヘミヤ王ノ權限並ニ貴族ト市府間ノ權限ト
税法トヲ確定セリ爾來獨乙國分裂ノ日ニ至ルマテ此詔令ヲ以テ憲法
ノ根本ト爲セリ蓋シ七選帝官ハ專ヲ獨乙國帝ヲ推選スルノ權ヲ任シ
其決議スル所ハ衆諸侯之レニ喙ヲ容ル、能ハザルコト定ム當時選帝
官タル者ハ即チメンツコロントレベスホヘミヤラインサキソニーブラ
ンデンブルグ是ナリ其中メンツコロントレベスハ元ト僧官ニシテ許
多ノ寺領ヲ有シ從ツテ政權ヲ掌握シ終ニ侯位トナリシ者ナリ其後ブ
ランデンブルグハ血統ヲ絶シ國帝シヂスモンドノ世ホーヘンヅルレ
ルン侯ヲ封シテ其後トナス即チ普魯士ノ祖先ナリ後世選帝官ノ廢興
アリト雖モ率テ七名ニシテ唯々暫時一名ヲ増セシコアリシノミチヤ
ーレスハ幼ニシテ良師ノ薰陶ヲ受ケ數國ノ言語ニ通シ其才藝ニ於テ

大學校ノ權限

ハ當時ノ王公之ト肩ヲ比ス可キ者ナク其實家ノ領土ホヘミヤ王國ノ
國法ヲ制シテ大ニ人民ニ自由ヲ與ヘ工藝技術ヲ獎勵シ又プレーグニ
大學校ヲ起ス是レ獨乙大學校ノ權限トス各侯國及ヒ諸僧官モ亦之ニ
倣ヒ大學校ヲ設ケタリチャーレス佛蘭西ニ至リ歸路ニシテ列シ其子
ウエンセスロース位ヲ嗣クウエンセスロースハ懶惰放逸ニシテ毫モ
國事ヲ顧ミズ此際ニ法王アリテ互ニ爭ヒ勁敵佛蘭西ハ英吉利ト兵ヲ
擲ヘ數年解ケズ左レバ此ノ弊ニ乘シ彼ノ機ニ投シ獨乙帝國ヲ糾合シ
威勢ヲ擴張スルヲ難キニ非ラサルヲウエンセスロースハ絶テ國家ヲ
愛スルノ心ナク空シク千載一遇ノ好機會ヲ過了シタリ是ヲ以テ國人
ウエンセスロースヲ廢シテライン侯ルベルトヲ立ツルベルトモ亦不徳
ニシテ諸侯之ニ服セス獨乙人民ニ黨ニ分レ一ハウエンセスロースノ
弟シヂスモンドヲ推シ一ハモラヴ井ヤ侯ヂョドクスヲ擇ヒ又ピリサ
ノ宗門議院ニ於テハ羅馬アヴ井グノンノ兩法王ヲ廢シ新ニ法王ヲ撰
ビシト雖モ兩法王ハ之ヲ聽カズ是ニ於テ千四百十一年ニ至リテハ獨

獨シ大ニ亂レ
復タ二分ス

千四百年代

乙ニ三王アリ耶蘇宗門ニ三法王アルニ至レリ然レモ數月ヲ出テズシ
 テザヨドクス死セシニ由リ三帝ノ爭ハ忽チ止ミシヂスモンド獨リ帝
 位ヲ專ニスルヲ得タリシヂスモンドノ位ニ即クヤ大ニ宗教ノ弊害
 ヲ矯正セント欲シ全歐羅巴洲ノ代議員ヲ集メ之ヲ議スレモ其効ヲ見
 ルヲ能ハズシテ千四百三十八年歿ス是ニ於テルキセンブルグノ統ハ
 絶ス

附録
 千四百年代ノ
 技術

千四百四十年グッテンベルグナル者金屬ノ活字版ヲ以テ印刷スルヲ
 ヲ發明セリ是ヨリ先キ十二年ニステルナル者木版ヲ以テ奕牌及ヒ
 學校讀本ヲ印刷セシト雖モ未ダ活字ノ方法ヲ知ラズ版木一枚ニ書
 籍半丁ヲ彫刻シテ之ヲ印刷セリ然レトモ此事遂ニ金屬活字版ノ端
 緒トナリグッテンベルグニ至リテ金屬ヲ以テ每字一版ヲ鑄造シ意ニ
 隨ヒテ轉挿シ一版ヲ以テ數書ニ使用セシメタリ活字本ノ後世ニ傳
 ハリテ印刷ノ年ヲ記セシモノハ千四百五十七年ニ印行シタル聖歌
 ヲ以テ第一トナス然レモ此ヨリ前既ニ活字本世ニ出テシハ疑ヲ容

フレドリッ
 キ
 帝ノ不徳

レザル所ナリ唯其年ヲ記セザルニ由リ世人之ヲ辨知セザルノミグ
 ヲテンベルグハスカッヘルト共ニ社ヲ結ビ專ヲ印刷ニ從事シ其術
 ニ長シタリ千四百六十二年ニ至リ聖書全部ヲ印行シ非常ノ廉價ニ
 テ發賣セリ是ヨリ先キ千三百十八年麻ヲ以テ紙ヲ製スルヲ發明
 シ從來用非シ所ノ羊皮ニ代ヘ紙價ノ廉ナルニ由リテ又甚々書價ノ
 低下ヲ助ク僧侶ハ印刷ノ行ハルヲ見テ自己ノ困難ヲ興起センヲ
 ヲ慮リ魔術ト稱シ逆リニ賤民ヲ煽動シ務メテ之ヲ廢止セントセリ
 千四百三十八年シヂスモンドノ女婚アルベルト選ハレテ獨乙帝ノ位
 ヲ踐ム是ノ後帝國瓦解ノ日ニ至ルマテ埃地利家ニ於テ世々獨乙帝ノ
 位ヲ嗣キタリアルベルト位ニ即キ未ダ二年ナラズシテ匈牙利ニ於テ
 土耳其人ヲ征シ既ニ歸リ俄カニ殞ス遺腹ノ子ヲラヂスロート名ツケ
 從兄フレドリッキヲ以テ之ガ傳トセリ其後フレドリッキハハブスブルグ
 家ノ長者ナルヲ以テ選ハレテ帝位ニ登ル性溫柔ニシテ萬機ヲ統理ス
 ルノ材ニ乏シク其施設スル所兒戲ニ類シ過失亦少ナカラズ是ノ時ニ

當リ國政寺制兩ナカラ陵夷シ雄才偉畧ノ人ヲ得テ之ヲ整治スルニ非
 ラザレバ國ヲ存シ民ヲ安ニスルヲ能ハザルノ勢ナリ吳天獨乙國ニ幸
 セス斯ノ如キ不肖ノ君ヲシテ位ニ在ラシメシ一五十二年ノ長キニ及
 プ其間若シ善ク國內ノ政ヲ治メシメバ其國家ヲ改新スルヤ必セリ然
 ルニフレドリツキ不肖ニシテ政事ヲ顧ミズ是ヲ以テ國權寺權相爭ヒ
 テ止ム時ナク大小ノ侯伯交隣ニ闕キ國ヲ疲シ民ヲ弊リ遂ニ改進ノ萌
 芽ヲ遮絶セリ畜タニ改進ノ萌芽ヲ遮絶セシノミナラス獨乙帝國ハ四
 分五裂シ伊太利ノ半ハ共和政治ト爲リ半ハ王公ノ割據スル所ト爲リ
 ホヘミヤ匈牙利ノ二國ヲ失ヒ千四百九十三年ニ至リ遂ニ老死ス其子
 マキシミリアン位ヲ嗣クマキシミリアンハ性雄武ト雖ヒ君徳ヲ有シ
 聰明老練ノ將トナルヲ務メズ徒ラニ競武場裡ニ勝ヲ得ルヲ以テ
 快ト爲シ兵ヲ率井テ土耳其ヲ征シ又伊太利ヲ復シテ獨乙ニ合セント
 謀リ或ハ佛蘭西ノ驕傲ヲ懲ス然ルニ艱苦ニ堪ユルヲ能ハズ進ムニ疾
 クシテ退クモ亦速ナリ是ヲ以テマキシミリアンハ帝權ヲ恢復シ弊政

獨乙帝國四分五裂ス

マキシミリアン帝統一ヲ謀ル

千五百年代

ヲ矯正セント欲シ諸侯閥黨ノ爭ヲ禁シ又郵便ヲ開キ大審院ヲ起コシ
 其威令頗ル行ハルレ其大成ヲ見ル能ハス終ニ千五百十九年ヲ以テ
 殂ス其孫チャールレス五世位ヲ嗣クチャールレス五世ハ獨乙諸帝中最モ
 有名ノ君ニシテ且ツ其血統タルヲ以テ西班牙ノ王位ヲ兼統シ兩國一
 帝トナル此時ニ當リ風俗頹弊シ寺院ノ說教ハ毫モ神教人道ヲ說カズ
 專ラ聽者ノ興ヲ添ユルヲ務メテ荒唐不經ノ戲言俗談ヲ述ベ諸大學
 校ハ皆ナ迂學士ノ巢窟ニシテ唯弊害ヲ助成スルノミ是ニ於テ宗教改
 正ノ議大ニ起リル一サー出デ、プロテスタント即チ耶穌新教ヲ唱ヘ
 リチャールレスハ他國人ヲ以テ西班牙ノ王位ヲ襲ヒ其國民ノ怨ヲ受ク
 ルヲ以テ專ラ朋黨ヲ樹立シ基本ヲ堅固ナラシメント欲シ因テ思惟ス
 ルニ即今ル一サー異端ヲ唱ルト雖ヒ之ヲ助クル者ハ唯ダ一二諸侯ノ
 ミ左レバ之ヲ覆スハ猶ホ掌ヲ反スガゴドシ速ニ之ヲ剿滅シテ法王ノ
 歡心ヲ得テ己ガ黨與タラシメント乃チル一サーノ黨ヲ覆ヘサンコヲ
 謀リ務メテ之ヲ驅逐スト雖ヒ之レニ歸向スルノ徒益多ク諸侯相團結

耶穌新教起ル

チャールズ
ヲ好ム

シテ其助ケヲナスモノアリ獨乙南部大ニ騷擾シ互ニ干戈ヲ動カシ國
 内恰モ鼎ノ沸クガ如シ嗚呼チャールズニシテ深ク當時ノ事情ニ通シ
 宗教改正ノ已ム可ラザルヲ知ラバ塞ヲ萬世ニ遺サンコト必セリ然ルニ
 之ヲ察セズシテ妄ニ抑壓セント欲セシハ豈ニ惜マザル可ケンヤ又チ
 ヤールズハ佛蘭西ヲ恢復セント欲シ英吉利王ト盟ヲ爲シ兵ヲ遣ハシ
 テ佛蘭西ヲ伐チ大ニ之ヲ破リテ佛蘭西王ヲ生獲シタリチャールズノ
 弟ヲヘルザナンドト云フ此人大ニルーサーノ黨ヲ殘虐シ因テ匈牙利
 人甚ク怨望シ其讐敵ヂヨン、アボラヲ以テ其位ヲ篡ハシメント欲ス佛蘭西
 ハ之ヲ好機會ト爲シテアボラノ黨ニ賄ヒ且竊カニ土耳其王ヲ勸メテ
 之ヲ助ケシム土耳其王ソリマン二世之レヲ肯ンシ大軍ヲ率井テ匈牙
 利ニ入り所在侵掠シテ遂ニ埃地利ニ至リ維納ヲ圍ミ埃地利ノ兵擊テ
 之ヲ退クト雖也是ヨリ東邊多事トナリキチャールズノ晩年復々佛蘭
 西ト戰ヲ交ヘ大ニ敗績シ新敵ノ徒ハ益々猖獗ヲ逞フスルヲ以テ天下ノ
 事意ノ如クナラザルコトヲ歎シ自ラ位ヲ退キ寂寞タル山寺ニ閑居シ餘

チャールズ帝
ノ版圖

帝ノ傳道懺悔

年ヲ終ハレリ初メ其帝位ニ即クヤ兵ヲ遣ハシテ南北亞米利加ノ各部
 落ヲ侵略シ海外ニ領地ヲ擴ムルコト殊ニ夥シク其版圖ハ歐羅巴ニ在テ
 ハ西班牙埃地利和蘭ヲ併セテ伊太利ノ大半ヨリ佛蘭西ノ東北ニ跨リ
 獨乙ノ列國盡ク藩屏ニ屬シ亞米利加洲ニ在テハ南北ヲ合セテ智利秘
 魯墨西哥等ニ及ビ實ニ羅馬ノ後チ斯ノ如キ至大ノ版圖ヲ領セシ者コ
 レアラザルナリ蓋シ帝ハ斯ノ如ク至大ノ地ヲ有シ人間最上ノ富貴ヲ
 極ハムト雖也人世ハ常ナク歡樂ハ夢ノ如キヲ悟リ氣運ノ擱フ所ヲ洞
 察シ禍亂ノ兆ヲ預見シテ邦土ヲ棄ルコト土芥ノ如ク斷然法門ニ入り世
 ヲ終ヘシハ善ク終始ヲ全クセル者ト謂フ可シ後チ生ナカラ埋葬ノ禮
 ヲ行ヒ幾時ナラズ病ニ罹リ殞ス時ニ千五百五十八年ナリ是ヨリ先キ
 チャールズノ帝位ヲ退クニ當リ至大ノ版圖ヲ兩分シ西班牙和蘭及ヒ
 海外ノ領地ヲ合セテ其子ヒリップ二世ニ讓リ埃地利ハ其弟ヘルザナ
 ドニ傳フ後チ獨乙帝位ニ登レリヘルザナンドノ世國內平穩外寇ノ憂
 モ亦ナシト雖也兩敵互ニ黨與ヲ爲シ相仇視シテ漸ク爭亂ヲ起シ彼ノ

三十年戰モ實ニ此ニ胚胎セリト云フ千五百六十八年ヘルヂナンド殞
 ス其子マキシミリアン二世帝位ヲ嗣クマキシミリアン二世ハ聰明寛
 厚ニシテ人君タルノ器備ハラザルナク常ニ意ヲ國政ニ注キ專ラ國益
 ヲ起スコトヲ以テ務メト爲セリ且學問該博ニシテ歐洲六大國ノ語ニ通
 シ威令漸ク行ハレ獨乙人民皆ナ枕ヲ高フスルヲ得テ兩黨モ稍々爭ヲ
 斷ツニ至レリ後チ波蘭ノ王位ヲ兼統シ千五百七十五年殞ス其子ロド
 ルフ二世位ヲ嗣クロドルフ性怯懦ニシテ國政ヲ顧ミズ遊戯ヲ以テ日
 ヲ送ル是ヲ以テ新舊兩敵派ノ爭鬪再ヒ起リ國內騷然タリ後其弟マツ
 シヤニニ迫ラレテ匈牙利埃地利ホヘミヤヲ與ヘ千六百十二年殞シ弟
 マツシヤス嗣キ帝トナルマツシヤスノ位ニ即クヤ直チニホヘミヤヲ
 去リ甥ヘルヂナンドヲ留メテ其王ト爲スヘルヂナンド強暴ニシテホ
 ヘミヤ人民ヲ壓虐スマツシヤスモ亦新敵ノ徒ヲ兵力ヲ以テ驅逐シ遂
 ニ彼ノ三十年戰ノ端ヲ開ク時ニヘルヂナンド撰バレテ獨乙帝位ニ登
 リ爭亂益甚シク新敵ノ徒ハバラチンブランダンプルグヘツスウルテ

千六百年代

耶蘇新舊二黨ノ爭

三十年戰

ヘルヂナンド
 二世人ヲ殺ス
 十一千萬

獨乙國ノ慘狀

ンブルグ等ヲ主トシ各邦相ヒ連合シテ國帝ニ抗ス是ヲ以テワルレン
 スタインヲ大將トシテ新敵ノ徒ヲ征シ百戰ノ後チ幾ント之ヲ鎮壓ス
 ルニ至ラントス然ルニ英吉利佛蘭西和蘭瑞典等兵ヲ出シテ新敵ノ徒
 ヲ助ケ三十年ノ間戰鬪接續セリ故ニ名ツケテ三十年戰ト云フ千六百
 三十七年獨乙帝ヘルヂナンド二世殞ス蓋シ帝ハ終身殘虐ヲ行ヒ殺伐
 ヲ事トシ其レガ爲メ兵禍ニ罹リ暴刑ヲ受ケテ死亡セシ者無慮一千萬
 人ニ下ラズ其之ヲ爲セシ所以ヲ考フルニ羅馬教ヲ以テ正教ト信シ以
 テ然ルニ非ズ所謂王命ニ違フ者ハ則チ神意ニ背クナリト云フ謬説ヲ
 喜ビ生民ノ疾苦ヲ意ト爲サズ唯々此論ヲ行ハント欲セシナリ故ニ教
 義ノ正邪善惡ヲ辨フニ非ラズシテ唯君命ニ從ハザル者ヲ目シテ叛人
 ト爲セシナリ或人帝ニ教ヘテ曰ク異端叛亂ノ民アル地ハ荒蕪ノ地ニ
 若カズト帝ハ此言ヲ服膺シテ獨乙ノ沃野ヲ變シテ荒地ト爲シ良民ヲ
 化シテ暴卒ト爲セシナリ此年百物登熟セズ兵禍ノ慘毒ヲ増シ萬民饑
 餓シテ或ハ墳墓ヲ發キテ人肉ヲ食ヒ或ハ人ヲ殺シテ食フニ至レリ此

年ヘルチナンド三世位ヲ嗣ク先帝ノ長子ナリ帝新教ノ勢威益熾シナレバ兵力ヲ以テ之ヲ抑壓ス可ヲサルヲ知リ千六百四十八年遂ニ和議ヲ講シ乃チ瑞典ニ償金ト土地トヲ與ヘ佛蘭西ト土地ヲ交換シ和蘭諸州ニ獨立ヲ許シ又羅馬教ト新教トヲ間ハズ皆ナ同等ノ權利ヲ有シ新教ノ森ヒシ寺領亦永ク其有ト爲シ兩教并ヒ行ハレテ相ヒ侵サバルトナシ是ニ於テ三十年戰全ク局ヲ結ビタリ此ノ戰爭ノ爲メ獨乙ノ善人志士ハ概チ戰没シテ殆ント遺類ナク國民モ亦半ハ此戰ニ死シタリ故ニ貿易ノ盛工藝ノ良モ去リテ他國ニ移リ真正ノ宗教政治上ノ自由文明ノ技術ト稱スベキ者殆ント地ヲ拂フニ至レリ

當時ハ爭亂ノ代ナリシト雖モ風俗大ニ改良シ學問技藝頗ル進歩セリ然レモ自國ノ創始ニ係ル者甚々稀レニシテ概チ佛蘭西以太利等ノ風ニ摸倣セシナリ宗教改正ノ際獨乙語ハ全ク一變シ耶蘇新教ノ祖ル―サー獨乙語ヲ以テ聖書ヲ譯シ說教ヲ行ヒシヨリ學者漸ク羅甸語ヲ用非ズ一般ニル―サーノ用非シメ―セン訛ノ獨乙語ヲ用ヒ

此語遂ニ高等獨乙語即チ文學語ノ基礎トナレリ當時天文學者輩出シ千六百二十三年ニ至ル迄新ニ十五ノ大學校ヲ起セリ然レモ猶ホ荒唐無稽ノ妄說ヲ信ゼシアルハ舊時ニ異ナラス今此ニ千五百年代ヨリ六百五十年代ニ至ルマデノ緊要ナル發明物ヲ列舉センニ千五百年代ニ至テ懷中時計ヲ製造スルノ術ヲ知リ多ク之ヲ製造シ千五百九十年始メテ望遠鏡顯微鏡ヲ製シ千六百四十五年メ―ン河上ノフランクホルトニ於テ初メテ獨乙新聞ヲ印行セリ是レ獨乙國新聞ノ嚆矢ナリ千六百五十年唧筒ノ工夫初メテ成ル其他此國ノ創始ニ係ル者甚々多シトス

佛王ルイ十四世選帝官ニ陷ハシムルニ利ヲ以テシ己ヲ撰ハシメント謀リタレモ撰帝官之ヲ聽カズ千六百五十七年ヘルチナンド三世ノ子レオポルド位ヲ嗣クレオポルドハ性庸愚ニシテ佛王ルイ十四世ノ謀計ニ陥リ國內大ニ亂レ獨乙中貿易尤繁盛ナルストラスブルグノ大市府ヲ奪ハル是ニ於テ獨乙ノ王公同盟シテルイノ罪ヲ問ハントスブラ

ンテンブルグ侯フレドリッヒ、ウヰルヒルムハ曾テ帝ヲ怨ム、アリアテ此
 同盟ニ預カラズ且ツ此時ニ當リ土耳其ノ兵埃地利ヲ侵シ直チニ維納
 ヲ襲ハントスレオポルド之レヲ禦クノ策ヲ知ラスルキセンブルグス
 トラスブルグノ二府ヲ佛蘭西ニ與ヘテ和議ヲ爲スハ恥ヅ可キノ至リ
 ナリルイハ斯ク獨乙ノ南西ヲ蚕食シ尙ホ東部ニ反間ヲ放チ其人民ヲ
 シテ叛ヲ謀ラシムレオポルド之ヲ知リ其首謀者ナル匈牙利ノ貴族僭
 徒ヲ斬リケレハ人民兵ヲ擧ケテ帝ニ抗シ救ヲ土耳其ニ求ム土耳其之
 ヲ肯シシ乃ハチ兵二十八萬ヲ遣シ匈牙利ニ入ラシム埃地利全國爲メ
 ニ震動シ土耳其ノ兵到ル處敵ナク刃ニ血ヲズシテ維納ノ城外ニ達ス
 因テ外國ノ兵力ヲ借り漸ク土耳其ノ軍ヲ擊破セリ時ニ又ルイ獨乙ヲ
 侵カシ到ル處人民ヲ殺害シ獨乙諸帝ノ墳墓ヲ發キ殘暴盡サマル所ナ
 ク全國皆之ヲ憂フ此ニ於テ獨乙英吉利西班牙ノ三國同盟シテ共ニ兵
 ヲ擧ケテ佛蘭西ト戰フト雖ヒ連敗スルヲ以テ千六百九十七年和議ヲ
 爲シ其略地ヲ過半佛蘭西ニ與ヘタリ

土耳其獨乙ヲ
擧ツ

佛蘭西國ノ起
源

是ヨリ先キブランデンブルグ侯フレドリッヒ、ウヰルヒルム死ス侯ノ國
 ヲ治ルヤ專制ヲ行ヒ貴族市民ノ權利ヲ奪ヒ之レニ抗スル者ハ刑ニ處
 シ又重稅ヲ課シテ多ク士卒ヲ養ヘリ其政治此ノ如シト雖ヒ普魯士ノ
 兩州ヲ治メシ一四十八年遂ニ善ク歐羅巴洲最大強國ノ基ヲ開キタリ
 其死ニ臨ミ其子及ヒ臣僚ヲ召シ訣シテ曰ク我堅ヲ被ムリ銳ヲ執リ害
 ヲ他人ニ加ヘシコト多シ然リト雖ヒ我方ヲ我國ニ盡セシ一ハ神明之
 ヲ知レリト又子ヲ戒シメテ曰ク汝我行爲ニ倣ヒ一班ヲ見テ事ヲ施ス
 一勿レ常ニ汝ノ國ヲ守ル一勿レ汝ノ士民ヲ愛シ汝ノ忠臣
 ヲ敬シ其諫ヲ拒ム一勿レト從容トシテ死ス

千七百年代

千七百年西班牙王チャールレス二世死ス子ナシ獨乙帝其子ヲシテ西班
 牙王位ヲ嗣カシメント欲シ兵ヲ起シテ佛蘭西ヲ伐タントセリ是ニ於
 テ歐羅巴全洲物情洶々タリ或ハ獨乙ニ與ミシ或ハ佛蘭西ヲ助ケ英吉
 利和蘭ノ如キハ獨乙ニ黨シ十餘年間戰爭止マズ中道ニシテ獨乙帝レ
 オポルド死シ其子シヨセフ一世位ヲ嗣ク然ルニ爭亂尙ホ未ダ止マズ

普魯士ノ王國ノ始組

漸ク千七百十四年ニ至リ兩國和議ヲ講シ西班牙王位繼續ノ亂此ニ至リテ解ク蓋シ此戰爭中血ハ流テ河ヲ爲シ屍ハ積ンテ山ヲ爲シ財貨ヲ靡消セシヲ幾百萬ナルヲ知ラズト雖此戰爭ニ與リシ諸國ハ得ル所失ヲ所ヲ償フニ足ラズ皆ナ欲スル所ヲ達セスシテ止ミタリ先キニブランデンブルグ侯フレドリッキハ普魯士王ノ號ヲ得フレドリッキ一世ト稱ス此人ハフレドリッキウヰルヒルムノ子ニシテ西班牙王位繼續ノ戰爭ニ由リ領土ヲ増セシヲ少ナカラズコルプト云フ寵臣アリ狡猾諂佞ノ小人ナリ常ニフレドリッキニ面從シ其欲ヲ助ケテ寵ヲ得ント欲シオランシ侯ハ英吉利王ト爲リサキソニー侯ハ宗教ヲ變シテ波蘭王トナリシ事蹟ヲ語リテ之ヲ勵シケレハフレドリッキ大ニ喜ビ其國ニ王ヲラント欲ス然レモ當時ノ禮ニ依レバフレドリッキハ獨乙ノ一公タルヲ以テブランデンブルグ王ト稱スルヲ得ズ但シ普魯士王ト號スルハ障礙ナシ是ヲ以テ普魯士王ヲラント欲スト雖古來ヨリ小國ニシテ王ヲ立ツルノ例ナク而シテ之ヲ立テント欲セバ唯獨乙帝ノ特

普魯士建國ノ影響

許ヲ要スルノミナラズ又近隣諸國ノ承認ヲ得ザル可ラズシテ頗ル難事ナリト雖モコルプ堅忍ニシテ撓マズ百方游說シテ許多ノ賄賂ヲ行ヒ金ヲ散セシヲ六百萬弗ニ下ラズ遂ニ其望ヲ達シ千七百一年クニグスブルグニ於テ即位ノ禮ヲ行ヒ普魯士王ト稱セリフレドリッキ性華美尊嚴ヲ好ミ伯林ニ於テ壯麗ノ宮殿ヲ營ミ該府ノ俗ヲ變シテ驕奢ヲ喜ビ美服ヲ好ムノ風トナセリ初メ普魯士ノ國ヲ建ルヤ虚飾ヲ好ムノ心ニ出テ當時ニ在リテハ毫モ獨乙全國ノ形勢ニ影響ヲ及ボサルガ如シト雖モ今日ヨリ之ヲ觀レバ實ニ獨乙ノ一紀元ト稱スルモ決シテ誣言ニ非ラサルナリ嘗テウーゼーン公ハ普魯士王國後世ノ如何ヲ前知シ埃地利家ノ之ヲ許セシヲ聞クヤ宜シク此議ヲ獻セシ大臣ヲ斬ルベシト云ヘリ方今ヨリ之ヲ觀レバウーゼーン公ノ言ハ的中スル者ニシテ普魯士ハ唯々歐洲ノ強國ニ列スルノミナラズ埃地利ヲ擊破シテ獨乙盟主ノ職ヲ奪フニ至レリ蓋シフレドリッキ一世彼ガ如ク虚飾ヲ喜ブト雖モ大ニ子孫ヲ勵マシ人君タルベキノ才徳ヲ琢カシメタリ且フレ

ドリックハ小事ニ區々トシテ大事ヲ顧ミザルガ如シト雖也當時他ノ獨
 乙王公ノ如ク放逸無恥ニ非ス頗ル後世ヲ慮ル所アリテ大ニ普魯士ノ
 兵制ヲ改革シ當時獨乙ノ北部ニ行ハレシ自由論ヲ抑壓セズ大學校ノ
 弊ヲ除キ當世ノ風俗ヲ改良スルヲ務メリ又フレドリッキノ子フレド
 リッキ、ウヰルヒルムハ極メテ冗費ヲ省キ飽クマテ政權統一ヲ主張シ大
 ニ後世富強ノ基業ヲ開キタリ千七百十三年フレドリッキ一世死シフレ
 ドリック、ウヰルヒルム王位ヲ嗣ク幼時輕躁ニシテ物ヲ畏レズ其傳ド
 ナ甚之ヲ愛ヒ一日過失アルヲ以テ之ヲ懲サントス王躍リテ窓欄ニ登
 リ我カ過失ヲ宥サ、レハ誓テ身ヲ窓下ニ投ス可シト云ヘリドナハ
 師傳トナリ大ニ功アリ性篤實溫厚ニシテ醇朴ヲ尙ヒ虚飾ヲ好マズ王
 ハ之レニ教化セラレテ音ニ佛國ノ奢侈ノ風ヲ厭フノミナラズ甚々佛
 人ヲ惡ミ終身變セス當時獨乙全國佛國ノ風俗行ハレ荷モ佛語ニ通セ
 ズ佛襟ニ倣ハザル者アレバ之ヲ目シテ禮儀ノ何物タルヲ知ラザル者
 トナス然ルニ普魯士王ハ粗製ノ軍服ヲ着シ近臣ノ佛語ヲ話ス者アル

ヲ見レバ毎ニ之ヲ罵リ吾ハ獨乙人ナリ獨乙語ヲ以テ足レリト云ヘリ
 其王位ニ即クヤ第一宮内ノ冗費ヲ省キ數百ノ宮女ヲ逐ヒ珍寶奇器ヲ
 賣リテ曰ク斯ノ如クシテ普魯士ノ帑藏漸ク充足ス可シト是ニ於テ學
 校ヲ興シ兵備ヲ増シ城砦ヲ修メ其國面目ヲ改メタリ又人民ノ己ニ倣
 ヒ用ヲ節シ財ヲ貯ヘ貧富各其分ニ應シテ王都ノ壯麗ヲ助ケ富者ノ餘
 財ヲ以テ伯林府ノ美ヲ爲サンヲ欲シ富者ヲシテ家屋ヲ建テシメタ
 リ又常ニ親ヲ訴訟ヲ視察シ兵隊ヲ監督シ餘暇アレバ市街ヲ徘徊シテ
 懶惰遊治ノ人民ヲ制シ杖ヲ以テ之ヲ打ツニ至レリ一日市街ニ散步セ
 シキ一猶太教徒アリ其王タルヲ知リテ逃レントセシヲ捕ヘ之ヲ貴
 メテ曰ク汝吾ヲ恐ル、乎汝知ラズヤ吾ハ國民ノ父タリ愛セラル可シ
 畏レラル可カズト又法ヲ行フ最モ殿ナルハ固ヨリ然ル可シト雖也動
 モスレバ成法ヲ輕蔑シ己レノ意ニ適セザル定款ハ之ヲ廢シテ法ト爲
 サバルニ至レリ嘗テ一貴族ノ法ヲ犯カシテ重稅ヲ課セシ者アリ法官
 之ヲ擡スルニ禁錮ヲ以テス王ハ大ニ之ヲ怒リ死刑ニ處セリ王最モ優

普王ノ志

衆ノ風ヲ厭ヒ其子フレドリッキ大王ヲ殺フルヲ尤殿ニシテ常ニ杖ヲ以
 テ之ヲ撻チ血ヲ流スニ至リ呼ブニ懦夫痴兒愚人等ノ語ヲ以テシ唯其
 勇氣ニ乏シカラントヲ恐レタリ又家ヲ治ル極メテ嚴ナリ若シ家法ヲ
 犯ス者アレバ殿罰ニ處ス要スルニ王ノ志ハ兵ヲ強クシテ普魯士ヲシ
 テ外侮ヲ免レシメ遂ニ進ンテ歐羅巴ノ強國中ニ列セシムルニ在ルナ
 リ故ニ他事ノ如キハ皆此大志ヲ違スルノ手段ニシテ其大志ヲ違スル
 爲メニハ毫モ財貨ヲ惜マズ巨大ノ兵卒四十三人ヲ買フニ四萬三千弗
 ヲ費シ近衛兵一萬五十人ヲ養フニ通常兵員ヲ養フノ四倍ヲ費セリ居
 常質素ヲ行ヒ夜ニ入レバ諸大臣諸將校外國公使等ヲ會シテ朋友ノ交
 ヲ爲シ或ハ府中ノ長老ヲ會シ或ハ府學校長ヲ召シ時事ヲ談スルニ貴
 賤ノ禮ヲ用非ズ王ハ斯ノ如ク武ヲ尙ヒ兵ヲ増セシト雖モ終身兵ヲ勤
 カスヲナク千七百四十年死ス齡五十二金銀財寶合セテ七百七十萬弗
 ヲ大王フレドリッキニ遺與シ遺志ヲ續テ兵威ヲ諸國ニ輝カサシメタリ
 是ヨリ先キシヨセフ死シチャールス六世位ヲ嗣キ佛蘭西ト和ヲ講ス

土耳其ノ兵來
攻ス

即位ノ事

フレドリッキ
大王ノ志

ルヤ土耳其ノ兵大舉シテ來攻ス埃國邊へ墜テ之ヲ破リ若干ノ地ヲ得
 テ和ヲ許スチャールス六世ハ太子ナク唯一女子アリマリヤ、テレサト
 名ツクロルレン侯フランシスニ嫁スチャールスハ全國議院ノ議ヲ經
 ズ諸強國王ノ承諾ヲ經ルノミニシテ之ヲ儲貳ト爲シタリ從來國法ニ
 女帝ヲ立ツルノ例ナシト雖モ千七百三十九年チャールス六世歿セル
 ヲ以テ終ニ立テ、帝ト爲ス是ニ由リテ爭亂ヲ醸シ巴威里ノ選帝官ハ
 佛蘭西普魯士ト同盟シ己レ埃帝ノ血統ナルヲ以テハプスブルグ家ノ
 帝位ヲ嗣カンコトヲ謀レリ時ニ普魯士ハ俄カニ富強ヲ致シ今王フレド
 リッキ二世即チ大王ノ時ニ至リテハ精兵七萬二千アリ時ヲ窺ヒテ兵ヲ
 用非ント欲セシニ偶巴威里佛蘭西同盟ノ事起リシヲ幸トシシレシヤ
 ノ數侯國ハ嘗テフランアンブルグ家ニ屬セシヲ名トシ千七百四十年
 十二月突然兵ヲ率非テシレシヤヲ侵シ翌年埃地利ト戰ヒ大ニ之ヲ破
 レリ諸國之ヲ聞テマリヤ、テレサノ即位ヲ拒ミシ者増益シ薩素尼波蘭
 西班牙ノ三國モ亦同盟ニ加ハリ佛蘭西ノ兵ハライン河ヲ渡リ埃地利

ホヘミヤノ各部ニ徇フ女王マリヤ、テレサハ盡ク同盟ヲ失ヒ四面皆敵國ニシテ叛カザリシ者ハ獨リ英吉利王ノミナレハ敵ノ最モ畏ル、者ヲ己レノ黨ニ加ヘント欲シシレシヤヲ割キテフレドリッキ大王ニ與ヘ和ヲ請フフレドリッキ大王密ニ之ヲ許シ千七百四十一年マリヤ、テレサ匈牙利ノ蕃族ヲ集メテ敵ヲ逐ヒ盡ク埃地利ノ境外ニ出ダシ勝ニ乘シテ巴威里ニ入ル此時ニ當リ巴威里侯チャーレス、アルベルト既ニ選ハレテ獨乙帝トナリチャーレス七世ト稱シ此日即位ノ禮ヲ行フフレドリッキ大王ハマリヤ、テレサトノ密約ニ背キ再ヒシレシヤニ入り埃地利ノ兵ヲ擊チ大ニ之ヲ破リシレシヤノ上下兩部ヲ得テ和ヲ聽ルセリ千七百四十四年十二月埃地利、普魯士遂ニ和ヲ講シ翌年一月チャーレス七世歿シマリヤ、テレサノ夫フランシス一世位ニ即ク千七百四十八年十月諸國和ヲ講シシレシヤ、グラツノ二邦ヲ普魯士ノ正有トナスヲ承認シタリ

千七百四十八年ノ和議ヨリシテ歐洲一般陽ニ平和ナリト雖モ陰然兵

大王シレシヤノ地ヲ得

大王薩索尼ヲ破ル

埃佛瑞瑞同盟シテ將ニ普ヲ伐クントス

大王埃兵ノ爲メニ破ラル

亂ノ兆アルヲ以テ安眠セシ者ナクマリヤ、テレサハシレシヤヲ失ヒシヲ憾ミフレドリッキ大王ノ勢日ニ益熾ナルヲ見テ之ヲ剿滅セント欲スルノ念止ム時ナシ魯西亞薩索尼佛蘭西ト同盟シ普魯士ハ英吉利ト同盟セリフレドリッキ大王ハ伯林駐劄ノ薩索尼公使ニ賄ヒテ敵國ノ動靜密事ヲ探リ先ンシテ之ヲ征セント欲シ竊ニ準備ヲ爲シ突然七萬ノ大兵ヲ率テ薩索尼ノ兵ヲ圍ミ埃地利ノ援兵ヲ破リ遂ニ薩索尼ノ兵ヲ下タセリ千七百五十七年ノ春同盟各國相ヒ議シ普魯士ヲ攻メント欲シ埃地利佛蘭西ハ各兵十五萬魯西亞ハ十萬瑞典ハ二萬獨乙全國ハ六萬ヲ出シカヲ盡セテ之レヲ滅サンコトヲ誓ヘリフレドリッキ大王兵ヲ率テホヘミヤヲ攻メ埃地利ノ兵ト戰ヒ大ニ之ヲ敗ルト雖モ後チ埃地利ノ爲メニ敗ラレ死スル者一萬四千人盡ク其大砲輜重ヲ失フフレドリッキ惘然トシテ空木ニ凭リ頭ヲ低レテ歎息シ後チ幾何モ無ク復タ佛蘭西ノ兵ニ破ラル然リト雖モ銳氣猶ホ屈セズ再ヒ兵ヲ率テ埃地利ノ兵及ヒ佛蘭西ノ兵ノ不意ヲ擊チ大ニ之ヲ破リ爾來寡兵ヲ以テ大

敵ニ當リ戰ヒ必ズ勝タザルハ莫シ偶英吉利ノ援兵普魯士ニ達シ普魯士ノ兵威益振フ千七百五十八年ノ春フレドリッキ大王兵ヲ率非テモラ
 ヲ非ヤニ入ル時ニ魯西亞ノ兵伯林ノ城下ニ逼ルト聞キ直チニ兵ヲ返
 シテ魯西亞ノ大軍トゾルンドルフニ戰ヒ大ニ之ヲ破ルト雖モ普魯士
 ノ兵ノ戰死セシ者一萬一千人ニ及ベリ同年十月某夜埃地利ノ兵ニ不
 意ヲ襲ハレ敵兵ノ我カ砲ヲ奪ヒテ之ヲ放ツヲ聞キ始メテ睡ヲ醒セシ
 ヲ以テ一敗地ニ塗レ將校兵卒殆ント一萬人大砲百門ヲ失ヒタリ翌千
 七百五十九年八月十二日埃地利魯西亞往年兵ヲ分チテ敗ヲ取リシニ
 懲リカヲ合セテ普魯士ヲ侵カスフヲリホルドノ近傍ニ於テ之ヲ防キ
 シニ未曾有ノ大敗ヲ取リ其將一萬ノ兵ヲ率非テ敵ニ降リドレステン
 モ亦埃地利ノ兵ニ降リシノミナラズ十月九日ニ至リ埃魯兵ヲ合セテ
 伯林ヲ襲ヒ遂ニ之ヲ拔キタリフレドリッキ二世ハ斯ノ如クノ大敗ヲ取
 リシト雖モ天未タ之ヲ捨テズ千七百六十年十一月三日トルゴーニ戰
 ヒ大ニ敵軍ヲ破リ遂ニ普魯士國ヲ安全ナラシメ獨乙全國ノ牛耳ヲ

大王ノ大敗

執ルノ端ヲ開キタリ此戰ノ前夜フレドリッキ大ニ將士ヲ會シ告ケテ曰
 ク此ノ一戰ニシテ雌雄ヲ決セントス若シ戰利アラザレバ我卿等ト共
 ニ骸ヲ原野ニ曝サンノミト翌日戰ヲ開クニ敵軍ノ猛烈ナルヲフレド
 リッキモ未タ曾テ見ザル所ニシテ四百門ノ大砲ヲ連發シ黒烟空ニ滿チ
 天地爲メニ震動スフレドリッキノ剛勇ト雖モ數將校ヲ願ミテ卿等曾テ
 斯ノ如キ砲聲ヲ聞キシヲアリヤト問フニ至レリ日既ニ暮レシト雖モ
 勝敗猶ホ未ダ決セズフレドリッキモ微傷ヲ負ヒ戰争夜ニ徹シ終ニ大ニ
 敵軍ヲ破リタリ此時ニ當リ英吉利モ同盟ヲ辭シ其他ノ同盟各國皆ナ
 用度給セズ帑藏空乏ヲ告ケ歐羅巴全州擧ケテ休戰ヲ望ムヲ以テ千七
 百六十三年二月十日巴里ニ於テ此戰争ニ與リタル諸國相ヒ會シ平和
 ノ條約ヲ締結セリ此和議ニ由リ埃地利普魯士ハ互ニ損益スル所ナク
 普魯士ハ舊ノ如クシレシヤヲ保有セリ是ノ戰ヲ七年戰ト稱ス
 フレドリッキ二世ハ大王ト綽號ス千七百十二年ヲ以テ生ル性英邁剛毅
 事ニ臨ンテ畏レズ難ニ遇フテ撓マズ甫メテ五歳ニシテ善ク兵法ヲ知

大王大ニ敵軍ヲ破ル

大王ノ行狀

大王ノ懲罰

リ十二歳ニ至リテハ普魯士老練ノ將校ト肩ヲ比スルニ至レリ始メ史
 學ヲ講シ一般ノ學術ヲ脩メ且佛蘭西ノ文學ヲ學ビ殊ニ之ヲ愛シタリ
 然レモ宗教ニ入ラズ常ニ之ヲ輕侮セリ常ニ殿父ノ呵責ヲ受ケ殆ント
 之ニ堪ユルヲ能ハズ因テ英國ニ走リ機ヲ窺ヒ再ヒ本國ニ歸ラントス
 父之ヲ知リ大ニ怒リフレドリッキニ與セシ者ヲ死刑ニ處シフレドリッキ
 ヲテウエセル城ニ禁錮ス其獄ハ府知事ノ家ノ一室ニシテ守兵及ヒ給仕
 ノ外ハ一切人ノ出入スルヲ禁シ盡ク自殺ヲ行フベキ品物ヲ去リ食
 フニ木ヒヲ以テシ唯ダ聖書ト神領トヲ備フルノミ府知事モ亦仁人ニ
 シテフレドリッキノ無聊ヲ慰メント欲シ其獄室ノ上ハ己レノ寐室ナリ
 シカバ孔ヲ床ニ穿チテ下室ニ達シ孔中ヨリノ常ニ談話セリ時ニ父王
 ハ軍事裁判所ヲ開キ副隊長ナルフレドリッキノ擅ニ軍ヲ脱セシ罪ヲ
 治メシメシニ其罪死刑ニ當ルト雖モ人臣タル者刑ヲ王ノ嗣子ニ加フ
 ルノ權ナシト云ヒ敢テ刑ニ擬セズ王其裁判ノ公正ナラザルヲ嘲リ命
 ヲ發シテ其刑ヲ實行セントス滿朝其武斷ニ驚キ爲ス所ヲ知ラズ外國

大王佛魯ヲ讀
シテ樂トナス

大王ノ日課

公使ハ普魯士ノ大臣諸將ト謀リ王ヲ諫メテ漸ク其死罪ヲ免ル、
 得再ヒ軍官ニ復シタリ千七百三十二年妻ヲ迎ヘシヨリ四十年父ノ死
 セル迄レインスブルグニ在リテ常ニ朋友ヲ會シ佛人ヴオルテールノ
 著書及ヒ希臘羅旬ノ佛語ニ譯セル者ヲ讀ミテ樂ミト爲セリフレドリッ
 キノ位ニ即クヤ精ヲ勵マシ治ヲ求メ重税ヲ廢シ拷問ヲ禁シ大ニ弊政
 ヲ蠶革シ巨入兵ヲ減シテ一大隊ト爲シ以テ無用ノ軍費ヲ省キ甚々衆
 望ヲ得タリ七年戰ノ初メニ至ルマテ八年間ハ伯林近傍ノ村莊ニ退居
 シテ專ラ佛人ヲ親昵シ專門學校ヲ起シ佛人ヲ以テ其社員トセリ佛國
 ノ學士ヴオルテールモ亦來ルフレドリッキハ性勤勉ニシテ寸陰ヲ惜ミ
 其髮ヲ櫛ル際モ前宵ノ奏文ヲ讀ミ然ル後チ近衛士官ノ報告ヲ聽キ書
 信ヲ讀ミ笛ヲ吹キテ九時ニ至リ内閣大臣ヲ召シ當日ノ課程ヲ授ク然
 レモ親ヲ好ンテ事ヲ執リ大臣ニ信任セズ大臣ノ爲ス所ハ唯ダ其詔命
 ヲ奉行スルノミニシテ一事モ專行スルヲ得ズ故ニ當時普魯士ノ大
 臣ハ歐洲諸國ノ大臣ト異ニシテ大事ノ樞機ヲ知ラズ國王ヨリ外國公

使ニ送ル所ノ書ハ外務卿ノ手ヲ經ズ外國ヨリ來ル所ノ書ハ直チニ國王ニ呈スルヲ以テ外務卿モ外國交際ノ如何ヲ知ラズ大宰相モ國家ノ大事ニ與カルヲ得ズ唯國王ノ命令ヲ奉シテ之ヲ行フニ過キザルナリ大王ハ内閣大臣既ニ退ケハ書信ヲ作り諸人ニ接見シ兵學場ヲ巡視シ午食ヲ喫ス毎ニ十八ノ陪食アリ其客ハ多ク佛人ナリ之レト談話シテ他事ヲ忘レ四時ニ至ルマテ食堂ニ在リシヲアリ食後笛ヲ吹キ而シテ後チ奏議ニ捺印シ畢リテ或ハ園中ヲ歩シ或ハ佛蘭西ノ詩文ヲ作りテ自ラ樂ム斯ノ如ク終身政務ニ鞅掌シテ怠ラザリシト雖モ詩文合セテ十五卷ヲ著ハシ世ニ公ニセリ六時樂ヲ奏シ七時好ム所ノ客ト夕食ニ就ク毎年五月六月ヲ以テ領地ヲ巡行シ軍兵ヲ檢閲シ各部官吏ノ正邪適否ヲ視察シテ親ヲ黜陟賞罰ヲ行ヘリ是ヲ以テ普魯士國驍々トシテ富強ニ趣キ即位ヨリ僅カニ十年ニ過ギズシテ農工ノ業大ニ開ケ外國ヨリ財本ヲ齎ラシテ此國ニ來ル者踵ヲ接シ實ニ其國ヲ新ニスト謂ベシ然レモ經濟ノ道ニ暗ク内國ノ工業ヲ起サント欲シ保護稅ヲ課シテ

普魯ノ富強

外國製造品ノ輸入ヲ禁セントセリ是ヲ以テ密賣ノ弊行ハレ奸商ハ危險ヲ犯カシテ利ヲ得シ者妙ナカラズ又政府專ラ食鹽煙草咖啡ヲ製造シテ之ヲ發賣シ極メテ其價ヲ高クセシニ由リ密賣愈盛ニ行ハレタリ大王ハ言論出版ノ自由ヲ許シタレバ各國ノ學士多ク柏林ニ來リテ自由ニ其持論ヲ吐露シ大ニ其德ヲ稱贊シタリト云フ

波蘭ノ割地及
ビ巴威里相續
戰

千七百六十五年フランシス一世殞シ嗣子シヨセフ二世位ニ即クト雖モマリヤ、テレサ猶ホ政權ヲ掌握シシヨセフハ恰モ辨毫ニ異ナラズ蓋シ波蘭ノ割地巴威里相續ノコニ由リテノ戰ハ當時ニ於テノ大事件トス波蘭王死シテ嗣子ナシ此ニ於テ魯西亞兵ヲ遣ハシテワルソーヲ侵サシメ普魯士之ヲ援ケ遂ニ波蘭ヲ三分シテ魯西亞、埃地利、普魯士各其一ヲ有シ千七百七十七年巴威里ハ選帝官死シテ嗣子ナキニ因リ帝其地ヲ三分シテ其二ヲ埃地利ニ屬スフレドリッヤ大王之ヲ開キ大ニ怒リ乃チ軍ヲ率非テホヘミヤニ入り埃國ノ兵ト戰ヒ二年ヲ經テ遂ニ和ヲ講ス時ニマリヤ、テレサ殞シ帝親ヲ政治ヲ專ニス先ツ宗教ヲ改革セン

佛國革命ノ影

ト欲シ帝ノ許可ヲ經ズシテ羅馬法王ノ命ニ從フコトヲ禁シ信教ノ自由ヲ許シタリ又大ニ獨乙全國ノ政體ヲ改正セント欲スレトモ貴族人民之ヲ好マズ遂ニ其志ヲ達スル能ハスシテ千七百九十年殂シ弟ペーター、レオポルド帝位ニ登レリ千七百八十九年佛國ノ大革命ヨリシテ歐羅巴全國之カ爲メニ震動シ獨乙帝國モ亦其影響ヲ蒙リ一大變事ヲ生シタリ此時佛國々會ハ貴賤ノ階級ヲ廢シ國民ヲ總テ同等ト爲セシニ由リ佛國ノ貴族多ク獨乙ニ來リ其力ヲ假リテ之ヲ復センコトヲ乞フ獨乙ノ王公ハ皆ナ佛王ヲ助ケント欲シレオポルド帝普魯士王フレドリッキ、ウヰルヒルム及ヒ佛王ノ弟タルトイト同盟セリ然レハ埃地利ハ躊躇シテ兵ヲ舉ゲズ普魯士ハ意ヲ佛國ニ留メズ專ラ波蘭ヲ得ンコトヲ謀レリ然ルニ佛國之ヲ開テ埃地利ヲ伐タンコトヲ布告セリ此際獨乙帝レオポルド死シ英國ハ局外中立ヲ唱ヘ魯西亞ハ波蘭ヲ略センコトヲ務メ兵ヲ佛蘭西ニ出サントスル者ハ唯埃地利ノミ然レモ亦久シク逡巡シテ進マズ漸ク千七百九十二年ノ夏ニ至リ小兵ヲライン河畔ニ出セシ

埃佛ノ戰爭

ノミ翌年佛國ハ其君ルイ十六世ヲ弒シ共和政治ヲ建設シタリ同年二月佛國戰書ヲ英西蘭ノ三國ニ送り戰ヲ開キ佛國勝利ヲ得タリ是ノ時ニ當リ歐羅巴全國概シ佛國ヲ伐タント同盟ス是ヨリ先キ普魯士ハ佛國ノ和蘭ヲ略セシヲ見テ心ヲ動カシ遂ニ同盟ヲ脫シ千七百九十五年四月パールニ於テ佛國ノ共和黨ト和ヲ講ス翌年佛將ナポレオンボナパルテ大軍ニ將トシテ埃地利ニ入り維納ヲ襲ヒ因テ兩國和議ヲ結ベリ此約ヤ佛埃二國ノ爲メニシテ獨乙全國ハ利ヲ得ル所ナク又久シク繼續スルコト能ハズ忽チ破約スルニ至レリ埃地利ハナポレオンノ埃及ニ往テ國ニ在ラザリシヲ幸トシ佛ヲ伐タント欲シ乃チ英國ト同盟ス之ヲ第二同盟ト云フ埃兵佛蘭西公使ヲ殺セシカバ佛人大ニ怒リ兵ヲ出シテ各所ニ戰ヒ敵ヲ盡ニシ埃地利ノ力全ク盡キ千八百一年二月遂ニルヂーヴヰルニ於テ和議ヲ講セリ尋テ獨乙諸國モ亦佛國ト和ス是ニ由リ獨乙全國ノ形勢一大變革ヲ爲セリ即チ僧徒ノ政權ヲ奪ヒ之ヲ俗官ニ與ヘ選帝官ノ三僧ヲ廢シ新ニ他ノ諸侯ヲ選帝官ニ任シ六府ヲ

獨乙全國ノ大變革

千八百年代

第三同盟

來因同盟

除クノ外ハ悉ク自由都府ノ特許ヲ奪ヒ寺領ヲ廢シ許多ノ侯國ヲ滅シ
 巴威里巴丁瓦敦堡ハ爲メニ領土ヲ廣メシテ少ナカラズト雖モ此際最
 モ利ヲ得タル者ハ普魯士ニシテ大ニ領地ヲ開キタリ時ニナポレオン
 佛國ノ帝位ニ登リ幾ント歐羅巴全洲ヲ蹂躪シテ之レニ無禮ヲ加ヘ兵
 威萬國ニ輝ヤキ之レニ敵スル者ナシ是ヲ以テ千八百五年英吉利魯西
 亞瑞典ノ三國同盟シテ佛蘭西ヲ伐タントス埃地利モ亦此同盟ニ加ハ
 リ之ヲ第三同盟ト云フ普魯士ハ佛蘭西ノ臣ニハノーブエルヲ與ヘン
 一ヲ期シテ未ダ此ノ同盟ニ加ハラズナポレオンハ大兵ヲ率非テ維納
 ニ入り魯西亞帝獨乙帝之ヲ邀ヘ戰ヒ大ニ破レ二萬五千人ヲ生擒セラ
 ル幾何モ無ク兩國和ヲ講シ埃地利ハ多ク地ヲ失ヒタリナポレオン之
 ヲ朋友功臣ニ與ヘ新ニ王國ヲ立テタリ翌年ナポレオン來因同盟ヲ建
 設シ獨乙帝國ト分離シ自ラ其盟主ト爲リ一ハ以テ佛國ノ保障トナラ
 シメ一ハ以テ己ヲ助ケテ魯西亞普魯士ヲ擊タシメンガ爲メナリ此年
 獨乙帝フランシス二世ハ其尊號ヲ去リ唯ダ埃地利帝ト稱セリ

英國普魯士侵
カス

普魯士大敗佛

是ヨリ先キ普魯士王フレドリッキウヰルヒルム死セリ其即位ノ時ハ先
 王ノ遺金七千二百萬弗アリト雖モ在位ノ間驕奢度ナク負債二千八百
 萬弗ニ及ベリ其子フレドリッキウヰルヒルム三世位ヲ嗣ク資性嚴肅能
 ク遊惰ヲ矯正スルニ足ルト雖モ先王ノ寵臣ホーグウヰツクノ言ヲ用
 井苟且儉安徒ヲニ時日ヲ費シ後チハルデンブルグノ議漸ク行レ千八
 百五年ノ秋埃普二國ト共ニ佛國ヲ伐タント約セリ因テホーグウヰツ
 クヲ維納ニ遣ハシ既ニ戰爭ノ日ヲ定メ未ダ其期ニ至ラズ埃國ハ佛國
 ト和ヲ講ス此ニ於テホーグウヰツク驕然圖ヲ改メ佛帝ニ謁シテ其戰
 捷ヲ賀シ普魯士ニ屬スル南方諸州トハノーヴエルト交換センコトヲ乞
 フ佛帝能ク其情ヲ知ルト雖モ陽ニ之ヲ許ス英國ハ普國ノ反覆ヲ見テ
 大ニ怒リ其船舶四百余隻ヲ奪奪ス又佛帝ハ普國ヲ虐待シ其國權ヲ破
 リ領土ヲ侵ス是ヲ以テ國民大ニ憤激シ遂ニ英魯ノ援ケヲ得テ千八百
 六年ノ秋佛國ヲ伐ツコトヲ布告セリ然レモ普魯士ハ軍備未ダ整ハズ麻
 將弱卒ナレハ佛ノ堅甲利兵ニ敵スル能ハスセーナノ第一戰ニ大敗シ

ナポレオン揚々トシテ伯林ニ入ルト雖也之ヲ防ク者ナク盡ク普魯士ノ兵器彈藥ヲ奪ヒタリ然ルニ伯林ノ人民ハ却テ佛軍ノ來ルヲ喜ビ佛帝ノ萬歳ヲ唱ヘ國家ノ顛覆スルヲ憂ヘズ伯林既ニ敵ニ降ルヲ以テ諸城皆モ續々降伏シ佛兵ハ進ンテ波蘭ニ入ル波蘭ハ久シク普魯士ノ羈絆ヲ厭フヲ以テ軍食壺漿シテ之ヲ迎ヘリゼーナ敗軍ノ後普王ハクニグスブルグニ退キ魯帝ト此ニ會シ佛將ト戰ヒ利ヲ得シテ少ナカラズト雖也千八百七年六月佛帝トフリードランドニ戰ヒ大ニ敗績セリ佛兵ハ來因河ヨリウチヌチエラニ至ル間一人ノ敵ニ逢ハス大砲ヲ奪フテ四千門士卒ヲ捕殺スルヲ八萬迷ニ普魯士ヲ顛覆ス千八百七年同盟各國テルシットニ於テ佛帝ト和親ノ條約ヲ結ビ普魯士王ハ其領地ノ半ト人民五百萬償金壹億四千萬フランヲ佛國ニ與ヘ常備兵ヲ減シテ四萬三千ト爲セリ佛帝ハハノーヴエル、ヘツス、カツセルト普魯士ノ屬地ヲ合セテ弟ヲ封シウエストハリヤ王國ト稱セリ薩索尼侯ハ佛國ニ同盟セシ故ヲ以テワルソーノ大侯國ヲ得テ王國ト爲リタリ

獨乙帝ヲフランシスハ氣運ノ然ラシムルヲ察シ佛帝ナポレオンノ西班牙ニ在ルヲ幸トシ檄ヲ傳ヘテ兵ヲ募リ集ル者無慮四十萬人帝親ヲ兵ヲ率非テ來因河ノ右岸ニ陣シナポレオンハ西班牙ヨリ獨乙ニ歸リ來因同盟ノ盟主ト爲リ令ヲ傳ヘテ曰ク我ノ此ニ來ルヤ唯々獨乙ノ地ヲ守リ獨乙同盟ヲ助ケント欲スルニアルノミ諸子カヲ盡シテ必ズ敵ヲ破ルベシト千八百九年四月獨乙兵ト戰フテ五回之ヲ破リ更ニ進ンテ維納ニ逼リ遂ニ之ヲ取ル時ニ獨乙地侯チャーレス兵ヲ率非テホヘミヤヨリダニウブ河ノ左岸ニ陣シ戰ヲ挑ミナポレオンハ河ヲ渡リテ之ト戰ヒ敗ヲ取ルト雖モ各國ノ援兵ヲ得テ大ニ獨乙兵ヲ敗レリ是ニ於テ七月十二日休戰ノ假條約ヲ爲シ翌年十月遂ニ和親ノ本條約ヲ締結セリ則チ獨乙地利ハサルズブルグヲ巴威里ニ波蘭ノ略地ノ大半ヲ普魯士亞及ヒワルソー侯ニダルマシヤ及ヒ伊太利ノ諸地ヲナポレオン帝ニ與ヘリ是ヨリ先キナポレオンハ其妃シヨセヒンヲ離別セシヲ以テ千八百十年獨乙國ノ公主アリセルイサヲ娶リ皇后ト爲セリ

普魯士ハ求メテ取リ大ニ佛國ノ羈絆ニ困ミシト雖ヒ人心爲メニ奮興シ政治ヲ整革シ兵制ヲ改良シ兵事ヲ掌リシ貴族ノ特權ヲ奪ヒ庶民ヲノ政治ニ參與セシメタリ是ヲ以テ國富ミ兵強ク復タ昔日ノ比ニ非ラス陽ニ佛國ト和スト雖ヒ陰ニ軍備ヲ爲シ時ノ至ルヲ待テ之ヲ伐タント欲シ新ニ徵兵法ヲ創メ一旦事アルノ時ハ全國ヲ擧ケテ兵トナス千八百十二年ナポレオン五十萬ノ大兵ヲ率テ魯西亞ニ入り大ニ敗レ生テ歸ル者僅カニ三萬人ニ過キズ是レニ由リテ普魯士ハ魯西亞ト攻守同盟ヲ爲シ佛蘭西ヲ伐タントセリ此ノ時ニ當リ英國モ亦同盟ヲ爲シ兵器、彈藥及ヒ鉅萬ノ金ヲ與フルヲ約シ埃地利ハ中立判者トナリ更ニ常備兵七萬ヲ増セリ千八百十三年同盟諸國佛兵ト各處ニ戰ヒ勝敗未タ決セズ共ニ埃國ノ援ケヲ望ミ七週間休戰ノ約ヲ爲セリ蓋シナポレオン埃國ノ向背ヲ以テ勝敗ヲ決セントセシニ由ルナリナポレオンハ埃地利ハ己ノ姻家ナルヲ以テ必ズ己ヲ助ケント思ヒ同盟諸國モ亦必ラズ然ルナラント信セリ然ルニ埃國ハ未ダ依違シテ決セズ

ナポレオンハ到底和ノ成ル可ラザルヲ知り大ニ戰備ヲ爲シ兵士ヲ集ル大約四十萬人大砲千二百門ニ及ビ同盟諸國ハ密ニ埃國ト通シ大ニ兵ヲホヘミヤニ集メリ埃國ハナポレオンニ要求書ヲ送ルナポレオン之ヲ聽カズ因テ佛國ヲ伐タント布告セリ同盟各國ハ戰備全ク整ヒ休戰條約ノ期既ニ滿チシヲ以テナポレオント各處ニ血戰シ或ハ勝チ或ハ敗レ遂ニ大ニ佛軍ヲ破リナポレオンハ僅カニ身ヲ以テ免ル是ニ於テ來因同盟ハ其盟ヲ解キ各國皆之ニ傲ヒ約ヲ破リテ將サニ佛國ニ入ラントシ其人民ヲ諭シテ曰ク今同盟國ノ佛國ニ兵ヲ加フルハ其人民ヲ伐ツニ非ラズ只ナポレオンヲ罰セントスルノミト然レヒ佛國人民猶ナポレオンニ服シ其旗下ニ集ル者甚々多シ千八百十四年一月同盟諸國兵ヲ四軍ニ分チ佛國ニ入り連戰數月ニ彌リ佛國ノ將士多クナポレオンニ叛キケレハナポレオンモ遂ニ事ノ爲ス可ラサルヲ知り四月十日位ヲ避ケテエルバ島ニ入ル同年九月同盟諸國維納ニ會シ事ヲ議ス爭論止マズ各國ノ和議殆ント破裂セントスルノ勢ナリナポレオ

第二ノ和親條約

ン之ヲ開キ千八百十五年二月エルバ島ヲ脱シ翌月巴里ニ來ル此報維
 納ニ達スルヤ維納ノ會議未タ散セザルヲ以テ乃チ檄ヲ傳ヘテナポレ
 オンヲ伐ツ七月ワオトルローニ戰ヒ大ニ之ヲ破リ十一月巴里ニ於テ
 第二ノ和親條約ヲ締結シタリ是ヲ以テ歐洲一般安寧ニ歸シ獨乙ノ形
 勢一變ス埃地利ハ新ニヴエニスラフン等ヲ始メ數州ヲ得普魯士ハ波
 蘭ノポーセン侯國瑞典所屬ノボメラニヤサヤソニーノ半ウエストハ
 リアノ一部及ヒ下ラインヲ得埃地利ハ大ニ領地ヲ廣メシト雖ヒ人口
 ハ土地ニ比較スレハ少ナク其他ノ諸州ハ土地人口殆ント昔日ト異ナ
 ル所ナシ是ニ於テ獨乙諸州悉ク同盟シ獨乙同盟ト稱ス三十九州及ヒ
 四自由市府ヨリ成リ埃地利ヲ以テ之ガ盟主ト爲ス是時ニ當リ獨乙全
 國ニ民權ノ論大ニ起リ各大學校モ盛ンニ之ヲ唱ヘ國中甚タ穩カナラ
 ズ因テ各州憲法ヲ制定シ以テ民心ヲ慰セリ千八百十八年魯國公使ハ
 獨乙諸大學校ノ動靜ヲ見テ變亂ノ兆アリトシ之ヲ同盟政府ニ告ク獨
 乙ノ民權黨ハ之ヲ聞キ大ニ怒リ深ク魯西亞ヲ憎メリ是ノ時ニ當リ民

獨乙同盟

民權論ノ勃興

權論ハ益盛ニシテ暗殺ヲ企ル者往々之レアリ同盟各州ハ警察ヲ嚴
 ニシ壯年輩ヲ捕ヘテ牢獄ニ填充スト雖ヒ絶テ功驗ナシ此際博士ノ或
 ハ職ヲ奪ハレ或ハ國ヲ逐ハレシ者モ亦少ナカラザリシト云フ爾後千
 八百三十年佛蘭西ノ大革命迄ハ獨乙全國無事ニシテ記スベキコトナ
 シ千八百三十年佛蘭西大革命ノ餘焰忽チ歐洲大陸ニ蔓延シ各國皆ナ騷
 亂ニ苦マザルハ無ク之レヲ免レシ者ハ唯タ英魯二國ノミ蓋シ英魯二
 國ノ此害ヲ蒙ラザリシ所以ハ其原因一ニシテ而シテ足ラズト雖ヒ魯
 國ニ於テハ貧富ノ度大ニ隔絶シ政令周ク到テ能ク下民ヲ制御シ下民
 之レニ抗スルノ力無キニ由ルナリ英國ニ於テハ國民ノ自由ヲ得ル比
 較シテ最モ多ク且ツ叛亂ハ政府ヲ改良スルノ良機械ト思ハザレバナ
 リ然レモ他ノ諸國ハ形勢ヲ異ニシ英國ノ如キヲ得ス比耳時ハ先ツ兵
 ヲ舉ケテ壓制ノ羈絆ヲ脱シ自由ノ權利ヲ得其ノ風遂ニ獨乙ノ各州ニ
 播及シ千八百三十年ヨリ四十八年迄ノ形勢ヲ包括シテ略述スレハ不
 倫瑞候ハ人民ノ至正至當ノ要求ヲ聽カズ佛蘭西ノ殷鑑アルモ自ラ戒シ

獨乙國騷擾

ムルヲ知ラズ人民ニ答ヘテ曰ク吾レ吾カ位ヲ保護スルニ於テハ
王ニ長スル所アリ若シ我民ニシテ我命令ヲ奉セザル者アレバ吾レハ
乃チ我カ砲丸ヲ以テ之ニ加ヘンノミト是ヲ以テ人民大ニ怒リ其主ノ
宮殿ヲ襲ヒ之レヲ燒キ侯ハ僅カニ身ヲ以テ免レ其ノ弟僅カニ留リテ
位ヲ嗣キ憲法ヲ制定セリ薩索尼ノ人民モ亦其王ヲ要シテ大ニ國民ノ
人望ヲ得タル甥フレドリッキヲシテ政ヲ行ハシメ憲法ヲ定メタリ
ノ人民ハ其ノ君ヲ要シテ其子ニ讓ラシム然レモ人民ハ其利ヲ得ル
無シ普魯土王フレドリッキ、ウヰルヒルム四世ハ賢明ノ聞アル英主ナリ
ト雖モ政體ハ時勢ノ變遷ニ從テ改革セザル可ラサルヲ知ラス是ニ
於テ人民反旗ヲ翻ヘスニ至レリ蓋シ普魯土ハ先王フレドリッキ、ウヰ
ルヒルムノ時大ニ各大學校ヲ勸奨シ汲々トシテ人民ノ教育ヲ務メシ
ヲ以テ他國ニ比スレバ頗ル盛ンニシテ觀ルベキ者アリ千八百三十六
年獨乙ニ於テ始メテ鐵道ヲ起シ普魯土壤地利ニ於テハ政府之ヲ造レ
リ千八百四十七年普魯土ハ州會ヲ變シテ國會ト爲シ代議政體ヲ採用

シ將ニ之ヲ開カントセシカ忽チ其議ヲ變シ憲法ヲ制定スルハ尙早シ
ト布告シ前議ヲ取消シタリ是ニ於テ變亂忽チ起リ翌四十八年人民叛
亂ノ王兵ト戰フ一四日ニ彌ル然レモ衆望猶ホ王ニ屬セシニ因ル乎人
民王ニ降服シ王ハ永ク平安ヲ保タン一ヲ約シ悉ク兵ヲ散シ又大臣ノ
職ヲ改メ民望ヲ得タル者ヲ以テ舉用ス故ニ人民ハ大ニ驩喜セリ獨乙
議院ノ會場フランクホルドニ於テモ亦騷亂ヲ醸シ志士五十一名ヘ一
アルベルグニ集リ假議院ト稱シ會合セン一ヲ約シ期日ニ至リ來リ集
ル者無慮三百人ニ及ベリ是等ノ徒ハ概テ憲法上ニ於テハ政權ヲ有セ
ザリシ者ナレモ議院ノ認可ヲ經テ特別ニ令ヲ發セシヲ以テ同盟諸州
中之ヲ遵奉スル者アルナリ殊ニ急進黨ハコンスタンスニ於テ共和政
治ヲ創立シ獨乙同盟ノ將軍ガゲルンヲ斬ル是ニ由テ假議院ハ暫ク之
レト爭ヒ後チ別ニ一政府ヲ立テ埃帝シヨンヲシテ之ヲ統治セシメ獨
乙議院ヲ解散シ假政府ニ讓リシ一ヲ布告セリ維納ニ於テモ亦々騷亂
ヲ起ス是レ人民ノ亂ト稱ス可カラス埃國政府ト匈牙利人トノ爭鬪ト

云フ可シ此時メッテルニツチナル者匈牙利ニ向テ專制ヲ施セシニ由リ其
 議院痛ク之ヲ論シ維納ノ人民ハ之ヲ聞テ政府ニ迫リメッテルニツチヲ
 逐ハンヲ請フ此時帝ハ怯懦ニシテ爲ス所ヲ知ラズ匈牙利人モ未タ
 反カズ國人モ猶起ラザルノ前既ニ帝都ヲ奔レリホヘミヤノ首府ブレ
 ーグニ於テモ亦混亂ヲ免レズ其國ノ人民假政府ヲ設ケ其君王ノ妃ヲ
 銃殺セリ埃國ノ議院ハ帝ヲ迎ヘテ維納ニ還ラシメ匈牙利ト戰ヲ開ク
 帝ハ事ノ容易ニ成ル可ラザルヲ知リ魯西亞ト聯合シ大ニ匈牙利ヲ
 破ル此際又スレスヴグホルスタインニ公國ノ爭亂アリロンバルデー
 ハサルヂニヤ王ノ助ヲ得テ埃國ニ叛ケケレトモ埃國伐テ之ヲ破ル時
 ニ埃國ハ諸屬地ノ政治風俗ヲ一致セント欲シ獨乙同盟ニ力ヲ盡サズ
 其他數多ノ原因アリテ同盟議院ハ千八百四十九年普魯士王ヲシテ世
 々獨乙ノ帝位ヲ踐マシメント議決セリ普魯士王ハ之ヲ受ケズ埃國モ
 亦之ヲ拒ミ爾來埃普兩國漸ク相ヒ競ヒ他ノ小國モ互ニ相軋リ或ハ普
 魯士ニ附從シテ事ヲ爲サントスル者アリト雖也過半ハ埃國ニ與ミシ

埃國ノ軋

タレハ千八百五十年普魯士ハ新ニ議院ヲ設ケントスレハ埃國之ヲ聽
 カズ此時ヘツスカツセルノ君主暴政ヲ行ヒシニ由リ埃普ノ間ニ隙ヲ
 生セリ蓋シヘツスカツセルノ君主ハ奸臣ヲ擧ケテ大臣ト爲シ奸臣ハ
 歳入豫算表ヲ示サズシテ租稅ヲ増サント欲シ人民之ヲ聽カズ之ヲ
 惡ムヲ以テ君主ハ奸臣ト共ニフランクホルドニ奔リシニ議院ハ威ナ
 埃國ノ黨與ナレバ之ヲ助ケテ普魯士ニ抗セント決シ兩國兵ヲカツセル
 ニ進メリ魯西亞帝其判決ヲナシ遂ニ埃普兩國和ヲ講セリ千八百五十
 三年及ヒ四年ハ獨乙全國平和ニシテ記ス可キヲ無シト雖也魯西亞ノ
 兵ト歐羅巴西部諸國ノ軍トクリミヤニ戰ヒ歐洲一般騒然タリ蓋シ此
 戰爭ニ關シ埃普兩國ノ向背ヲ以テ該戰ノ勝敗ヲ決スルニ足レリ故ニ
 二國ノ舉動如何ヲ畧陳スレバ初メ普魯士ノ人民ハ英佛ヲ助ケントシ
 政府ハ魯西亞ヲ救ハント欲シ議未タ決セス普魯士ノ議院ハ政府ノ斷
 然タル處置ヲナササルヲ惡ミ之ヲ痛論スト雖也深ク慮ル所アリテ未
 タ向背ヲ決セス抑々魯士ノ戰爭ハ獨乙全國ノ利害ニ關スルヲ他國ノ

クリミヤ戰爭

比ニ非ラズダニウブ河ノ自由通船ノ如キハ獨乙ニ關スル極メテ大ナリ故ニ普魯士モ大ニ之ヲ畏ル是レ遷延シテ事ヲ決セザルノ一源因ナリ埃地利モ亦普魯士ト同シク因循不斷未タ向背ヲ決セズ其然ル所以ハ是亦許多ノ源因アリ埃地利ハ魯西亞ノ力ニ由リ千八百四十八年ノ匈牙利ノ亂ヲ平クルヲ得タルヲ以テ義ニ於テ魯西亞ニ背キ西部諸國ヲ助ルヲ能ハズ且英國ハ匈牙利人ヲ愛シテ埃國ヲ疎ニシ往々輕侮ヲ加フルヲ以テ斷然魯ヲ助ケザルヲ得ズ然レハ普ト既ニ兩虎ノ勢ヲ爲シタルヲ以テ亦之ト共ニ事ヲ爲シ魯ヲ助クルヲ得ズ是レ其向背ヲ決セザリシ所以ナリクリミヤ戰爭ノ後三年間ハ獨乙全國安寧ニシテ魯佛ハ戰ニ疲レ獨乙ノ事ニ關涉スルヲ得ズ埃普ハ已ムヲ得ズ友誼交情ヲ保維シタリ千八百五十六年ポールタレース侯數百人ヲ率非テニユーシヤテルノ城ヲ取り普魯士王ノ命ナリト宣言セリ瑞西同盟議院ハ兵ヲ發シテ之ヲ擊チ捕殺セラレシ者百餘人普魯士王之ヲ聞キ直チニ命シテ捕者ヲ放タシム蓋シニユーシヤテルハ千七

ニユーシヤテルノ事件

百七年ニハブランデンブルク家ノ臣屬ト爲リ千八百六年ナポレオンニ奪ハレシ迄ハ依然トシテ普魯士ニ屬シ千八百十五年和議ノ後チ再ビ普魯士ニ屬シ兼テ瑞西同盟國ノ一部ト爲リ特殊ノ憲法及ビ特許ヲ得タリ千八百四十八年ニ至リニユーシヤテル制度ヲ改正シテ瑞西諸州ト同一ナラシメント欲ス是ニ於テ五大國相議シ再ビ之ヲ普魯士ニ屬セント決セリ此時前ニ記シタル事起リ爭論久シク決セズ瑞西人ハ佛蘭西ノ干涉ヲ怨ミ英佛普埃ノ四大國之レニ干涉シ普魯士王ニ説キニユーシヤテルノ政權ヲ棄テ瑞西政府ヨリ百萬フロリンノ金ヲ受ケシメ共事緒ニ就キタリ千八百五十九年一月一日佛帝ナポレオン三世外國公使ヲ招待セシ時埃國公使ニ謂テ曰ク朕ハ貴國ト弊邦トノ交誼從前ノ如ク厚カラサルヲ哀ムト時人之ヲ聞テ兩國交誼ノ親密ナラザルヲ信ゼシガ果シテ數月ヲ過キズ遂ニ兩國ノ爭端ヲ開クニ至レリナポレオン三世常ニ伊太利ヲ助ケテ埃地利ヲ倒サント欲シ其名義ナキニ苦シムト既ニ久シ且サルヂニヤ國ハ西部諸國ノ力ヲ假リ伊太利

英佛戰爭ノ因源

ノ北部ヲシテ埃國ノ羈絆ヲ脱セシメント欲セリ然ルニ埃國ハ多ク兵ヲ邊境ノ諸府ニ屯セシメタレバ伊太利人ハ之ヲ見テ埃國ハ時ヲ待テ我ヲ伐タントスルナリト思惟ス千八百六十年四月埃國ノ兵突然進ンテ戰ヲ開キ佛蘭西ノ兵モ亦進ミ之レニ應セリ埃國ノ斯クノ如ク卒然兵ヲ動カセシ所以ハ之ヲ知ル可ラズト雖ヒ蓋シ大兵ヲ以テ邊塞ヲ成リ其費ニ堪ヘザルト兵士ヲシテ無事ニ逸セシムルヲ恐レシ者ノ如シ英國ハ埃國ノ此舉動ヲ見テ無名ノ師ト爲シ是ヨリ起ル所ノ損害ハ埃國地利其實ニ任ス可シト公告セリ兩軍兵ヲ接セシト七十日埃國ハ戰フ毎ニ利ヲ失ヒ遂ニ兩國和親ノ條約ヲ爲セリ此戰爭ニ於テ佛國ハ勝ヲ制シ地ヲ得シト雖ヒ其得ル所其費ス所ヲ償フニ足ラズ埃國ハ地ヲ失ヒシト雖ヒ守ル可ラザル平原ノ邊陲ヲ失ヒタルガ故ニ政略上却テ利ヲ得タリ此年埃國憲法ヲ制定シテ匈牙利ノ世襲貴族ヲ廢シ何族ニ拘ハラズ租稅ヲ平等ニ納メシメ租稅ヲ收ムル者ハ發議ノ權アリト定メタリ然ルニ匈牙利人ハ皆テ舊法ヲ復スルヲ希望シ租稅ヲ拂フ

埃國新憲法ヲ制定ス

普國政府ト其代議院トノ爭論

ト拒ミシヲ以テ埃國ハ遂ニ匈牙利ノ議院ヲ廢シ兵力ヲ以テ其人民ヲ抑壓シ以テ租稅ヲ出サシメ且ツ之ヲ待スルニ屬國ノ禮ヲ用非ズ新ニ攻取シタル國ヲ御スルガ如ク之ヲ遇スルヲ甚酷ナリキ千八百六十二年普魯士ニ於テ政府ト代議院トノ間ニ爭論起レリ此時ニ當リ普國太平ニシテ復タ兵ヲ用ユルヲナシ然ルニ政府ハ頻リニ兵備ヲ爲シ徒ラニ無益ノ費ヲ増シ且凡百ノ政略其宜ヲ得ザルヲ以テ代議院ハ冗兵ヲ沙汰シ軍費ヲ減少スルノ議案ヲ提出ス諸大臣ハ之ヲ喜ハズ多ク其職ヲ辭ス然ルニ新任大臣ハ代議院ト同說ヲ主張シケレハ王ハ之ヲ聽カズ新タニ議員ヲ撰ビ之ヲ議セシメシニ新議院モ亦減少說ヲ主張シ敢テ屈セズ王乃チビスマルク侯ヲ舉ケテ宰相ト爲ス然レヒ侯モ亦民心ヲ慰スルニ足ラズ官民ノ輒轢ハ滋々甚シク已ニ革命ヲ起サントスルニ迫リ王ハ其有スル特權ヲ毫厘モ假サズ之ヲ使用ス可シト云ヒ宰相ビスマルク侯ハ上院ニ於テ既ニ歲出入豫算表ニ同意セシ上ハ代議院ニ拘ハラズ租稅ヲ徵集シ政府ハ獨立シテ專ラ事ヲ行フ

ビスマルク公ノ演說

代議院ノ議決

可シト明言セシニ至レリ翌六十三年ニ至リ議院ハ王及ビ宰相ヲ惡ム
 一愈々甚クシクビスマルク侯ハ人ニ接スル驕傲ニシテ事ヲ處スル
 專斷ナルヲ以テ恭謙遜讓ノ人ト雖モ皆之ヲ厭ヒ下院ノ議員ハ其一讀
 會ニ於テ宰相ハ憲法ヲ破リ唯王ト上院ノ同意シタル歳出入表ヲ以テ
 租税ヲ徵集セリト六十八人ニ對スル二百五十五人ノ多數ヲ以テ之ヲ
 決セリ獨リ下院ノミナラズ上院モ亦其專斷抑壓ヲ惡ミ或ハ議員出席
 セザリシヨアリ時ニ説ヲ爲ス者アリ曰ク普魯士ハ魯西亞ト約シ波蘭
 人ノ普魯士ニ奔リ來ル者アレバ之ヲ捕ヘテ魯西亞ニ與ヘ且魯兵々器
 ヲ携ヘテ普魯士ノ境内ニ入り波蘭ノ奔人ヲ逮捕スルヲ許セリト是
 ニ於テ議院ハ會議ヲ開キ兩國ノ争ニ關セズ魯兵ノ普魯士ニ入ル者ハ
 悉ク兵器ヲ脱セシム可シト五十七人ニ對スル二百四十六人ノ多數ヲ
 以テ之ヲ決セリ此ニ於テ王ハ大ニ怒リ議院ニ答テ曰ク議院若シ王者
 ノ特權ヲ犯カサバ政府ハ議院ニ問ハズ專ラ其財計ヲ決シ事ヲ行フ
 可シト普魯士ノ學士論客ハ或ハ著書ニ或ハ新聞ニ或ハ演説ニ痛ク政

言論出版ヲ嚴
制ス

府ノ政略ヲ論シ大ニ宰相ノ行爲ヲ非トセルヲ以テビスマルク侯ハ言
 論出版ハ國家ノ安寧ヲ妨害スルノ鳩毒ナリトシ大ニ言論出版ノ自由
 ヲ制限シ著書新聞ハ續々發行停止ノ嚴命ヲ受ケタリ然レトモ太子ハ
 賢明ニシテ大ニ之ヲ愛ヒ出版條例ノ過嚴ナルヲ論シ併セテ宰相ノ專
 横ナルヲ訴フ王ハ之ヲ怒リ太子若シ失言ヲ改メズンバ官職ヲ奪フ可
 シト恐喝スト雖モ太子ノ誠忠ナル自若トシテ畏レズ政府ノ專横ヲ痛
 論セリ

二侯國ノ事件

是時ニ當リ獨乙同盟互ニ軋轢シ蚌鷸ノ争漁者ノ利トナラントスルノ
 勢アリ埃帝之ヲ愛ヒ千八百六十三年同盟諸國ヲ會セントス普魯士ハ
 其既ニ得タル權威ヲ減殺センヲ恐レ此會ニ出ツルヲ拒メリ是レ埃
 普戰爭ノ起リタル一原因ナリ此年丁抹王死ス自由黨ハスレスウ井グ
 ホルスタインノ二侯國ニ在ル丁抹ノ兵ヲ逐ヒ且オーガステンブルグ
 侯ニ二侯國ヲ與ヘ千八百五十二年五大國ノ可認シタル倫敦ノ條約ヲ
 廢セント欲セリ又二侯國黨ナル者起リ丁抹ト二侯國トヲ分離シ更ニ

憲法ヲ制定セント唱ヘリ初メ丁抹ト二侯國トノ條約ハ同一ノ憲法ヲ行フヲ約セリ丁抹ノ政府ハ常ニ此約ヲ踐ミシト雖ヒ兩侯國ニ在ル獨乙人ハ之ヲ踐マス丁抹新王ノ位ニ即クヤ獨乙ハ丁抹ノ權利ヲ奪フノ好機會ナリト思惟シ獨乙議院ハ主張シテ曰ク丁抹王ハホルスタインノ侯ナルヲ以テ獨乙同盟ノ一員タラザルヲ得ズ既ニ獨乙同盟ノ一員ナリトセハ宜シク獨乙同盟ノ命令ヲ奉ス可シト然レヒスレズ非クノ事ハ獨乙ノ關スル所ニ非ラザルヲ以テ丁抹ハ之ヲ聽カズ是レニ由リテ獨乙同盟議院ハ千八百六十四年ノ初メニハノーヴエル薩索尼ノ兵ヲ遣ハシテスレズヰグノ事件ヲ處分セシメント欲シ丁抹ノ兵トアイドル河上ニ對陣シ普魯士埃地利ノ兵モ亦スレズヰグニ入ル蓋シ普魯士ノ兵ヲ出セシヤホルスタインヲシテ獨立セシメント欲セシニ非ラスキール港ヲ得テ海軍ノ屯所ト爲サント欲セシニ由ルナリ然リト雖ヒ公然之ヲ普魯士ニ合セント云フ時ハ獨乙同盟ノ怒ヲ來サント必然ナルヲ以テ權謀ヲ用非テ埃地利ニ說キ各小國ノ兵ヲシテス

普魯士軍ノ目的

レズヰグヲ出テシメ埃普二國獨乙同盟ノ代理者ト爲レリ埃國ハ後チ大ニ其失計ヲ悔ユ既ニシテ兩國ノ兵ハスレズヰグニ入リシニ丁抹ノ兵ハ寡ク之レニ敵スルヲ能ハズシテ退ク埃地利ノ兵ハ遂ニ其北部及ヒデヨットランドニ徇ヘテ之ヲ降セリ埃普兩國ハ斯ノ如ク暴威ヲ以テ弱國ヲ苦メシガ故ニ歐羅巴全洲ノ物議恟々タリ殊ニ英國ハ世々丁抹ト交ヲ修メ且近頃其太子ハ丁抹ノ公主ヲ娶リシニ由リ益々其交情ヲ深クセシヲ以テ大ニ怒リ痛ク普魯士ノ殘暴ヲ論シ學士論客ハ兵ヲ出シテ普魯士ノ暴行ヲ止ム可シト唱フレトモ普魯士ノ兵ハ既ニ諸城ヲ拔キ全勝ヲ得タリ嚮キニ薩索尼ノ兵ハ獨乙議院ノ命ヲ奉シテレンツブルグニ在リシガ突然普魯士ノ大兵ニ逐ハレ是ニ於テ薩索尼ハ大ニ怒リ普魯士ハ獨乙同盟ノ約ヲ破レリト云ヘリ千八百六十四年十月丁埃普ノ三國維納ニ會シ今ヨリ後ハ埃普二國ハ共ニスレズヰグホルスタインローエンブルグ王國ノ政治及ヒ軍事ヲ掌ルベシトノ條約ヲ爲セリ而シテ此三國ノ事ヲ司ルハ唯々一時ナルヲ公告シ埃

埃普丁ノ三國維納ニ會ス

地利ハ後チ速ニ其管理ノ職ヲ辭センコトヲ欲シオーガステンブルグ家トオルテンブルグ家トノ相續ヲ論スル迄ハオーガステンブルグ侯ヲ三侯國ヲ治メシメテ初メテ兵ヲ起シタル趣旨ニ背カザラント欲セリ然ルニ普魯士ノ意見ハ全ク之ト反シ二侯國ヲ併呑スルニ在リ宰相ピスマルク侯ハ議院ニ於テ普魯士ハ三侯國ヲ取ルコト能ハサレハキール港ヲ取ル可シト公言セリ是ニ於テ墺普二國ノ君主ガスチンニ會シ條約ヲ爲シ普魯士ハスレスヴヰグヲ取り墺地利ハホルステーンヲ得キール港ヲ以テ獨乙同盟ノ自由湊ト爲シ普魯士ニ於テ港事ヲ掌ルヘシト決ス其後チ四月ヲ經テ墺帝ハ維納ノ條約ニ由リテ得タルローエンブルグヲ普魯士王ニ賣レリ斯ノ如ク墺普二國ハ專斷ノ處置ヲ施セシヲ以テ歐洲一般之ヲ惡ミ萬國公法ニ背クノミナラズ天理人道ヲ破リタリト唱ヘタリ然レモ墺普二國ハ二侯國ニ守令ヲ置キ其領地ナル旨ヲ布告セリ此時ニ當リ普魯士ハ國富ミ兵強ク獨乙ニ覇タルノ心アリ然レモ其名ナキヲ以テ墺地利ノ畧地ホルスタインヲ爭フヲ以テ口

二侯國ノ處分

墺普戰爭ノ
淵源

實トナシ千八百六十八年六月普魯士ハ兵ヲ遣ハシテホルスタインヲ取り二侯國ヲ統治セリ是レ墺普戰爭ノ淵源ナリト雖モ獨リ之レノミニ止ラズ嘗テ墺地利ハヴエチンヤノ地ヲ得シト雖モ元來之ヲ有スベキノ權利アルニ非ラズシテ伊太利人ハ之ヲ復セント欲スルノ念殊ニ深シ因テ伊太利ハ大ニ兵備ヲ爲シテ之ヲ復セントシ墺地利モ亦大ニ兵ヲ増シ之レニ應セントス普魯士ハ之ヲ見テ己ヲ攻撃スルナラント思ヒ乃チ檄ヲ獨乙各州ニ傳ヘ墺普今將サニ戰ヲ開カントス諸貴國ハ何レヲ助ケントスルヤト其向背ヲ問ヒ新ニ伊太利ト通シヴエチンヤヲ復シテ伊太利ニ與ヘンコトヲ約セリ是ニ於テ普魯士ハ斷然獨乙同盟ヲ破リ議院ヲ退ク是レ墺普戰爭ノ終局原因ナリ當時墺地利ノ版圖ハ積面二十九萬四千英方里ニシテ人口三千五百萬アリ然ルニ普魯士ノ領地ハ積面十二萬七千英方里ニシテ人口千百萬ニ過キズ墺地利ハ地廣ク人多シト雖モ兵備未ダ全カラザルヲ以テ急ニ兵ヲ整フ普魯士ハ之ニ反シ兵備常ニ整ヒ國民齡二十ニ達スレバ必ラズ兵役ニ服シ三年

墺普二國ノ
陸境

普魯國ノ出軍

常備軍ニ入り後五年豫備軍ニ入り後十一年民兵ニ屬シ一朝事アルノ時ハ令ニ應シテ起ツベキノ定則ナレバ平時ト雖モ戰時ト異ナル所ナシ是ヲ以テ兵備立ロニ整頓シ數日ナラズシテ二十五萬ノ兵ヲホヘミヤニ出ダセリ六月十四日普魯士電信ヲ以テハノーヴエルヘツスカツセル薩索尼ノ三國ニ檄ヲ傳ヘテ曰ク兵ヲ減シテ平時ノ如クス可シ若シ十二時間ヲ過ギテ答ヘザル時ハ乃チ兵ヲ加フ可シト三國皆答ヘズ是ヲ以テ普魯士ハ三國ヲ征討スルノ令ヲ發シテ之ヲ攻メ數日ナラズシテ二國ヲ畧シ其君ヲ逐ヒタリ蓋シ普魯士ガ此三國ヲ畧スルハ來因河上ノ諸屬ニ達スル通路ヲ開クニ欠ク可ラザルヲ以テナリ時ニハノーヴエルハ兵備猶ホ未タ整ハズ加之埃國ノ援兵ハ既ニホルスタインヲ去リシニ普魯士ハ突然兵ヲ出スコヲ布告セシヲ以テ全國周章狼狽爲ス所ヲ知ラズ巴威里ノ兵ト共ニ普軍ヲ防カント欲シ兵ヲ率非テエッテンセンニ至リシニ普ノ陸軍ハ既ニハノーヴエルノ北境ヨリ入り海軍ハイルブ河ヨリ進ミ既ニ全國ヲ徇ヘケレハ王ハ四方敵ニ圍マレ遂

普魯國ノ進攻

普魯國ノ檄文

埃國ノ大敗

ニ普軍ニ降レリ是ニ於テハノーヴエルハ永ク獨立ノ名ヲ失ヒタリヘツスカツセルノ君主ハ隣國ノ君主ニ比スレバ禍害ヲ蒙ムリシコ稍々輕シト雖モ其國ヲ守ルコ能ハス唯其兵ヲ失ハズ兵士ハ悉ク國ヲ棄テ來因河上ニ奔リ同盟軍ト相通スルコヲ得タリ其後君主ハ逮捕セラレシト雖モ王公ノ禮ヲ以テ特待重遇ヲ受ケタリ普魯士ノ別軍ハ薩索尼ニ入り薩索尼ノ兵ハ埃兵ニ合セント欲シテ退キホヘミヤニ至リケレハ普魯士ノ兵ハ忽チ薩索尼全國ニ徇ヘ令ヲ發シテ兵士ノ鹵掠ヲ禁ス兵士能ク其令ヲ奉ス故ニ其國ノ人民喜悅セザルハナシ普魯士ノ兵ハ進ンテホヘミヤニ入り埃國ノ兵ト各處ニ連戰シ戰フ毎ニ必ズ勝チ攻ムル毎ニ必ラズ降シ其勢破竹ノ如シ後チコーニグラツノ一戰殊ニ埃國ハ大敗ヲ取り遂ニ兩國ノ雌雄ヲ決セリ此戰爭ハ埃兵二十萬普軍二十六萬人ニシテ埃國ハ四萬ノ兵ヲ失ヒ普魯士ノ失フ所ハ僅カニ一萬ニ過キズ蓋シ普魯士ノ斯ク全勝ヲ得ル所以ハ種々アリト雖モ針銃ノ利器ヲ用ユルノ力許多ナリト云フ埃地利ハ大敗ノ後チヴエニシヤ

佛蘭西ニ與ヘタリ七月二十六日埃魯ノ二國ニコルスブルグニ於テ和親ノ假條約ヲ爲シ八月二十四日ブレীগニ於テ本條約ヲ爲シ尋テ南獨乙各州モ亦和ヲ約シ十月薩索尼ト和ヲ講シハノーヴエルヘツス、カツセルフランクホルド皆ナ普魯士ノ有ニ歸シホルスタイン、スレスヅ井グモ亦普魯士ニ屬シタリ普魯士ハ地ヲ得シ一三萬二千英方里人口ヲ増セシ一四百萬ニ及ベリ此年十月北獨乙聯邦ヲ組成シ普魯士ヲ以テ其盟主ト爲ス是ノ後記ス可キ事ハ近年普佛ノ戰爭ナレハ之ヲ畧載シテ本章ヲ終ル

千八百七十年ノ普佛戰爭ノ淵源ヲ考フルニナポレオン三世既ニ選ハレテ佛國ノ大統領ト爲リ尋テ帝位ニ登ルニ及ビナポレオン一世ノ遺業ヲ繼キ歐羅巴全國ヲ統一シ竟ニ天下ヲ席卷シ四海ヲ囊括スルヲ以テ志願ト爲ス是ヲ以テ或ハ遠征ヲ事トシ或ハ兵ヲ亞弗利安南墨斯哥等ニ出シ或ハ魯西亞ノ土耳其其ヲ侵スニ當リ英吉利ト力ヲ合セ之レヲ伐チ或ハ埃地利ヲ懲懲シテ伊太利ト兵ヲ交ヘシメ或ハ普埃ノ戰爭ニ

干涉シ累ニ乘シ機ニ投シテ宿志ヲ達セント遠謀セリ蓋シ佛帝ナポレオン三世ハ天資ノ英邁ヲ以テ既ニ佛國ノ政權ヲ掌握スルヤ政令善ク行ハレ文ヲ修メ武ヲ尙ヒ商ヲ勸メ工ヲ勵マシテ兵強ク國富ミ其力以テ歐洲ヲ左右スルニ足リ各國皆ナ其鼻息ヲ窺ヒ震懼セザルハ莫シ殊ニサルヂニ一ヲ助ケテ埃國ヲ破リ新タニ東方ノ版圖ヲ拓キ益々富強ヲ極メ傲然トシテ歐洲ヲ睥睨シ天下復敵ナキ者ノ如シ是ヲ以テ大ニ兵ヲ起コシ宿志ヲ遂ケント欲スルヲ愈々切ナリ然ルニ近時普魯士モ亦々漸ク富強ニ赴キ佛國ト頽頽スルノ勢ヲ爲スニ至リシヲ以テ佛帝大ニ之ヲ嫉ミ時ヲ得テ之レヲ倒サント欲スト雖其名義ナキニ苦メリ時ニ西班牙國ノ人民其政府ニ背キ君ヲ廢スルニ由リ王位爲メニ空虛ス是ヲ以テ普魯士ハ其王族レオポルド侯ヲ推シテ西班牙王ト爲ントス佛帝ハ此報ヲ聞キ固ク之ヲ拒ミ若シレオポルド侯ヲシテ西班牙ノ王位ヲ襲カシムルヲアラバ己レ干戈ヲ以テ之レヲ止ム可キ旨ヲ普魯士ニ傳フ是レ普魯士ノ意ヲ激シテ我ニ抗敵セシメントスルノ策ナ

佛國ノ形勢

リ然リト雖也普魯士ハ之レニ激セズ佛帝ノ意ニ從ヒ速ニ西班牙王ノ即位ヲ止メタリ故ニ已ニ開カントスル戰端又止ミ佛帝ノ權謀ヲ知ル者ナシ是時ニ當リ佛帝ハ功ヲ喜ビ名ヲ好ミ威力ヲ逞フシテ國中ヲ抑壓スルヲ以テ人民漸ク之レヲ厭ヒ帝ヲ仇敵視スル者アルニ至リ或ハ將ニ狂瀾怒濤ノ湧出セントスルノ情況アリ千八百七十年五月ノ撰舉ハ佛帝巧ニ之レヲ駕御シ帝權猶ホ重ク帝ニ左袒スル者六百萬人ニ下ラズト雖也其反對ノ者モ亦多クシテ汲々力ヲ共和政體ノ再說ニ致シ近衛兵ノ之ニ同意スル者アルニ至レリ其事情既ニ斯ノ如ク迫ルヲ以テナポレオン三世ハ永ク帝位ヲ繼續スルヲ能ハザルヲ知リ兵ヲ外ニ加ヘテ内ノ人心ヲ之レニ注カシメ以テ己ヲ惡ムノ念ヲ斷タシメント欲シ突然檄ヲ傳ヘテ全國ニ告ゲ國民ヲ激シテ普魯士ヲ惡マシメ已ムヲ得ズシテ干戈ヲ動カスニ至ルガ如キ狀ヲ示セリ而シテ普魯士ガ兵ヲ交ユルヲ好マズ又中間ニ在テ和ヲ講スル者アルヲ恐レ遂ニ普魯士ノ承認ス可ラザルノヲ要求シ以テ之ヲ謀ルニ至レリ此際佛國公

佛帝ノ位置

佛國が戰端ヲ開キタル理由

使ハ普魯士王ニ逼リ爾後西班牙ノ王位ハ普魯士王族ノ諸侯ヲ以テ之レヲ繼カシム可ラズト其承諾ヲ得ントシケレバ普魯士ノ裁判所ニ於テ佛國公使ヲ驅逐セリ然レトモ歐洲各國ハ佛帝此ノ名義ヲ以テ未タ兵ヲ起ササル可シト思考セリ然ルニ豈ニ圖ラン佛帝ハ左ノ言ヲ以テ口實ト爲シ遂ニ兵ヲ起セリ曰ク普魯士ハ我カ公使ヲ辱シメタリ曰ク我レレオポルド侯ノ西班牙王位ノ相續ヲ禁セシニ彼レ之レヲ拒ミタリ曰ク西班牙ノ王位ハ爾後必ラズ普魯士ノ王族ヲ以テ繼カシム可カラスト云フ我カ要求ヲ用ヒザリシト是ニ於テ間諜ヲ獨乙各州ニ遣ハシ普魯士ヲ離レテ己レヲ助ケシメント欲セシニ之レニ應援スル者ナク遂ニ獨乙全國ト戰ヲ開クニ至リ帝ハ此ノ時大ニ機ヲ誤ルヲ悔ヒタリ歐洲各國ハ此戰争ノ無名ナルヲ知ルト雖也傍觀シテ之レニ干涉スル者ナシ蓋シ普魯士ノ富強尊大ヲ嫉ミ其勢力ヲ減セシメント喜ブニ由ルナリ佛帝ナポレオンハ七月十五日普魯士ヲ伐ツノ可否ヲ議院ニ開テ議院ハ帝ニ籠絡セラレテニ對スル二百四十五ノ大多數ヲ以

テ之レニ同意シタルガ故ニ同月十九日普魯士政府ニ戰書ヲ送り其戰
 争ヲ布告セリ普魯士モ夙ニナポレオン帝ノ己レヲ謀ルヲ知リ畢竟戰
 ノ避ク可ラザルヲ以テ早ク之ガ備ヲ爲シ七月十五日普魯士王ハ北獨
 乙聯邦ノ國會ヲ開キ告ケテ曰ク往年我カ獨乙國ノ權利ヲ妨害シ名譽
 ヲ毀傷スル者アルモ棄テ之レヲ問ハザリシハ同盟聯合ノ力微弱ニ
 シテ他ニ敵スルヲ能ハザルニ由ルノミ今ヤ各邦相約シテ聯邦ヲ組成
 シ終始相ヒ渝ハラザルヲ誓ヒ其力以テ我カ聯邦ノ名譽ヲ鳴ラシ利
 益ヲ起スニ足ル故ニ今日ノ獨乙ハ決シテ佛國ノ亡狀ヲ默視スルヲ能
 ハサルナリ是レ戰爭ノ已ムヲ得ザル所以ナレバ宜シク進ンテ彼レヲ
 擊破セサル可ラズ抑々夫レ我カ獨乙諸邦ハ全歐洲ノ平和ヲ保維シ我
 カ名譽ヲ瀆カシ利益ヲ害スルヲナキ限リハ勉メテ忍耐シタリト雖モ
 佛國ハ我聯邦ノ國權ヲ蹂躪スルニ至ル故ニ南北獨乙諸邦一體トナ
 リ佛國ニ敵セザル可ラズ是レ實ニ我カ聯邦ヲ保維スル爲メ已ムヲ得
 ザルニ出ツ余ノ切ニ爾チ衆議員并ニ有衆ニ望ム所ナリト而シテ國會

ハ二十一日大多數ヲ以テ政府ノ要求セシ軍費一億二千萬ターレルヲ
 可決シ大宰相ピスマルクハ佛帝ナポレオンノ普魯士ニ對スル政略ヲ
 南獨乙各邦ニ布告ス是ニ於テ各邦皆ナ以爲ラク假令ヒ局外中立ヲ嚴
 守スルモ貪婪飽ク無キノ佛國ハ決シテ其搏噬ヲ止ルヲ能ハザル可
 シ寧ロ進ンテ普國ヲ救援シ佛國ニ抗敵スルノ勝レルニ若カズト因テ
 巴威里ハ首トシテ出軍ノ令ヲ出シ其下院ハ軍費トシテ一千八百二十
 萬フロリンヲ可決セリ瓦敦堡ノ民主黨ハ平生普國ヲ憎惡スレドモ猶
 ホ佛國ヲ敵視シテ普國ニ應援シ黑西巴丁等ノ各邦モ亦皆之レニ同意
 シ前後出軍ノ令ヲ發ス此ノ如ク南北獨乙合同一致セシヲ以テ人々奮
 然トシテ起リ其勇烈身ヲ忘ルニ至リ今回ノ戰爭幸ニ勝利ヲ得バ必
 ラズ南北獨乙ノ聯結ヲシテ一層鞏固ナラシム可シト爲ス是ヲ以テ志
 願兵ハ各所ニ集合シ青年壯士タリ書生論客タルヲ論セズ盡ク其業ヲ
 抛擲シ自ラ好ンテ兵ト爲リ所在ノ學校皆ナ空房ヲ餘シテ伊威室ニ在
 リ燦炳戸ニ在ルノミ到ル處愛國忠誠ノ談ヲ聞カザルハ莫ク或ハ出テ

獨乙ノ軍勢

テ兵ト爲リ或ハ遊説シテ人心ヲ鼓舞シ或ハ資財ヲ義捐シテ軍費ヲ助ケ或ハ金錢ヲ集醜シテ勇者ノ軍功ヲ賞シ其他傷者ヲ助ケ寡婦ヲ救ヒ熱心奮發セザルナシ殊ニモルトゲノ戰畧ニ長スルルーンノ軍務ニ達スル七月十六日ヲ以テ始メテ出軍ノ命ヲ下シ僅カニ十日ニ過ヤズニ十六日ニ至リ聯邦二十四邦ノ兵盡ク皆ナ戰地ニ臨ミ更ニ八日ヲ經テ來因河ノ右畔ニ陣セリ其兵數左ノ如シ

- 北獨乙聯邦ノ兵(黑西ヲ含ム)
 - 步兵 三十八萬五千六百人
 - 騎兵 四萬八千人
 - 大砲 千二百八十四門
- 巴威里ノ兵
 - 步兵 五萬人
 - 騎兵 五千五百人
 - 大砲 百九十二門

瓦敦堡ノ兵

- 步兵 一萬五千人
 - 騎兵 一千五百人
 - 大砲 五十四門
- 巴丁ノ兵
- 步兵 一萬一千七百人
 - 騎兵 一千八百人
 - 大砲 五十四門

合計

- 步兵 四十六萬二千三百人
- 騎兵 五萬六千八百人
- 大砲 千五百八十四門

此ノ他各要路守衛ノ爲メ出陣シタル兵員ハ步兵二十九萬七千五百人、騎兵二萬五千八百九十八人、砲兵四萬〇五百人、野砲四百六十二門アリ故

獨七軍ノ編制

ニ其兵員ノ總數八十八萬二千九百人ニシテ大砲二千四十六門ナリト
 ス而シテ八月ニ至リテハ尙ホ増シテ兵員ノ總數一百十八萬三千三百
 八十九名軍馬二十五萬三百七十三頭ニ至レリ今回普國ノ組成セシ陣
 法ハ一千八百六十六年ノホヘミヤ戰爭ノ例ニ倣ヒ總軍ヲ分チ三軍ト
 爲シ中軍ハフレドリッキ、チャーレス親王將帥トナリ右翼軍ハスタ
 ン、メッツ將軍將帥トナリ左翼軍ハ普普士ノ太子將帥タリフホン、ブリ
 ヲメン、タルフホン、ステエル、フホンス、スベルリング等ノ諸將校各軍團
 ノ長トナリ之レニ屬ス此際モルトゲ將軍ハ議ヲ建テ、曰ク佛國ニ於
 テハ必ラズ我レノ如ク遽カニ出軍ノ準備ヲ爲ス可ハザル可シ今其
 備ナキニ乘シテ突然來因河ヲ渡リ彼レノ不意ヲ擊ツニ若カバト乃チ
 第一軍ヲサール、ブリユエッケンニ第二軍ヲピンゲンマエンスノ地方
 ヨリ來因河ニ第三軍ヲアルサスノ北東隅ナルラツテルニ進向スル
 ト定メ七月二十六日ヲ以テ伯林ヲ發セリ而シテ第三軍ハ第一ニ佛國
 ノ左翼軍ト會戰シ大ニ之ヲ破リ長驅シテモセールニ進ム是時ニ當リ

モルトゲ將軍ノ戰略

第一ノ戰爭

第一軍及ビ第二軍モ亦佛軍ヲ追擊シ北ノ方比耳時ノ境界ニ走ラセタ
 リ他ノ軍團ハ或ハ北海ヲ守リ或ハ丁抹ノ境ニ備ヘ而シテ普魯士王ハ
 自ラ大元帥ト爲リ大宰相ピスマルク、將軍モルトゲ陸軍卿ルーン之レ
 ヲ補翼シ專ラ軍議ヲ爲ス然レモ懸軍萬里往復ニ不便ナルヲ以テ王ハ
 三十一日宰相以下三名ヲ從ヘ伯林府ヲ發シマエンスニ至リ此地ヲ本
 營トナシ諸軍ヲ指揮ス獨乙ノ軍ハ總テマエンスニアルモノト三軍ヨ
 リ成ルヲ以テ各人悉ク此ニ注目シ延頸翹足戰爭ノ勝敗如何ヲ待チタ
 リ

佛國ノ戰備

之レニ反シ佛國ハ自ラ好シク戰爭ヲ布告セシト雖モ軍備未ダ整頓セ
 ザルノミナラス自國ヲ防禦スルノ備ヘヲ爲ス可ハズ蓋シ佛帝ナボ
 レオン三世ノ意ハ南獨乙ノ巴威里、瓦敦堡等ハ必ズ中立國タル可シ故
 ニ普軍ヲ破フルヲ難キニ非ラズトシ仍テ益々兵ヲ募リ十五萬ノ兵ヲ
 メッツ二十萬ヲストラスブルグニ五萬ヲシヤロンニ配置シ而シテ帝
 ハ東方ノ二軍隊ヲ結合シマキリヨリ來因河ヲ渡リ獨乙南北ノ境界

ヲ中絶横断シ南獨乙各邦ヲシテ中立國タラシメ新ニ來因同盟ヲ建設
セシトテ企望シ若シ此企圖成功スル時ハ伊埃兩國必ズ同盟ス可シ然
ル後チ徐ニ普國ヲ征スルモ未タ以テ遲シトセズトス然レモ此ノ企圖
皆齟齬シテ行ハレズ獨乙ノ軍ハ南北合併シテ忽チ來因河ヲ渡リ將サ
ニ佛領ニ進入セントシ且ツ佛軍ハ帝ノ命令ニ背キ新兵モ其募集ニ應
ゼズ鐵道脆弱ニシテ許多ノ兵士及ビ糧食ヲ積載スルコトヲ得ズ其困難
名狀ス可ラズ是ヲ以テ帝大ニ望ヲ失ヒ普國ヲ征スルノ念ヲ絶チ專ラ
防禦ニ從事セリ左レバ丁抹埃地利伊太利等ノ數國同盟シテ普國ヲ征
セント相ヒ謀リシ者モ佛國第一戰ノ敗北ニ由リ聯結スルコト能ハズ又
丁抹ノ北方ヨリ獨乙ヲ攻撃セント欲スル軍略モ亦行ハレズ普國ノ舊
讎ナル埃地利モ魯西亞ノ侵攻ヲ懼レテ佛國ニ與ミセズ伊太利ハ逡巡
シテ方向ヲ決スル能ハズ是ヲ以テ佛國孤立シテ普國ト戰ヲ交ヘザル
可ラザルニ至リ而シテ佛國外交官ノ雄辯モ以テ各國ヲシテ佛ニ左袒
セシムルニ足ラズチエール氏ノ遊説モ以テ各國ヲシテ佛ニ應援セシ

ムルニ足ラズ歐洲列國ハ儼然トシテ局外中立ヲ守リ而シテ獨乙ハ當
今既ニ富強ニ赴キタルヲ以テ他國ノ力ニ藉ラズシテ佛ニ敵スルニ
足レリ蓋シ獨乙ハ南ニ埃國ノ敵アリト雖モ東ニ魯國アリテ能ク之レ
ヲ制ス故ニ埃國モ其志ヲ逞フスルコト能ハズ抑々亦獨乙ノ幸運ト謂フ
可シ
佛帝ナポレオンモ亦普王ノ如ク親ヲ大元帥ト爲リ諸軍ヲ指揮シ萬機
ヲ皇后ニ委任シ二十八日ヲ以テ太子ト共ニ巴里ヲ發シ總兵員ハ八軍
團ヨリ成リ第一軍團ハ將軍マクマホン之ヲ率ヒストラスブルグニ陣
シ第二軍團ハ將軍フロサルド之ヲ率ヒセントアンホルドニ陣シ第
三軍團ハ將軍バザイン之ヲ率ヒピッチニ陣シ第六軍團ハ將軍カン
ローベルト之ヲ率ヒシャロンニ陣シ第七軍團ハ將軍フェリツリス、
ツイエイ之ヲ率ヒベルホルドニ陣シ第八軍團ハ將軍ブルバークー
之ヲ率ヒチンシーニ陣ス而シテ各軍團ヲ編制シテ大軍小軍ト爲シ
大軍ノ本營ヲモーセルニ設ケ小軍ヲアルサスニ置ケリ第一第七ノ二

軍團ハ將軍マクマホン之レヲ率ヒアルサスニ陣シテ普國太子ノ第三軍ニ當リ大軍ハ第二第三第四ノ三軍團ヨリ成リ第二軍團ハ先陣トシテ進發シ第六第八ノ二軍團ハ後陣ニ扣エ大軍ハフレドリツキ、チャレス親王ノ中軍ニ對シ第五軍團ハ兩軍ノ脈路ヲ通スルノ用ニ備ヘ八月二日ヲ以テ初メテ一戰ヲサーールブリエツケンニ開キタリ普軍ハ僅カニ一千八ニ過キズシテ佛軍ハ無慮三万人ナレバ衆寡敵セズ普軍遂ニ敗北セリ然レハ四日ヲ以テ普國太子ノ第三軍佛境ヲ横斷シワイセンホルフ邑ヲ攻撃ス佛軍ニ於テハ將軍マクマホンノ指揮セル先鋒將軍アベルツウエー死カヲ盡シテ之レヲ防守シ殿ニガイスホルフノ城砦ヲ衛ルト雖モ普軍ノ猛烈ナルニ敵スルヲ能ハス遂ニ大ニ敗レ佛軍ノ死傷一千二百名捕虜ト爲ルモノ一千名ニ下ラズ其殘卒ハウエルトニ逃レ將軍マクマホンノ軍ニ合シ此ニ於テ又兩軍激戰スレトモ佛軍遂ニ敗北シ死傷無慮六千六人、六日スビヘルンノ戰争モ亦佛軍敗ヲ取り普軍ハ勝ニ乘シテ益々其陣ヲ進メ普王ハ九日ヲ以テサーールブリエツケ

ワイセンボル
フノ戰爭

普王佛國人民
ニ布告ス

普軍佛國ニ進
ス

佛國內閣ノ更
迭

ンニ本營ヲ移シ十一日セント、アホールトニ進ミ佛國ノ人民ニ布告ノ日ク余カ佛國ニ兵ヲ加フルハナホレオンヲ征スルノミ佛國ノ良民ヲ苦マシムルニ非ラズ故ニ我カ軍ニ敵スル者ニ非ラサルヨリハ決シテ其生命財産ヲ傷害スルヲ無カル可シ爾チ佛國人民其レ之ヲ體セヨト、普軍ハ既ニ佛國ニ進入シアルサス、ロルレンノ二州ヲ掠取ス佛國人民ハ此ノ敗報ヲ聞キ大ニ驚愕シ下院ノ非戰黨ハ頻リニ帝ノ敗軍ヲ責メ大元帥更代ノ議ヲ起コシ其議器々鼎ノ沸クガ如クグラモントノ黨與ハ議院ノ信用ヲ失ヒグラモント、ヨリヒエーハ内閣ヲ退ケラレ十日ヲ以テ純然タル「ホナバルト黨」ノ内閣ヲ組織シバリカヲ公ヲ内閣議長ト爲セリ此時ナホレオン帝ハ國中ノ人望ヲ失ヒ元帥ノ職ヲ持スルヲ能ハズ自ラ辭シテ其職ヲバザイン將軍ニ讓リ而シテ佛國ハ新ニ兵士ヲ募集シモセール河ニ陣シ以テ普軍ヲ防キ別ニ海軍ヲ以テ北海ヨリ獨乙ヲ攻撃ス然レトモ其功ヲ見ル能ハズ新元帥バザインハ普國ノ第二軍ノセントアホールドヨリベルダン路ヲ通行スルヲ見ルト雖モ之レ

佛軍大敗

ヲステ、願ミズメツツ去テシヤロンノ將軍マクマホント合シ力ヲ
 戮セテ普軍ニ抗セントス然ルニ普軍ノ遮ギル所トナリ加之普軍ノ戰
 畧虛實ヲ知ラス爲メニ大ニ苦シメラレ各所ニ戰鬪シ佛軍ノ死傷常ニ
 萬ヲ以テ數フ殊ニガラープロットノ戰ハ大敗ヲ取り悉クメツツニ退
 キ堅ク守リ敢テ出戰セズ普軍ハ大兵ヲ以テ之ヲ圍ミ戰ヲ促カシ佛軍
 殆ント危急ニ迫ル二十四日ニ至リ將軍マクマホン大兵ヲ率ヒ至ル普
 國ノ第三軍之レヲ遮キリメツツニ至ラシメズ且ツ連リニ將軍マクマ
 ホンノ軍ヲ攻撃シセダン其他ノ地方ニ於テ激戰ス佛軍毎ニ破レ既ニ
 敵スベキ氣力ヲ失フニ至リシハ實ニ八月廿一日ナリ

佛帝ノ降服

是時ニ當リナポレオン帝ハセダンニ圍マレ將軍マクマホンハ重傷ヲ
 負ヒ各地ノ佛軍ハ連戰敗北シ新兵ハ募集ニ應セズ兵器糧食ハ既ニ空
 竭シ進退維レ谷リ勝算全ク絶ヘタルヲ以テ帝ハ休戰ノ旌旗ヲ掲ケ將
 軍ライエユヲ遣ハシ劔ヲ普魯士王ニ呈シ降ヲ乞フ普王ハ佛軍能ク兵器
 ヲ棄テ、軍門ニ降伏セバ之ヲ承諾ス可シト答フ因テ帝ハ九月一日普

普國ノ凱歌

巴里ノ騒亂

相ヒスマルクト會シ翌二日午前其談約全ク整フヲ以テ午後普王ニ會
 シ翌三日終ニ囚虜トナリテウヰルヘルチセーヘ宮へ護送セラレタリ
 蓋シセダンノ一戰ニ於テ佛軍ノ囚虜トナリシモノ無慮二萬一千人傷
 ヲ負ヒタル者一萬四千人戰死シタル者三千人ニシテ大砲軍器ヲ掠奪
 セラレタル其數ヲ知ル可ラズ而シテ囚虜トナリタル士官兵卒ハ悉ク
 獨乙ニ護送セラレント雖士官ニシテ自今普國ト兵ヲ交ヘザル旨ノ
 誓書ヲ出シタル者ハ皆許シテ佛國ニ歸ラシメタリト云フ此ニ於テ普
 國ハ到ル處皆歡呼シ祝聲天地ヲ動シ諸將校ハ深ク衆人ノ敬愛ヲ受ケ
 普王ハ總軍ヲ聚メ之レヲ指揮スルニ衆皆勇進シテ曰ク進ム可シ巴里
 ニ到ル可シ巴里ニト既ニシテ普軍ノ巴里ニ達スル時巴里已ニ動亂シ
 ナポレオン帝ノ位ヲ廢シシユールフハーブルハ下院ニ於テ假政府ヲ
 設クルノ議ヲ起コシ内閣ハ佛國ノ防禦委員ヲ撰ビパリカヲヲ以テ總
 知事ト爲サンコトヲ主張セリ九月四日午後ニ至リガンベツタノ説ハ永
 クナポレオン家ノ王位ヲ廢スルコトヲ唱ヘ左黨皆之レニ同意セリ皇后

府 巴里國ノ政

ハチユイエリーヲ選レテザアンビル港ニ至リ九日ヲ以テ英國ニ達シ太子ニ會セリ是ヨリ先キ太子ハセダンノ敗北ヨリ比耳時ニ逃レ遂ニ英國ニ航シタルナリ其後兩宮ニハ僑居ヲチレスハルスニ占メ千八百七十一年三月二十日前帝ナポレオント同所ニ會シ其後チ前帝ハ千八百七十三年一月九日ヲ以テ此ノ地ニ於テ殞セラレタリト云フ巴里ニ於テハ町會所ヲ以テ假政府ニ充テ之レヲ護國政府ト名ツケフハーブル、カンベツタ、シモン、ピカルド、ヘレタン、クレミユウ、フェーリー、ピゾア、ン、アラゴガルニエー、ハーゼ及ヒロシホルノ十一名相議シテ將軍トロシフヲ以テ總知事兼議長ト爲シチエールハ議員ニ撰擧セラレシト雖モ辭シテ受ケズフハーブルハ副議長兼外務卿ニカンベツタハ内務卿ニ任セラル是ノ時ニ當リ普軍悉ク巴里ニ集リ百餘萬ノ兵ヲ以テ之レヲ圍ミ稻麻竹葦ノ如ク殆ント寸隙ナシガンベツタハ輕氣球ニ乘リ巴里ヲ脱シ頻リニ新兵ヲ募集シローアーニ於テフレシネート合シ二十五歳ヨリ四十歳ニ至ル人ヲ募集シ五軍團ヲ編制ス九月六日フハーブル

カンベツタ氏ノ新兵募集

佛國ノ請求

ハ普國ニ請求シテ曰ク佛蘭西帝國既ニ亡滅シタリ左レバ佛國ヨリ普國ヘ鋒ヲ向ケザレハ普王ハ毫モ佛國ヲ敵視ス可ラズ而シテ爾來佛國ハ普國ニ對シテ其責任ニアタル可シト首相ピスマルク之レニ答ヘテ曰ク佛國ノ上下兩院并ニ新聞紙ハ皆ナ盡ク普國ト戰ハント欲スルノ主意ヲ抱持セリ是レニ由テ之ヲ觀レバ今回ノ事獨リ帝國ノ責任ノミト云フ可ラザル者アリ加之獨乙ハ此時ニ乘テ佛國ニ對シ宿讎ヲ復ス可シト然レモ巴里政府ハ他クマテ平和ノ主義ヲ抱キ外務卿フハーブルハ九月十九二十一日ノ兩日フエリエーニ於テピスマルクト會合シ佛國ハ應サニ戰爭ノ償金ヲ拂フベシ然レモ土地ヲ分割スルコトニ至テハ決シテ承諾スルコト能ハズトピスマルクハ土地ノ分割ヲ求メシヲ以テ其談判整ハズ是時ニ當リ將軍バザインハ久シクメツツヲ守ルト雖モ概既ニ盡キ已ムヲ得ズ十月二十五日城ヲ開キテ降リ二十九日普國ノフレドリツキ、チャレス親王ト條約ヲ締結シ降虜トナリシ者ハバザイン、カンロベルト、ルブール、ノ三將軍ヲ始メ將校六千人兵卒十七萬三千

メツツ陷ル

人ナリトス是ニ至リ佛國ノ東方先ツ治平シタレバ普王ハ功ヲ論シ賞ヲ行ヒ其太子親王ヲ以テ大元帥ニ叙シモルトゲニ公爵ヲ賜ヒ其他勳爵ヲ與フル各々差等アリ然レハ翌千八百七十一年三月ニ至ルマテ戰争ハ其局ヲ結バサリキ

既ニシテ巴里ノ佛軍ハ彈藥糧食殆ント空竭シ僅カニ十四日間ヲ維持スルニ足ル可キノミ是ヲ以テフハーブルハベルセーユニ到リピスマルクト會シ之レニ請求シテ曰ク普軍若シ佛軍ノ列ヲ正シテ巴里府ヲ脱シロアーニ退クヲ許サバ佛軍ハ巴里府ヲ普軍ニ交附ス可シトヒスマルク之ヲ聽カズ一月二十八日ニ至リ遂ニ巴里條約ヲ締結シ三週間ノ休戰中ニ於テ國會ヲ開キ宣戰講和ノ可否ヲ評議シ遂ニ二週間ニ二億フランヲ支出シテ平和ノ約ヲ爲スニ決ス普軍之ヲ許シ二十九日二十五箇所ノ城塞ヲ佛軍ニ返附セリ然ルニカンベツタハ此條約ヲ不滿トス蓋シ氏ハ休戰中新ニ兵ヲ募リ再ヒ普國ト戰ハント欲スルニ由ルナリ然リト雖モ氏ノ主戰論ハ他ノ非戰論ニ勝ツヲ能ハス因テ氏

平和ノ談判

佛國ノ新政府

和親ノ本條約

ハ三月六日ヲ以テ内閣ヲ辭セリ佛國人民ハ八日ヲ以テ撰舉ヲ開キ十日ホルドーニ國會ヲ起コシ十七日チエール撰バレテ行政官長ト爲リ十九日新内閣ヲ組織シ二十一日フハーブル、ピカルドノ二氏ベルセーユニ至リ和親條約ヲ締結スルヲ議シ其後チエールハホルドーニ歸リ三月一日國會ニ於テ之レヲ議決シフハーブルハ條約書ヲ携提シテ再ヒベルセーユニ至リ三月二日ヲ以テ普魯士王ノ批准ヲ受ケ是ニ至リ普佛ノ戰爭全ク其局ヲ結ビタリ蓋シ此ノ條約ニ依リ佛國ハアルサス州、ロレン州ノ一部、ストラスブルグ、メツツ、チーデン、ホーフエ、ンヲ普國ニ割與シ五十億フランヲ戰費償金トシテ支出シ其中少クトモ十億フランハ今年中支出スベク残り四十億フランハ三年間ニ支出スルノ約ナリ而シテ其三十億フランノ支出ヲ保スル爲メ五萬ノ獨乙兵ヲ佛國ノ六州ニ備ヘ置キ又國會ノ條約ヲ認可スルマテ巴里府ノ西部ニ三萬ノ兵ヲ屯在セシムルヲ定メ普王ハ三月一日三萬人ヲ巴里府ニ差遣シ因テ各地ノ軍ヲ撤去スト雖モ東北部ノ諸塔ハ獨乙人之レ

ヲ占領シ償金ノ半額ヲ支出スル迄退ケズ普王ハ三月七日ベルギー
ノ普國本營ヲ引キ拂ヒ十七日欣然トシテ伯林府ニ還輿セラレ是ニ至
リ獨佛ノ戰爭全ク其局ヲ結ビタリ

獨佛戰爭ノ統
計

戰爭ノ起リシヨリ休戰ノ期ニ至ルマテ日ヲ累ヌル一百八十其間獨軍
ハ十五回ノ大戰ヲ爲シ二十六ノ城砦ヲ掠取シ三タビ敵軍ヲ降服セシ
メ士官一萬一千六百五十名兵卒三十六萬三千人ヲ捕獲シテ之レヲ獨
乙ニ護送シ又巴里ニ於テ十萬人ノ士卒ヲ生擒シ大砲兵器ヲ掠奪スル
共敵ヲ知ル可ラス此ノ如クシテ戰爭ハ已ニ其局ヲ結ビタリト雖モ未
ダ公然條約ヲ締盟シタルニ非ラズ是ヲ以テ佛人中異説ヲ唱ヘ再ビ戰
ハント欲スルモノアリテ事速カニ決セズ伯林ニ於テモ亦其條約ノ甚
々遲延セルヲ以テ復々戰ハント欲スル者アリシガ五月六日フハーブ
ル、ブイエーケルチエーノ二氏フランクホルドニ赴ムキ首相ヒスマル
クト談約ヲ遂ケ同月十日遂ニ和親ノ本條約ヲ締結シ此條約ヲ以テ獨
乙ハアルサス、ロルレン兩州ノ鐵道ヲ三億五千萬フランヲ以テ讓リ受

ケタリ是レヨリ以後獨乙ノ武威萬國ニ輝ヤキ皆其鼻息ヲ窺フニ至レ
リ夫レ佛國ガ其君主ヲ擒ニセラレ廣富ノ境域ヲ失ヒ無數ノ人命ヲ害
シ莫大ノ金ヲ費ヤシ祖先ヲ辱カシメ國威ヲ損シ醜ヲ千歳ニ傳フルハ
其レ誰レノ過チゾヤ抑、巴里ノ盛金城千里至尊ヲ履ミ六合ヲ制ス官
ニ秦始ノ比ニアラズシテ而シテ黃梁一炊ノ夢ヲ同フス國ヲ保ツ者豈
ニ深ク那翁ヲ鑑ミザル可ケンヤ噫

○第二篇

獨乙聯邦帝國一般ノ形勢

獨乙帝國ノ積面及ヒ人口

獨乙國ノ位地

獨乙國又日耳曼ト稱ス其位地ヲ歐羅巴ノ中央ニ占ムル一大聯邦帝國ニシテ歐羅巴五大國ノ其一ナリ北ハ波羅的海及ヒ北海ニ枕シ南ハ亞得亞海ニ濱シテ伊太利瑞西ト境ヲ分チ東ハ魯西亞匈牙利ニ接シ西ハ佛蘭西比利時和蘭ニ隣シ二十六邦ヨリ成立ス其積面二十一萬二千〇九十一英方里人口四千五百二十三萬四千〇六十一人其區別左ノ如シ

獨乙聯邦各州ノ積及ヒ人口

第一普魯士王國 積面十三萬七千〇六十六英方里 人口二千七百二十七萬九千一百一十一人

第二巴威里王國 積面二萬九千二百九十二英方里 人口五百二十八萬四千七百七十八人

第三瓦敦堡王國 積面七千六百七十五英方里 人口百九十七萬一千百十八人

- 第四薩索尼王國 積面六千七百七十英方里 人口二百九十七萬二千八百〇五人
- 第五巴丁大公國 積面五千八百五十一英方里 人口百五十七萬〇二百五十四人
- 第六梅略稜堡斯乘零大公國 積面四千八百三十英方里 人口五十七萬七千〇五十五人
- 第七黑西大公國 積面二千八百六十六英方里 人口九十三萬六千三百四十人
- 第八痢敦堡大公國 積面二千四百十四英方里 人口三十三萬七千四百七十八人
- 第九不倫瑞公國 積面千五百二十六英方里 人口三十四萬〇九千九百六十七人
- 第十薩克威密大公國 積面千四百二十一英方里 人口三十萬〇九千五百七十七人

- 第十一梅略稜堡斯德勒大公國 積面九百九十英方里 人口十萬〇〇二百六十九人
- 第十二薩克梅認凝公國 積面九百三十三英方里 人口二十萬〇七千〇七十五人
- 第十三安合公國 積面八百六十九英方里 人口二十三萬二千五百九十二人
- 第十四薩克各堡額達公國 積面八百十六英方里 人口十九萬四千七百十六人
- 第十五薩克亞敦堡公國 積面五百〇九英方里 人口十五萬五千〇三十六人
- 第十六機爾德侯國 積面四百六十六英方里 人口五萬六千五百二十二
- 第十七里卑侯國 積面四百四十五英方里 人口十二萬〇二百四十六人

第十八 斯瓜斯堡盧德斯達侯國 積面三百四十英方里 人口八萬〇二百九十六人

第十九 斯瓜斯堡孫德沙森侯國 積面三百十八英方里 人口七萬千百〇七人

第二十 留士給拉侯國 積面二百九十七英方里 人口十萬〇百三十三人

第二十一 燒間堡里身侯國 積面二百十二英方里 人口三萬五千三百七十四人

第二十二 留士喀勒斯侯國 積面百四十八英方里 人口五萬〇七百八十二人

第二十三 卑堡自由都府 積面百四十八英方里 人口四十五萬三千八百六十九人

第二十四 律北克自由都府 積面百二十七英方里 人口六萬三千五百七十一人

第二十五 不來梅自由都府 積面百〇六英方里 人口十五萬六千七百二十三人

第二十六 アルサス及ピロルレン州 積面五千五百八十英方里 人口百五十六萬六千六百七十八人

帝室

獨乙聯邦現時ノ皇帝兼普魯士國王ウヰルヒルム一世ハ普魯士王フレドリッキウヰルヒルム三世ノ第二子ニシテ千七百九十七年三月二十二日ヲ以テ生ル母ハ梅略稜堡斯德勒大公國ノ女ルイスナリ本年既ニ八十六歳ノ高齢ニ達シ給フモ猶ホ矍鑠タリ帝願悟剛忍幼時軍事ノ教育ヲ受ケ大ニ斯道ニ熟達ス歳甫メテ十六佛國トノ戰爭ニ出テ功績少ナカラズ千八百四十年ボメラニヤ州ノ太守ニ任セラレ四十九年來因州ノ軍事都督ニ轉シ職ニ在ルヲ八年時ニ帝ノ兄普魯士王フレドリッキウヰルヒルム四世病ニ罹リ親ヲ萬機ヲ綜理スルヲ能ハズ因テ千八百五十八年十月九日帝ヲ舉ケテ攝政ト爲ス明年王殂ス六十一年一月

ウヰルヒルム
帝ノ履歴

皇后

二日ニ至リ普魯士國ノ王位ヲ襲ク七十年七月佛國ト戰端ヲ開クニ及
ヒ獨乙聯邦ノ軍事大總督トナリ大ニ佛國ヲ破リ七十一年一月十八日
ヴエルセールレスニ於テ兼テ獨乙ノ帝位ニ登リ獨乙皇帝ト稱ス
皇后名ハオーガスタ薩克威密ノ大公カールフレドリッキノ女ニシテ千
八百十一年九月三十日ヲ以テ生ル

皇太子

皇太子フレドリッキウヰルヒルムハ帝ノ第一子ニシテ千八百三十一年
十月三十日ヲ以テ生ル普魯士陸軍ノ大元帥タリ性溫厚篤實ニシテ
最モ政道ニ通シ殊ニ兵法ニ明ナリ嘗テ民權論ノ盛ナリシ時ニ當リ
父帝ガ宰相ヒスマルクト威カヲ以テ之ヲ抑壓セント欲シ嚴刑酷罰ヲ
制定シテ出版言論ヲ禁止ス太子其政畧ノ不可ナルヲ極論シ精確ノ
理論ニ基キ古今ノ事蹟ニ徴シ以テ自由ノ許與セザル可ラサルヲ陳
辨シケレハ帝大ニ怒リ太子ヲ賞罰ス然レハ太子ノ至孝至忠ナル處モ
之ヲ懼レス後チ屢々帝ノ失政非擧ヲ諫爭ス是ニ於テ衆望大ニ太子ニ
屬スト云フ

帝位撰擧ノ法

獨乙ノ帝位ハ古昔ヨリ撰擧ヲ以テ之ヲ定立スルヲ例トス然レハ父子
相傳ヘ兄弟相承クルガ如キ世襲主義ノ傾向ナキ能ハズ元來獨乙ノ帝
位ハ凡テ王侯貴族ノ投票ヲ以テ之ヲ推擧シ來リシト雖ヒ十四世紀ニ
至リ皇帝ヲ撰擧スル王侯ノ數ヲ制限シテ七名ト定メ其後チ増シテ九
八ト爲シ其撰擧ノ方法及ヒ權利等ヲ定メ之ヲ選帝官ト稱シ數百年ノ
間連綿繼續セリ千八百〇六年佛帝ナポレオン一世獨乙聯邦ヲ解散
スルヤ選帝官ノ名稱及ヒ資格モ亦從テ廢滅セリ然レハ黑西及ヒカス
セルノ二君主ハ千八百六十六年普魯士王獨乙ノ帝位ヲ踐ミシ迄凡ソ
六十年間選帝官ノ名稱ヲ負ヒタリ今帝ハ獨乙王侯ノ首唱ト北獨乙同
盟國代議院ノ投票ニ因リ獨乙聯邦ノ帝位ニ登リ而シテ千八百七十一年
創定ノ憲法ニ由リ普魯士國王ハ獨乙帝位ヲ世襲スルノ權利ヲ享有
シ盟主ノ權永ク普魯士ニ歸シタリ

政體

獨乙聯邦帝國現今ノ憲法ハ一千八百七十一年四月十六日ノ公布ニ係

リ全文十四篇七十八條ヨリ成立ス逐條之ヲ掲擧スルハ皆ニ無益ナル
ノミナラズ本篇ノ趣旨ニ反ス故ニ其大綱ヲ摘載ス

皇帝ノ權

帝國政府ハ三大部局ヨリ成立ス第一皇帝第二上院第三下院是レナリ
獨乙聯邦ノ盟主即チ首領ノ大權ハ永ク普魯士王ニ歸シ獨乙皇帝ノ尊
名ヲ負フ而シテ皇帝ハ外國ノ交際事務ニ就テハ帝國ノ總代トナリ其
名義ヲ以テ戰ヲ宣ヘ和ヲ講シ外國ト同盟シ及ビ其他ノ條約ヲ締結シ
國使ヲ派遣シ且ツ外國ノ使節ヲ受クルノ權アリ帝國ノ名義ヲ以テ戰
ヲ宣ル時ハ外國ガ獨乙聯邦ノ領地及ヒ其海岸ヲ侵襲スル急遽ノ場合
ヲ除クノ外ハ必ラズ上院ノ同意ヲ得ル者トス又立法ニ關スル事ハ總
テ上院ノ同意ヲ要シ其條約ハ下院ノ承認ヲ得テ始メテ其効力ヲ有ス、
皇帝ハ上下兩院ヲ徵集、延期、開散スルノ權ヲ掌握シ每歲一回必ラズ兩
院ヲ開カザル可ラズ而シテ百般ノ事務ヲ準備スル爲メ下院ヲ徵集セ
ズシテ上院ヲ徵集スルコトヲ得ルト雖モ上院ヲ徵集セズシテ下院ヲ徵
集スルコトヲ得ズ又上院議員三分ノ一議事ヲ開クコトヲ請求スルトキハ

上下兩院ニ關
スル皇帝ノ權

必ラズ上院ヲ徵集セザル可ラズ、上院ニ於ケル議長ノ職務及ヒ其事ヲ
整管スルコトハ皇帝ノ任命シタル大宰相ニ在リ若シ大宰相事故アル時
ハ上院ノ他ノ議員ヲ己レノ代理ト爲スコトヲ得ルト雖モ此場合ニ於テ
ハ必ラズ委任狀ヲ交附スルヲ要ス、重要ノ議案ハ上院ノ決議ヲ採リ皇
帝ノ名義ヲ以テ下院ニ下付ス、帝國ノ法律ヲ頒付シ布告シ及ビ其法律
ノ施行ヲ管理スルハ皇帝ノ權ニシテ凡テ皇帝ノ命令及ビ規則ハ帝國
ノ名義ヲ以テ布告シ其効力ヲ有スル爲メニ大宰相ノ花押ヲ必要トシ
大宰相ハ其實ニ任ス、帝國ノ官吏ヲ命シ又之ヲ免スルハ皇帝ノ權ニシ
テ聯邦各州ノ官吏帝國ノ官吏ニ命セラレタル時ハ帝國法律ニ於テ之
レニ關スル特別殊法アルニ非ラザレバ其本國ニ於テ受ケタル官職ヨ
リ生スル一切ノ權利ヲ保有ス、聯邦各州帝國ニ對スル義務ヲ盡サハル
トキハ兵力ヲ以テ強壓シ上院ニ於テ之ヲ議定シ皇帝之ヲ執行ス
上院ハ聯邦各州ノ代議士ヨリ成リ聯邦各州ノ有スル投票ノ數ハ普魯
士十七巴威里六薩索尼四瓦敦堡四巴丁黑西各三梅略稜堡斯乖零二ア

上院ノ組織

上院ニ於テ議決ス可キ件

ルサス、ロルレン州四不倫瑞二他ノ小州ハ各一ニシテ總計六十二ノ投票ナリトス而シテ此投票ノ比例ニ從テ聯邦各州ハ上院ニ議員ヲ出シ二箇以上ノ投票ヲ有スル各州ハ必ラズ合同シテ一齊ノ發言ヲ爲スヲ法トス下院ニ於テ議決ス可キ條件ハ第一下院ニ於テ起劄ス可キ起案及ビ下院ニ於テ爲セシ議決ノ事第二帝國ノ法律上其法律ヲ施行スル所ノ特別ノ規定アルニ非ラザレバ之ヲ施行スルニ必要ナル行政規則及ビ行政支府ヲ設立スル事第三前項ニ記載シタル規則及ビ行政支府ハ設立ニ付現出スル不全備ヲ整理スル事是レナリ又聯邦各州ハ上院ニ向テ意見ヲ具陳スルノ權ヲ有シ議長ハ之ヲ院議ニ付ス議決ノ方法ハ通常過半數ヲ用ユ若シ投票ノ數相ヒ均シキ時ハ議長ノ投票ヲ以テ之ヲ決定ス且ツ帝國一般ニ干涉セザル事件ヲ議決スル時ハ該事件ニ關係シタル聯邦各州ノ投票ノミヲ算入ス而シテ上院ニ於テ其議員中ヨリ設ク可キ常置委員ハ第一陸軍及ビ各所ノ城塞ニ關スル委員第二海軍ニ關スル委員第三輸出入税及ヒ租税ニ關スル委員第四貿易及ヒ

上院ノ各委員

外務委員

外國交際ニ關スル委員第五鐵道郵便電信ニ關スル委員第六司法ニ關スル委員第七財政ニ關スル委員是レナリ此委員ハ會長ノ外聯邦四ヶ國以上ノ代議士ヲ用ユルヲ要シ該委員ヲ用ユルノ各邦ハ唯一ノ投票ヲ有シ陸軍及ビ城砦ニ關スル委員ハ巴威里常ニ一員ノ席ヲ保有シ他ノ議員ハ皇帝之ヲ任命シ海軍ニ關スル委員トナル可キ議員モ亦皇帝之ヲ任命スト雖モ總テ他ノ委員トナル可キ議員ハ上院ニ於テ之ヲ撰擧ス而シテ此委員ノ編制ハ上員ノ會議ニ於テ毎歲之ヲ變更シ其罷免セラレタル委員更ニ再ヒ撰擧セラル、フヲ得ルナリ右ノ外上院ニ於テ巴威里薩索尼瓦敦堡ノ三國ヨリ各一員ノ代議士ト上院ニテ他ノ聯邦各州ヨリ毎歲撰擧ス可キ二名ノ代議士トニテ外務ニ關スル委員ヲ編制シ巴威里常ニ其會長ノ位ヲ占ム而シテ右總委員ノ職務ニ關スル必要ノ官吏ヲ設置セリ又上院各議員ハ下院ニ出席スルノ權ヲ有シ其請求ニ由リ自己ノ政府ノ意見ヲ代表セントスル時ハ下院ハ必ラズ其意見ヲ聽カザル可ラズ此場合ニ於テハ上院ノ過半數未ダ其意見ヲ承

諾セザル時モ亦同一ナル者トス凡テ議員ハ同時ニ上院下院ノ議員ヲ兼任スルコト得ズ上院議員ハ普通ノ往來保護ヲ皇帝ヨリ受クルノ特許アリ

下院ノ組織

下院議員ノ數

下院ハ秘密投票ニ由リ全國ノ直接選舉ヲ以テ編制シ一千八百六十九年五月三十一日ノ撰擧法ニ基キ議員ノ全數三百九十七名アリ即チ普魯士二百三十六名巴威里四十八名瓦敦堡十七名薩索尼二十三名巴丁十四名梅略稜堡斯乖零六名黑西九名荷敦堡三名薩克威密三名薩克梅認疑二名不倫瑞三名安合二名薩克略堡額達二名阜堡三名アルサス、ロルレン十五名他ノ各小州ハ各一名ナリトス而シテ官吏ハ認可ヲ得ズシテ下院ニ出席スルコト得下院議員ハ帝國又ハ聯邦各州ヨリ俸給アル官職ニ任セラレ或ハ帝國及ヒ聯邦各州ニ於テ前官ヨリ高貴ノ官位若シクハ多額ノ俸給アル官職ヲ命セラレタルトキハ該議員ハ下院ニ於テ其職務及ヒ投票ノ權ヲ失フ然レモ再撰セラル、時ハ舊ニ復ス下院ノ議事及ヒ下院ニ於テ取扱フ可キ總テノ事務ハ公行ニシテ全帝國

下院ノ職務

議員ノ特許

ニ關涉スル事件ニ就キテハ新法ヲ起草スルノ權ヲ有シ或ハ其受理シタル請願書ヲ上院ノ大宰相ニ進達ス議員ノ任期ハ通シテ三年ニシテ上院ノ議決皇帝ノ制可ヲ得ルニ非ラサレバ此任期中ハ下院ヲ解散スルコト得ズ若シ下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ其解散シタル日ヨリ六十日以内ニ撰擧人ヲ徵集シ九十日以内ニ更ニ復タ下院ヲ徵集ス又下院ノ承認ヲ得ルニ非ラサレバ其延會ヲシテ三十日間ヲ超過スルコト能ハズ且ツ其ノ延會ハ一周會間ニ於テ再ヒスルコト得ズ下院ハ議員タル者ノ權利アルヤ否ヲ審糾シ之レガ判定ヲ爲シ事務章程及ヒ監督ノ事ヲ決定シ議長一名副議長數名及ヒ書記官數名ヲ撰擧ス議事ハ全員ノ過半數ヲ以テ決定シ憲法ヲ以テ定メタル全員ノ過半數出席セザル時ハ其議決ハ無効ニシテ全帝國ニ關涉セザル事件ヲ憲法ニ循ヒ議決スル時ハ該事件ニ關涉シタル聯邦各州ヨリ派遣シタル議員ノミ投票ヲ爲シ凡テ下院議員ハ國民ノ總代タルヲ以テ囑託及命令ヲ以テ之ヲ強制スルコト能ハザルナリ凡ソ議員タル者ハ其投票職掌及ヒ辨論ノ

帝國ノ立法

爲メニ裁判所ニ告訴セラル、ト無ク且ツ職事ノ外絶テ責任アル、ト無シ又現行犯罪ニ非ラズ或ハ二十四時内ニ拿捕スルニ非ラザレバ下院ノ承認ヲ得ズシテ犯罪ノ爲メ裁判所ニ召喚セラレ若クハ拿捕セラレ、ト無シ要償ノ爲メニ議員ヲ拿捕スルモ亦然リトス而シテ下院議員ニ對スル治罪及ヒ審判ニ就テノ禁錮若クハ民事ニ付テノ禁錮ハ下院ノ請求ニ因テ其開議ノ時間中之ヲ停止スル、ト得ルモノトス

獨乙帝國ハ憲法ニ遵ヒ領地内ニ於テ立法權ヲ行フ而シテ帝國法律ノ効力ハ聯邦各州ノ法律ノ効力ニ優ル者トシ凡テ帝國法律ハ帝國ノ布告ニ由リテ其効力ヲ有ス此布告ノ方式ハ帝國官報ニ於テ之ヲ爲シ法律ヲ布告スルニ當リ日限ヲ定メザル時ハ柏林府ニ於テ帝國官報ニ布告ヲ掲載シタル十四日目ニ於テ法律ノ効力ヲ有ス、獨乙全國々民タルノ權利ハ凡テ平等均一ニシテ聯邦ノ甲州ノ人民ハ其乙州ニ於テ該國民ト同一ノ取扱ヲ享ケ住居營業官職ヨリ土地賣買取權ノ享受ニ至ルマテ都テ同一ナルノミナラズ治罪法律ノ保護ヲ受クル、トニ就テモ亦

獨乙國民ノ平等

平等ナリトス而シテ凡ソ獨乙人タルモノハ帝國ノ長官タルト各邦ノ長官タルトニ拘ハラズ右ノ權利ヲ妨碍セラル、トナシ貧民ヲ救助シ及ヒ外國ヨリ歸化ノ者ヲ邑ノ戶籍ニ加入ス可キ事件ニ關スル諸規則ニ至テモ又々變更セラル、トナク追放セラレタル者ヲ納レ或ハ患者ヲ治療シ或ハ獨乙國民ノ死シタル者ヲ埋葬スルニ係ル聯邦各州ノ諸規則ハ假リニ其効力ヲ有ス、本國ニ對シ陸海軍ニ盡ス可キ國民ノ義務ハ帝國ノ立法ヲ以テ其要件ヲ定ム、外國ニ對シテ凡テ獨乙國民ハ均シク帝國ノ保護ヲ受クルノ權アリ又帝國及ヒ帝國法律ノ管理ヲ受ク可キ諸件ハ第一獨乙國中ヲ自由ニ移轉スル事及ヒ人民ノ本籍權住居政權旅券外國人取締ノ事ニ關スル諸規則營業并ニ保險ノ事ニ係ハル諸規則外國ヘノ殖民及ヒ移住ノ事ニ就テノ諸規則然レモ巴威里ニ於ケル本籍及ヒ住居ノ事ハ此ノ限ニ非ラズ第二輸出税及ヒ貿易ニ關スル立法或ハ帝國ノ使用ニ供スル賦税ノ事第三度量衡及ヒ貨幣ニ關スル立法或ハ公債証書通用紙幣ニ係ル諸規則第四銀行ニ關スル規則第

帝國ノ管理ニ可キ事件

五新發明品ニ專賣ヲ許可スル事第六版權免許ヲ與フル事第七外國ニ於ケル獨乙ノ貿易大洋ノ通航或ハ國旗ヲ一般ニ保護スルヲニ係ル方法或ハ帝國ノ設立ス可キ領事編制ノ事第八鐵道ノ事全國防禦一般交通ノ爲メニ道路及ヒ河溝ヲ開鑿スル事第九聯邦ノ數國ヲ貫注シタル河溝ニ於テ浮筏通航ノ事或ハ河溝ノ營繕及ヒ河溝稅ノ事第十郵便及ヒ電信ノ事第十一互ニ民事裁判ノ宣告ヲ執行スルニ關スル諸規則或ハ互ニ要求ヲ成就スルニ係ル諸規則第十二公正ノ證書ヲ確認スルニ就テノ諸規則第十三契約法刑法商法爲換証券法罪法訴訟法ノ事ニ關スル一般ノ立法第十四帝國陸海軍ノ事第十五醫術及ヒ獸醫ニ關スル取締規則第十六出版及ヒ會社ノ規則即チ是ナリ又帝國ノ立法權ハ上下兩院諧同シテ之ヲ行ヒ過半數ヲ以テ之ヲ議決ス

帝國ノ成存保全安寧及ヒ憲法ニ對スル諸般ノ未遂犯罪或ハ演說出版繪畫等ヲ以テ上下兩院ヲ侵スノ罪或ハ上下兩院ノ議員及ヒ帝國ノ上等下等ノ官吏等其職務上右ノ罪ヲ犯ス者有ル時ハ聯邦各州ニ於テ之

司法ニ關スル事

國事犯ノ裁判

ヲ裁判懲罰ス其方法ハ各州ニ於テ其兩院ノ議員ト上等下等ノ官吏ニ對シテ犯シタル罪ヲ聯邦各州及ヒ其各州ノ憲法ニ照準シテ同様ノ法律ニ循フ右ニ記載セシ所ノ獨乙帝國ニ對スル各種ノ未遂犯罪ハ聯盟各邦ニ於テ之ヲ審糾シ其罪大逆若クハ謀反ニ涉ル時ハ律北克ニ在ル三ヶ所ノ高等大法院ニ移シ之ヲ審判ス而シテ此ノ高等大法院其裁判權ト治罪權トニ關シタル諸權限ハ帝國ノ法律ニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ決定ス若シ帝國ノ法律ノ設アラザル時ハ聯盟各邦ノ裁判權及ヒ治罪權ニ係ル事ハ從前用ヒタル規則ニ循フ且ツ聯盟各邦數州ノ爭論ハ私法ニ關セザル時ニ於テハ通常裁判所ニテ之ヲ裁判スルヲ能ハズ故ニ其爭論ニ關シタル一方ノ國ノ訴訟ニ由リ上院之ヲ判決ス若シ憲法ニ關シタル爭論ヲ判決ス可キ官吏ヲ定メサル聯盟各邦ニ於テ其爭論ノ起ルトキハ之ニ關シタル一方ノ訴訟上ニ就テ上院へ訴ヘシ時上院ハ親シク之ヲ勸解ス若シ之ヲ勸解スルヲ能ハザル時ハ上院ノ決議ニ由リ之ヲ判決ス聯盟各邦ノ一州ニ於テ裁判ヲ爲スヲ肯セザル場

合アリテ法律ノ通常ノ方法ヲ以テ之ヲ勸解スルヲ能ハザル時ニ當リ
此事柄其各邦ノ憲法及ヒ法律ニ循據シテ之ヲ判決ス可キ真正ノ訴ナ
ル時ハ上院之ヲ受理ス而シテ裁判ヲ爲スヲ肯セサル各邦ノ政府ニ於
テ其事ヲ裁判セシム

領事ノ職務

獨乙帝國一般ノ領事ハ皇帝ノ監督ニ屬シ皇帝ハ貿易交際ニ就テ上院
委員ノ決議ニ由リ總テ領事ヲ任命ス而シテ獨乙帝國領事ノ管轄内ニ
於テ聯盟各邦ノ領事ヲ設クルヲ得ズ帝國一切ノ領事ハ其管轄内ニ於
テ領事ヲ設ケザル聯盟各州ノ爲メニ其各邦ノ領事一切ノ職務ヲ盡ス
凡テ現ニ成立スル聯盟各邦ノ領事ハ上院ノ意見ニ從ヒ聯盟各州各邦
ノ損害ヲ生セサル爲メ獨乙帝國一切ノ領事ヲ設置シタル日ヨリ之ヲ
廢ス

千八百六十九
年五月三十一
日發布ノ選舉
法

聯邦ノ何レノ州ヲ問ハズ民口十萬ヲ以テ一撰舉區ト爲シ每撰舉區ヨ
リ代議士一名ヲ撰舉ス若シ一州ヲ分チテ民口十萬ノ撰舉區ト爲シタ
ル後チ五萬以上ノ撰舉人ノ剩餘ヲ生スル時ハ縱ヒ撰舉人十萬ニ滿タ

ズト雖ヒ之ヲ一撰舉區トシ代議士一名ヲ撰舉ス又住民十萬ニ滿タザ
ル州モ均シク代議士一名ヲ出スモノトス投票上ノ便宜ニ由リ撰舉區
ヲ別チテ小區ト爲シ上院ニ於テ各撰舉區ヲ定ム獨乙帝國ノ臣民ニシ
テ年齢二十五歳以上ニ達シ投票ヲ行ハントスル所ノ撰舉區ニ居住ス
ル者ハ撰舉人タルノ權利アリ然リト雖ヒ現ニ兵役ニ服スル者後見人
タル者公權ヲ禁止セラレタル者犯罪人貧民身代限ノ處分ヲ受ケ未ダ
其辨償ノ義務ヲ終ラサル者等ハ撰舉人タルヲ得ズ又年齢二十五歳
ニ達シ寡クトモ一年間帝國各州ノ臣民タリシ者ハ代議士ニ撰舉セラ
ルハノ權アリ外國ヨリ歸化シタル者モ亦此法ヲ適用ス且ツ代議士ハ
其住處ニ拘ハラズ何レノ撰舉區ヨリモ撰舉スルヲ自由ナリ

大宰相ノ職務

帝國大宰相ノ職務ハ第一外務省ノ責任ニ屬セザル帝國一切ノ事務ヲ
司ル事第二上院ニ下附ス可キ趣旨ヲ立案スル事第三貿易上ノ政治ヲ
行フ事第四帝國ノ郵便電信ヲ管理スル事第五帝國公債關稅租稅及ヒ
財政ヲ監理スル事第六關稅同盟首長ノ責任ニ屬セシ事務ヲ總理ス

行政府ノ分並

ル事即チ是レナリ
 行政府ヲ區別シテ十部ト爲ス一ニ曰ク内閣(上院ノ議長ハ大宰相ナル
 ヲ以テ上院ハ則チ内閣ナリ獨乙帝國ノ上院ハ他國ノ上院ト其組織ヲ
 異ニシ立法府ト行政府ヲ兼任ス)一切ノ政務ヲ總轄ス二ニ曰ク大藏省
 帝國ノ財政ヲ司ル三ニ曰ク外務省帝國ノ外交事務ヲ司ル四ニ曰ク陸
 軍省帝國ノ陸軍ヲ司ル五ニ曰ク海軍省帝國ノ海軍ヲ司ル六ニ曰ク内
 務省帝國ノ内政ヲ司ル七ニ曰ク鐵道省帝國ノ鐵道ヲ監理ス八ニ曰ク
 會計検査院帝國ノ財政ヲ調査監督ス九ニ曰ク司法省帝國ノ司法事務
 ニ任ス十ニ曰ク恩給院恩給ニ關スル事務ヲ司ル

宗教

宗教ノ信仰ハ國民ノ自由ニ任セ政府之レニ干涉セズ然レハ各邦皆ナ
 國教ヲ定立シ法律ヲ以テ之ヲ保護ス國民宗教ヲ信仰スルヲ厚ク風俗
 ノ質朴ナルニ似ズ宗教ノ爲メニ巨額ノ資財ヲ捐棄スル者少ナカラズ
 ト云フ中央ヨリ以北ハ概チ新教ヲ奉シ南部及ビ西北ノ地方ハ舊教ヲ

各宗教ノ比例

奉スル者多シ又猶太教ヲ信スル者アリ千八百七十五年十二月一日ノ
 調査ニ據レバ其信徒ノ割合左ノ如シ尙ホ其詳細ハ各邦ニ就テ見ル可
 シ

- 一 耶蘇新教ヲ奉スル者 二千九百七十一萬八千八百二十三入
 - 一 耶蘇舊教ヲ奉スル者 千五百三十七萬一千二百二十七入
 - 一 猶太教ヲ奉スル者 五十二萬〇五百七十五入
 - 一 他ノ宗教ヲ奉シ若クハ無宗旨ノ者 五十六萬千六百十二入
- 右ノ表ニ據レハ新教ハ六割二分六厘舊教ハ三割五分八厘他ノ耶蘇教
 ハ二分一厘猶太教ハ一割二分四厘他ノ宗教ハ七分ナリトス

教育

獨乙帝國ニ於テ教育ノ事ハ帝國ノ憲法又ハ帝國ノ法律ヲ以テ之ヲ定
 メズ全ク各邦ノ自由ニ任スト雖モ各邦ハ務メテ學事ヲ獎勵シ各邦ノ
 憲法ヲ以テ教育令ノ大綱ヲ示シ別法ヲ以テ其細目ヲ定ム斯ノ如ク教
 育ハ各邦ノ自由ニ歸シ帝國ノ箝制ヲ受ケサレハ各邦多少其趣ヲ異ニ

スルヲ以テ其詳細ニ至リテハ一邦毎ニ之ヲ示述ス可シ然レモ爲ニ其
 一班ヲ示サン
 抑々獨乙帝國ハ教育最モ洽ク學校ノ設ケ大中小備ハラサル莫ク囚獄
 ノ中ニモ學校ヲ置キ罪人ヲ教化シテ善ヲ勸ムルノ設ケアリ教育ノ盛
 ンナル實ニ全歐羅巴洲ニ冠タリ又其教育令ノ抑壓專制タル歐羅巴中
 其例アルヲ聞カズ凡ソ父母及ヒ後見人タル者ハ其子及ヒ未丁人ヲシ
 テ小學校ニ掲ケタル教育ヲ受ケシムルノ義務アリ若シ此ノ義務ヲ欠
 ク時ハ罰金ヲ科ス是ヲ以テ國國ノ人民中文學ヲ知ラザル者殆ント稀
 レニシテ生徒及ヒ教授ニ關スル者ヲ統計スルニ人口總數六分ノ一ハ
 常ニ絶ヘズ學術ニ從事スト云フ而シテ獨乙同盟陸軍ノ調査ニ據レハ
 新兵概テ文ヲ解シ書ヲ讀ム唯々南方諸邦殊ニ巴威里王國ヨリ募集ノ
 新兵ニ文學ヲ知ラザル者ヲ少シク見ルノミト學問及ヒ學科ノ教授ハ
 全ク自由タリ又學校塾舍ヲ建設シ及ヒ教授スルノ權モ亦自由ナリト
 雖モ文部官吏ノ目前ニ於テ學術ノ檢証ヲ要シ且ツ其監督ヲ受ク每市

聯邦各州ノ教育令ノ一斑

全國ノ大學校

每村若クハ數市數村合同シテ必ズ小學校ヲ建設セザル可ラズ而シテ
 其經費ハ地方稅ヲ以テ之ヲ補助シ自由民ノ撰舉スル地方官之ヲ監督
 ス全國大學校二十一箇所皆ナ官立ニシテ其費用ハ政府ノ支辨ニ係ル
 學科ヲ分チテ四種トナス第一神學第二法學第三哲學第四醫學是レナ
 リ三年乃至四年ニシテ業ヲ卒フ教授及ヒ教員合計千九百六十三人學
 生一萬八千三百三十七人ナリ其別左ノ如シ

伯林大學校	教授及教官	二百二十九人
神學	生	二千六十四人
法學	生	千八百七十八人
哲學	生	千七百八十二人
醫學	生	五百七十六人
合計		三千七百〇九人
ボン大學校	教授及教官	四百〇九人
神學	生	三百七十九人
法學	生	四百七十七人
哲學	生	四百七十七人
醫學	生	四百七十七人
合計		千〇七十八人
ナレスラウ大學校	教授及教官	二百二十六人
神學	生	二百二十六人
法學	生	三百〇六人
哲學	生	五百六十八人
醫學	生	二百九十五人
合計		千三百八十八人

コニグスベルグ大學校	カイアル大學校	ヤナ大學校	ハイデルベルグ大學校	ホルレ大學校
醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學
生百七十八 生百七十八 生百七十八 生百七十八 生百七十八	生百四十九 生百四十九 生百四十九 生百四十九 生百四十九	生百八十五 生百八十五 生百八十五 生百八十五 生百八十五	生百四十七 生百四十七 生百四十七 生百四十七 生百四十七	生百九十三 生百九十三 生百九十三 生百九十三 生百九十三
合計八百四十一人	合計三百四十四人	合計五百〇八人	合計八百二十五人	合計千二百八十三人

グライスワルド大學校	ゴツチンゲン大學校	ケースセン大學校	フライブルグ大學校	エルランゲン大學校
醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學	醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學 醫學及神學
生百六十八 生百六十八 生百六十八 生百六十八 生百六十八	生百五十二 生百五十二 生百五十二 生百五十二 生百五十二	生百四十三 生百四十三 生百四十三 生百四十三 生百四十三	生百三十四 生百三十四 生百三十四 生百三十四 生百三十四	生百七十三 生百七十三 生百七十三 生百七十三 生百七十三
合計六百四十四人	合計千〇〇二人	合計四百〇二人	合計六百八十三人	合計四百六十二人

ライプツェグ大學校	マールブルグ大學校	ムニヒ大學校	ムシスタル大學校	ポストツク大學校
神學及教授 官生 五百六十一人	神學及教授 官生 七百三十三人	神學及教授 官生 七百三十二人	神學及教授 官生 八百三十四人	神學及教授 官生 四百三十三人
法學 生 八百三十八人	法學 生 三百三十三人	法學 生 四百九十八人	法學 生 二百七十八人	法學 生 四百三十三人
哲學 生 四百三十七人	哲學 生 五百三十八人	哲學 生 五百四十八人	哲學 生 二百七十八人	哲學 生 四百三十三人
醫學 生 四百三十七人	醫學 生 五百三十八人	醫學 生 五百四十八人	醫學 生 二百七十八人	醫學 生 四百三十三人
合計三千八百八十三人	合計七百七十一人	合計二千三百五十人	合計三百八十七人	合計二百四十五人

ストラスブルグ大學校	チウピンゲン大學校	ユウルツブルグ大學校
神學及教授 官生 九百七十八人	神學及教授 官生 八百六十五人	神學及教授 官生 七百八十一人
法學 生 八百九十九人	法學 生 四百六十八人	法學 生 五百八十一人
哲學 生 七百四十三人	哲學 生 六百四十四人	哲學 生 六百三十三人
醫學 生 七百四十三人	醫學 生 六百四十四人	醫學 生 六百三十三人
合計八百六十二人	合計千三百十五人	合計一千〇四十八人

右ノ表ハ各大學校ノ本科生徒ヲ記載セシノミ此ノ外ニ別科生徒アリ
 テ伯林府ノ大學校ノミニシテ千二百十九人ノ多キニ達ス、本科生徒ノ
 内ライプツェグノ大學校ハ過半以上外國人ナリト云フ、帝國二十一大大
 學校ノ中十四ハ新設ニシテ純然タル新設ノ神學ヲ教授シ他ノ四校ハ
 舊設ニシテ純然タル舊設ノ神學ヲ教授ス殘ル三校ハ新舊ヲ混同シテ

全帝國ノ小學
校

神學ヲ教授ス夫レ斯ノ如ク神學及ヒ哲學ヲ修ムル者多キハ獨乙人ノ
哲學ノ思想ニ富ミ宗教ヲ信スルノ厚キヲ見ルニ足ル可シ
千八百八十二年ニ於テ小學校ノ數ハ五万七千、教師十二万人、生徒七百
十万人、高等學校ノ數ハ千百校、教師一万三千四百〇五人、生徒二十三万
一千二百十四人ナリ左レバ人口一千ニ付キ生徒百五十七人ノ割合ニ
シテ瑞西國ノ外斯ノ如キ比例ヲ見ズ以上記載セシ外、高等專門學校九
箇所、學生四千二百二十九人、工業及ヒ商業學校九百九十四箇所アリ、教育
ノ隆盛ナル實ニ世界ニ冠タリ

陸軍

獨乙帝國ノ陸軍ハ千八百七十一年四月十六日ノ憲法ヲ以テ普魯士ノ
陸軍ヲ全帝國ノ陸軍ト爲シタル者ナリ其兵員ノ夥多ナル士卒ノ兵法
ニ練達ナル兵器ノ銳利ナル軍紀ノ整肅ナル世界ニ冠タリト云フモ決
シテ誣言ニ非ラズ今徵兵令ヲ案スルニ凡テ獨乙國民タル者ヲシテ皆
悉ク兵役ニ服スルノ義務ヲ負ハシメ代人若クハ免役料ヲ出シテ兵役

徵兵令ノ大要

ヲ免ル、コヲ許サズ苟モ兵器ヲ携帶スルニ足ル可キ體質ヲ有スル獨
乙人民ハ年齡滿二十歳ヨリ滿二十七歳ニ至ル七年間之ヲ常備軍ニ編
入シ此七年ノ内前期ノ三年間ハ現役ニ服シ後期ノ四年間ハ後備軍ニ
加入スルヲ要ス又後備軍ノ服役ヲ終リタル後チ更ニ五年間民兵ニ屬
ス徵兵令ヲ以テ普魯士ノ軍事ニ關スル立法ヲ帝國ノ各邦ニ適用シ以
テ毎年平時ニ徵集スル所ノ各兵員ヲ平均十六万人ト定メ尙ホ毎年五
千人ノ志願兵ヲ許シ又海軍ノ兵員ハ毎年五千人ヲ徵集ス
千八百七十五年ノ法律ヲ以テ大ニ帝國ノ兵員ヲ増加シタリ此法律ニ
據レハ現役兵、後備兵、若クハ民兵隊ニ屬セザル者ニシテ苟モ兵器ヲ携
帶スルニ適合スル者ハ悉ク兵籍ニ編入シテ別ニ一隊ヲ組織シ之ヲラ
ンドストルム(國民軍ノ義)ト名ケ之ヲ分チテ二種ト爲ス即チ其第一種
ハ年齡四十二歳以下ノ者ニシテ曾テ兵役ニ服セシコナク體質完具ノ
者ヨリ成立ス其第二種ハ其餘ノ者ヲ以テ之ヲ編制ス第一種ハ二百九
十三大隊ノ民兵隊ニ摸倣シテ二百九十三大隊ノ國民軍ニ編制シ戰時

皇帝ノ兵車ニ
關スル權

平時ニ於ケル

ハ之ヲ民兵隊ニ加入ス第一種ニ屬スル隊兵ノ總員ハ十七万五千八百人ナリ此法律ノ爲メ帝國ノ陸軍ハ第二種ニ屬スル兵員ヲ算入セザルモ一朝事アルノ日ニ當リテハ其總員百八十万ノ多キニ至ル可シ

憲法ノ第六十三條ヲ以テ獨乙帝國一般ノ陸軍ハ其戰時ト平時トヲ論ゼズ皇帝ノ指揮ニ屬スル唯一ノ者ト爲シ本邦ノ君主ニ下等武官ヲ任命スルノ權利ヲ有セシメ殊ニ巴威里王ニ千八百七十年十一月二十三日ノ條約ニ據リテ其領地内ニ於テ徵集シタル獨乙陸軍ノ一部ヲ指揮スルノ特權ヲ有セシメタリ然レモ獨乙皇帝ノ批濶ヲ得ルニ非ラザレハ擅ニ命令ヲ施行スルヲ能ハズ且孰レノ邦國ヲ問ハズ軍隊ニ對スル緊要ノ命令ニ至テハ必ス皇帝ノ認允ヲ受クルヲ要ス若シ然ラサルハ之ヲ施行スルヲ得ス又總軍隊ハ必ズ皇帝ノ命令ヲ遵守スベキノ義務ヲ有シ而シテ之ヲ遵守ス可キノ義務ハ之ヲ兵卒ノ誓詞ニアルモノトス又皇帝ハ帝國ノ各邦ニ於テ自由ニ城塞ヲ築造スルノ權利ヲ有ス今年ノ調査ニ據レハ帝國陸軍ノ兵力及ヒ其編制ハ左表ニ列記スル所

兵員ノ數

ノ如シ蓋シ平時ノ組織ヲ示ス者ナリ

○步兵百六十一聯隊

士官 九千五百二十九人
兵卒 二十七万八千八百二十二

○ライフル兵二十大隊

士官 四百二十四人
兵卒 一万一千〇二十八

○民兵補充隊

士官 三百二十六人
兵卒 四千七百六十四人

○騎兵九十三聯隊

士官 二千三百五十八人
兵卒 六万四千六百九十九人
軍馬 六万二千五百五十頭

○野砲兵三十七聯隊

士官 千八百〇一人
兵卒 三万四千八百七十七人
軍馬 一万六千五百九十一頭

○砲臺兵十四聯隊三大隊

士官 七百二十九人
兵卒 一万六千三百五十九人

○大砲

千三百二十四門

○工兵二十大隊(鐵道兵一大隊ヲ含ム) 士官 四百〇六人 兵卒 一万〇八百四十八人

○輜重兵十八大隊 士官 二千人 兵卒 四千九百〇五人 軍馬 二千四百五十七頭

○陸軍事務官 士官 二千〇三十二人 兵卒 四人

○特役兵 士官 三百十三人 兵卒 九百五十四人

合計士官一万八千八百十八人 ○兵卒四十二万七千二百四十七人 ○軍馬八万一千五百九十八頭 ○大砲千三百七十四門ナリトス

之レニ軍馬醫大砲鍛冶會計軍吏等ノ三千八百四十人ヲ加フレバ獨乙帝國陸軍ノ兵力ハ平時ニ在テハ其兵員四十四万九千二百三十九人、戰時ニ在テハ更ニ増加シテ士官三万四千二百二十七人、兵卒百四十五万六千六百七十七人 ○軍馬三十一万二千七百三十一頭 ○大砲二千四百八十

戰時ニ於ケル兵員ノ數

門ニ達ス可シ其別即チ左ノ如シ

○歩 士官 二万二千七百八十四人 兵卒 二万三千五百〇九頭

○ライフル兵 士官 六百人 兵卒 八百四十頭

○騎 士官 三千四百三十三人 兵卒 十萬〇〇七千七百七十六人

○野砲 士官 二千九百四十四人 兵卒 十萬〇六千九百三十九人 大砲 二千〇四百二十二頭

○砲臺及ヒ海岸砲兵 士官 五千四百五十八人 兵卒 五萬八千七百七十四人 大砲 九千四百八十門

○工 士官 八百七十二人 兵卒 三萬八千二百五十九人 軍馬 一万〇七百五十九頭

○輜重兵及ヒ行政兵 士官 兵卒 千二百五十八人
軍馬 六万五千五百五十六頭

○鐵道及ヒ電信隊 士官 兵卒 千三百三十八人
軍馬 七千〇〇六人
五千三百九十頭

○陸軍事務官 士官 兵卒 二千八百八人
軍馬 七千人
六千六百頭

合計士官三万五千四百二十七人○兵卒百四十五万六千六百七十七人

○軍馬三十一万二千七百三十一頭○大砲二千四百八十四門ナリ

以上ニ舉示スル表中ニハ千八百七十六年ノ編制ニ係ル後備軍二十五万人及ヒ「ランドストルム」即チ國民兵ヲ算入セス今若シ之ヲ算入セハ則チ獨乙陸軍兵ノ總數ハ二百六十五万人ニ達シ此外軍事ノ訓練ヲ受ケザル各種ノ兵員ヲ加フレバ五百六十七万ノ多キヲ見ル可シ

隊伍ノ編制

斯ノ如ク徵シタル兵員ヲ中隊、大隊、聯隊、軍團ニ編制ス、平時ニ在テハ其大隊ハ大抵五百四十四人ヲ以テ之ヲ組織シ戰時ニ在テハ後備軍ヲ徵

集シテ之レニ加入シ以テ一大隊ノ兵員ヲ千〇〇二人ト爲ス又一大隊ヲ分チテ四中隊ト爲シ戰時ニ在テハ一中隊ハ二百五十人ヲ以テ編制ス然レトモ守衛兵ノ大隊ハ此定制ニ遵依セズアルサス、ロルレン州ノ守衛兵ノ一聯隊ハ平時ニ於テ六百八十六人ヲ以テ編制ス又平時ニ當リ步兵一聯大隊ハ三大隊ヨリ成立シ二聯隊ヲ以テ一旅團ト爲シ二旅團ヲ以テ一師團ト爲シ尙ホ之レニ騎兵四隊、砲兵六隊（一隊ハ大砲六門ヨリ成ル）「ライフル」兵一大隊ヲ附屬ス若シ否ラザレバ銃兵一大隊ヲ附屬シ師團長官ノ指揮下ニ在リ又步兵二師團并ニ四聯隊ヨリ編制スル騎兵二師團、騎砲兵二隊、及ヒ步兵師團ニ附屬シタル騎兵二聯隊ノ外ニ後備野砲兵六隊、山砲兵一大隊ヲ以テ一軍團ト爲シ尙ホ之レニ銃兵一大隊、輜重兵一大隊ヲ隸屬ス、軍團ハ步騎砲、等ノ兵員ヲ包含スルノミナラス全軍ニ要スル一切ノ需要物品ヲ供備シ實ニ純然タル獨立ノ隊團ナリ軍團ハ（守衛軍團ヲ除ク）全帝國各地ニ配置シ總テ十七軍團アリ（普魯士ノ守衛軍團ヲ除ク）其中十一軍團ハ普魯士ニ配置シ其他ハ帝國各邦

ニ屯在セシム即チ第一普魯士第二ボメラニヤ第三ブランデンブルグ
 第四サキソニー第五ポーゼン第六シレシヤ第七ウエストハレア第八
 ラインランド第九スレスウ非グ及ヒホルスタイン第十ハノーヴエルの
 十一ヘツス、ナツサウ第十二薩索尼第十三瓦敦堡第十四巴丁第十五ア
 ルサス、ロルレン第十六及ヒ十七巴威里等ノ地方是レナリ
 平時ニ在テ普魯士ヨリ帝國ニ出ス所ノ諸兵ハ左ノ如シ

○常備歩兵 士官七千三百一十一人 兵卒二十一万五千七百二十四人

○ライフル兵 士官三百〇八人 兵卒七千八百二十六人

○民兵 士官二百二十五人 兵卒三千六百九十八人

○騎兵 士官千八百五十一人 兵卒五万〇六百七十二人
 軍馬四万九千〇四十七頭

○砲兵 士官千九百八十五人 兵卒四万〇百十六人
 軍馬一万三千百五十三頭

○工兵 士官三百八十八人 兵卒八千四百八十七人

○輜重兵 士官百五十二人 兵卒三千四百九十三人
 軍馬千九百六十七頭

○行政兵及ヒ他ノ軍隊 士官千八百六十二人 兵卒六百二十一

合計士官一万四千〇十二人、○兵卒三十三万〇六百二十九人、○軍馬六
 万四千百六十七頭ナリ、獨乙國ハ佛國ト戰端ヲ開キシ以來巨多ノ堡築
 ヲ改造シ或ハ其不用ニ屬セル者ハ悉ク之ヲ廢毀シ或ハ新ニ築造シタ
 ル者アリ或ハ舊堡築ヲ修理シテ其構造ヲ壯大ニシタル者アリ現今帝
 國ヲ分チテ九堡築區ト爲シ堡築ノ全數四十三ナリト云フ

海軍

獨乙ノ海軍ハ近世十年間大ニ進歩ヲ致シタリ昨年ノ調査ニ據レバ軍艦ノ大ナル者ハ甲鐵フリゲート艦七艘、甲鐵快走艦六艘、巡洋艦ハ「スバル」デケット「快走艦十艘」フラッシュ「デケット」八艘、砲艦九艘、海岸防禦艦ハ甲鐵艦一艘、甲鐵砲艦十一艘、水雷火船十五艘、二等砲艦一艘ニシテ、此外尙ホ輕報艦八艘、運送艦二艘、學校用船十二艘、此内三艘ハ風帆船、港用船十九艘ヲ備ヘ其總計ヲ舉クレハ各種ノ軍艦百〇八艘、大砲五百二十五門、馬力十五万三千六百五十アリ、又現今製造中ノ軍艦ハ甲鐵快走艦一艘、排水量五千二百噸、馬力三千九百「スバル」デケット「快走艦一艘」フラッシュ「デケット」「快走艦二艘」砲艦一艘、甲鐵砲艦二艘ニシテ、此合計一万五千三百五十馬力之ニ裝置スル大砲六十二門ナリ、今左表ニ於テ甲鐵艦ノ等級ヲ示サン

級等	艦名	水線ニ於ケル		馬力	排水量
		甲鐵ノ厚サ	大砲		
		數	重量		

艦走快		艦ト		フリヂ	
アルミニウス	四、五	四	一〇	八〇〇〇	七五七六
バーデン	一六	六	二二	五〇〇〇	七四〇〇
ウルテンブルグ	一六	六	二二	五六〇〇	七四〇〇
ペールン	一六	六	二二	五六〇〇	七四〇〇
サヒゼン	一六	六	二二	五六〇〇	七四〇〇
ハンサ	六	八	一〇	二九六〇	三六一〇
クロンクリンツ	五	一六	一〇	四七三五	五五八六
フレドリッキガール	五	一六	一〇	三四五〇	六〇〇〇
プロイゼン	九、四	二四	二六	五四〇〇	六七七〇
フレドリッキゲロース	九、五	二四	二六	五三二七	六五五〇
コングウ井ルヒルム	八、五	一八	一五	八〇〇〇	九七六〇
デウトシウランド	一〇	一八	二二	八〇〇〇	七五七六
カイセル	「インチ」一〇	「ト」一八	二二	八〇〇〇	七五七六

ナリ甲鐵ノ厚サハ艦體ノ中央ニ在リテハ八インチ三分ノ一ナリト雖
 水線ノ下七ヒートニ至リ次第ニ七インチニ減ス二十三門ノクルツ
 プ砲ヲ裝置シ且ツ艦側ニ十噸ノ大砲二門ヲ備ヘリ又ツエーテンホー
 ヘンブルレルン下號スル二艘ノ水雷火船有リ是レハ進攻ノ戰用ニ供
 スル巡洋艦ニシテ非常ノ速力ヲ有シ一時間二十ノットヲ馳走スルヲ得
 可ク凡テ緊要ノ部分ハ皆ナ鋼鐵ヲ以テ之ヲ蔽フ又第三等ニ位スル軍
 艦ハ巡洋砲塔甲鐵艦ニシテ此艦ハ凡テ四艘アリテ皆ナ各々砲塔ヲ備
 ヘリ「アドミラル、チトチャゴフ」「アドミラル、スプリッドフ」「アドミラル、グレ
 ーグ」「アドミラル、ラザレフ」ノ四艘ハ甲鐵巡洋砲塔艦ニシテ六インチノ
 鐵板ヲ以テ砲塔ヲ蔽ヘリ「キャンザツ、ボザルスキ」號ハ千八百六十六年セ
 ント、ピーターズブルグノ海軍造船所ニ於テ英國ノ工師之ヲ製造シ長
 サ二百八十ヒート幅四十九ヒートアリテ充分ニ兵器ヲ備ヘリ又「ラン
 デミル、モナーキ」號ハ千八百八十二年「ドミトリ、ドスコリ」號ハ千八百八
 十三年ヲ以テ進水式ヲ執行セリト雖モ昨年ノ十二月ニ至ルマテ未タ

其工事ヲ竣ハラヌ二艦ノ長サ三百〇六ヒート幅五十二ヒート船尾ニ
 於ケル深サ二十五ヒートニシテ表中ニ舉示スル大砲ノ外別ニ水電火
 船ヲ擊破ス可キ小砲數門ヲ備ヘリ昨年製造ノ契約ヲ爲セシ新軍艦ア
 リ千六百八十六年ニ進水式ヲ執行シ而シテ同八十八年ニ至リテ完成
 ス可キヲ豫期シタリ其長サ各々三百十四ヒート幅六十九ヒート深
 サ四十二ヒート水線ニ於ケル甲鐵ノ厚サ十八インチ砲塔ハ十四イン
 チノ鐵板ヲ以テ之ヲ蔽ヒ各々口徑十二インチノ大砲六門六インチノ
 施條砲ヲ裝置シ機關ハ九千馬力ナリト云フ
 千八百七十三年政府ハ大ニ海軍ヲ擴張スルノ說ヲ主張セシニ議院ハ
 直チニ此說ニ左袒シタリ蓋シ此企圖ハ獨乙ノ海軍ヲ擴張シ果シテ其
 完成ヲ告クルニ至ラバ甲鐵フリゲート艦八艘甲鐵快走艦六艘甲鐵モ
 ニトル艦一艘甲鐵砲艦十三艘木造快走艦二十艘輕報艦六艘大小ノ砲
 艦合セテ十八艘砲兵艦二艘兩桅艦三艘水電火船二十艘ヲ設備ス可キ
 ヲ豫期スル者トス昨年度ノ豫算表ヲ以テスレバ二百八十四万マルク

ヲ以テ甲鐵快走艦ノ製造ノ經費ニ二百二十五万マルクヲ以テ軍艦及
ヒ水電火船ノ裝具費ニ百八十五万マルクヲ以テ水電火船築造費ニ充テ
千八百七十四年以來獨乙政府ハ軍艦築造ノ經費ニ一千七百五十万圓
ノ金額ヲ支出セリト

獨乙ノ海軍兵ハ士官水兵若水兵七千六百三十五人海兵千〇四十七人
有リ此外各種ノ兵員ヲ合スレバ總計一万二千〇四人ニ及ブ各艦隊ノ
水兵及ヒ海兵隊ハ徵兵法ニ由リ沿海人民ニ取テ之ヲ組織シ而シテ海
軍ニ從事スル者ハ陸軍ノ兵役ヲ免除ス且ツ政府ハ大ニ海軍ニ從事ス
ル者ヲ獎勵シ近來航海ノ業著ク進歩ヲ致シタリ獨乙全國ニ於テ航海
ヲ業トスル者總テ八万人ニ下ラス而シテ此内四万八千人ハ本國ニ於テ
商船ニ從事シ六千人ハ外國ノ海軍ニ從事スル者ナリ獨乙ニ三箇所ノ
戰港アリ波羅的海ノキール及ヒダンツエグ北海ノシヤテ海ノウ井ル
ヒルムスヘーヴエン等はレナリ而シテウ井ルヒルムスヘーヴエン港
ハ花崗石ヲ以テ之ヲ建築シ潮水ノ増減ヲ自由ニスベキ爲メ水道及ヒ

獨乙ノ戰港

水門ヲ設ケ五箇處ノ碇泊場及ヒ諸艦ノ修繕ニ供スル爲メ乾船渠ノ設
ケアリ

歲出入及ヒ國債

帝國ノ歲入ハ左ノ稅源ヨリ徵收ス第一關稅(蓋シ關稅ハ帝國ノ費用ニ
充ツルヲ以テ各邦ハ之ニ課稅セズ)并ニ消費物ニ課スル國內稅(砂糖食
鹽煙草火酒麥酒等ノ稅ニシテ關稅同盟ヨリ帝國ニ歸セシ者)第二帝國
ノ屬地ニ課スル租稅ノ一部分第三印紙稅(此稅ハ各州其一部分ヲ徵收
ス)第四鐵道及ヒ郵便電信ノ收入第五訴訟手数料(貿易上ノ事件ニ付帝
國法院ニ訴フル者)第六領事ノ領收スル手数料第七各州ヨリ帝國ニ納
ムル賦課金はレナリ而シテ此賦課金ハ全歲入ノ殆ント三分ノ一ヲ占
メ人口ノ數ニ應シテ之ヲ賦課ス實ニ人頭稅ノ一類ニシテ不公平ヲ極
ム是ヲ以テ人口多キ貧國ハ甚タ不利ニシテ人口少キ富國ハ最モ有益
ナリ帝國ハ毎年其歲入ヲ見積リ之ヲ豫算表ニ記載ス此ノ豫算表ハ其
歲入ヲ費用スル年ノ前年ニ於テ法律ニ循ヒ議院ノ議決ヲ以テ之ヲ定

稅源

會計年度

△而シテ大宰相ハ毎年豫算表ノ不足及ヒ各邦ノ納△可キ租稅ヲ布告
 ス而シテ普通歳出ハ毎年一回豫算表ヲ製シ下院ノ決議ニ因リ之ヲ定
 △ルヲ法トス然レトモ非常ノ事件起リ臨時ノ支出ヲ要スル時ハ更ニ出
 金ヲ下院ニ求ムルヲ得千八百七十七年ニ於テ會計年度ハ毎年四月一
 日ヨリ起リ翌年三月三十一日ニ終ル者ト爲シ毎年精密ノ決算書ヲ作
 リ下院ニ報告ス千八百八十二年ノ會計豫算表ニ據レバ歳入總計五億
 九千六百八十一万一千四百〇九マルクニシテ歳出モ亦之レト同額ナ
 リ歳出ヲ分チテ二種ト爲ス曰ク通常歳出曰ク臨時歳出是レナリ千八
 百八十三年ノ會計年度ノ歳出豫算表左ノ如シ

第一種 通常歳出

千八百八十三年四月一日ヨリ八十四年三月三十一日ニ至ル
 内閣上院及ヒ大藏省 八千六百四十四万三千三百三十六マルク
 下院 四十万〇七千六百七十マルク
 外務省 六百六十七万六千七百七十五マルク

千八百八十三年
年度ノ豫算

陸軍省 三億四千二百四十九万三千三百二十五マルク
 海軍省 二千七百五十六万五千八百五十六マルク
 内務省 二百七十七万五千四百二十二マルク
 鐵道局 三十万〇三千百五十一マルク
 國債利子 千三百七十万〇二千五百マルク
 會計検査院 五十二万八千六百七十三マルク
 司法省 百七十万〇七千六百六十七マルク
 一般恩給 千九百〇九万五千二百八十七マルク
 準備金 三千〇十二万九千五百六十七マルク
 通常歳出合計五億三千百八十二万九千二百二十八マルク
 第二種 臨時歳出
 内閣上院及ヒ大藏省 三百五十九万五千八百二十五マルク
 國債利子 二十二万七千三百〇〇マルク
 外務省 十八万三千八百〇〇マルク

郵便及ヒ電信局 三百〇五万三千〇〇〔マルク〕
 陸軍省 二千八百〇三万三千九百三十一〔マルク〕
 海軍省 八百七十二万八千〇〇〔マルク〕
 司法省 二十万〇〇〇〔マルク〕
 政府ノ鐵道 四百四十万〇〇〇〔マルク〕
 印刷局 一万五千〇〇〇〔マルク〕
 佛國ト戦争ノ補充金 一万八千二百八十三〔マルク〕
 千八百八十年ヨリ同一年マデノ不足補充金 千二百〇六万二千四百六十八〔マルク〕
 官立工場 九百十五万〇〇〇〔マルク〕
 臨時歳出合計七千八百九十万〇八千四百七十九〔マルク〕
 歳出總計 六億一千〇七十三万七千七百〇七〔マルク〕
 同年度ノ歳入ハ左ノ如シ
 海關稅及ヒ國產稅 三億三千九百〇九万八千二百八十〇〔マルク〕
 砂糖稅 千二百〇六万二千四百六十八〔マルク〕

同年度ノ歳入

印紙稅 千九百一十一万二千百〇〇〔マルク〕
 統計稅 四百四十万〇〇〇〔マルク〕
 郵便及ヒ電信稅 二千百二十六万四千〇〇〇〔マルク〕
 鐵道收入 千二百六十八万六千四百〇〇〔マルク〕
 準備金利子 三千百十二万九千五百六十七〔マルク〕
 前年度ノ剩餘 千百五十五万八千三百五十〇〔マルク〕
 銀行稅 百五十万六千四百二十五〔マルク〕
 減價基金利子 三百〇六万二千九百五十三〔マルク〕
 印刷局收入 百〇五万二千二百四十〇〔マルク〕
 臨時及ヒ雜種收入 五千五百九十五万二千五百五十五〔マルク〕
 直接歳入合計五億〇〇六万九千九百八十三万三千三百三十八〔マルク〕
 各邦賦課金 一億〇〇三百六十八万四千三百六十九〔マルク〕
 歳入總計 六億一千〇六十三万二千七百〇七〔マルク〕
 同年度ニ於テ帝國ノ重立チタル各邦ノ賦課金ハ普魯士五千二百二十

同年度ノ歳入

四万九千七百三十三マルク
 巴威里二千〇二十七万八千三百八十一マルク
 瓦敦堡七百六十七万〇〇十五マルク
 巴丁五百三十五万九千八百七十六マルク
 薩索尼五百五十九万八千〇〇七マルク
 アルサス及ピロレン州三百八十三万八千三百八十二マルク
 ナリ戦争ニ由リ佛國ヨリ得タル償金十億万圓ハ殆ント其半額ヲ帝國ノ二十五邦ニ分配シ其半額ハ佛國ヨリ得タルアルサス及ピロレン州ノ鐵道代價トシ或ハ其砲臺ノ代價トシテ佛國ニ支拂ヒタリ獨乙帝國ハ斯ノ如ク千八百七十一年其政府再設ノ時ニ當リ國債ナカリシト雖モ近年ニ至リ國債ヲ起セリ然レモ之レヲ獨乙帝國ノ國力ト他國ノ國債ニ比較スレバ甚々僅少ナリト謂フ可シ千八百八十一年十月一日始メテ二億九千八百九十五万五千五百〇〇マルクノ國債ヲ募リ翌年一月十五日又更ニ二千九百六十七万四千四百〇五マルクノ新公債ヲ起セリ而シテ其利子ハ年四銖ナリトス此外無資國債アリ之ヲ帝國大藏省証券ト稱シ其額千八百八十二年四月ノ調査ニ據レハ一億五千二百十六万四千二百十一マルク

帝國ノ國債

クナリ此他各種ノ國債(起業國債、議院建築費ノ國債等)合計七億千九百三十一万六千五百七十五マルクアリトス

輸出入税貿易及物産工事

獨乙帝國ハ輸出入税及ヒ貿易ノ事ニ關シテハ境界ヲ以テ區畫シタル領地ト爲ス然レモ地理上ノ都合ニ由リ此境界内ニ列ス可ラザル遠隔ノ領分ハ之ヲ除キ聯盟各州ニ於テ自由ニ用ヒラル可キ諸品ハ聯邦ノ他州ニ輸入スルモ輸出入税ヲ賦課セラル、ト無シ然レモ輸入シタル諸物ト同品ニテ該國ノ國內税アル者ハ輸入シタル諸物ト雖モ亦同シク税ヲ課ス凡テ輸出入税ニ關スル事件ハ帝國ノ立法ヲ以テ之ヲ定メ聯盟各邦同一ノ收税法ヲ施行ス但シ聯邦ノ領地内ニ於テ製造シタル食鹽烟草火酒麥酒砂糖糖蜜等ニ限り而シテ巴威里瓦敦堡巴丁ノ三邦ハ國內ノ火酒及ヒ麥酒税ニ就キ其邦ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム皇帝ハ輸出入税及ヒ租税ニ關スル上院委員ノ評議ヲ受ケ聯盟各邦ノ關稅ノ官吏及ヒ租稅監督官ノ側ニ置キタル帝國官吏ニ由テ輸出入税及ヒ租稅

輸出入税ニ關スル法律

ノ事ヲ總理ス又右ノ官吏等ノ爲シタル告訴ハ上院ニ於テ之ヲ判決ス
 帝國一般ノ法律ヲ施行スル時ニ當リ緊要ノ行政規則及ヒ行政支部設
 立ノ事ヲ議定スル時ニ當リ若シ現在ノ規則或ハ其設立ヲ保維セシム
 ルハ議長ノ投票ニ由リ之ガ決定ヲ爲スヲ法トス凡ソ租税ノ收額ハ帝
 國ノ國庫ニ收メ關稅及ヒ其他ノ租税ヨリ生スル入額ニ就キ除去ス可
 キ者ハ第一法律ニ循ヒ及ヒ一般行政ノ規則ニ由リ償還ス可キ租税及
 ヒ輕減ス可キ租税第二課稅課稅シタル時返還ス可キ租税第三租税ヲ
 課收シ及ヒ之ヲ管理スル爲メノ費額此第三項中ニ於テ區別ス可キ者
 ハ左ノ如シ甲輸出入税ニ關シテハ外國ニ對シ國境及ヒ其近傍ノ地方
 ニ於テ輸出入税ノ事ヲ保護シ若クハ輸出入税ヲ課收スル爲メニ必要
 ナル費額乙製鹽所ニ於テ鹽稅ヲ課收シ或ハ此ノ稅務ヲ管理スル爲メ
 ニ命セラレタル官吏ノ俸給ヨリ生スル費額丙砂糖及ヒ煙草稅ハ上院
 ノ議決ニ循ヒ其稅ヲ管理ス可キ支償ノ爲メニ免除ス可キ償額丁其他
 ノ租税ハ總テ收額ノ十五分ヲ除去ス然リ而シテ輸出入税ノ境界外ニ

三ヶ國ノ特許

在ル遠隔ノ領地ハ每歲其邦ニ相應シテ定メタル金額ヲ帝國大藏省ニ
 收ム巴威里瓦敦堡巴丁ノ三國ハ火酒及ヒ麥酒稅ニ付キ帝國大藏省ニ
 收ム可キ金額ヲ收ムルニ及ハズ又三ヶ月間課收セラレタル輸入税及
 ヒ帝國大藏省ニ納ム可キ國內稅ハ各邦關稅ノ上等官吏三ヶ月毎ニ摘
 要書ヲ製ス右ノ輸出入税并ニ國內稅ハ歲末ニ於テ上等官吏一歲ノ統
 計ヲ決算ス此決算書ハ各邦ノ監督官之ヲ調査シ其一覽表ヲ編製シ一
 切ノ稅額ヲ登記シ之ヲ上院ノ財政委員ニ送付ス上院ノ財政委員ハ右
 ノ一覽表ニ由テ三ヶ月毎ニ各邦ヨリ帝國ニ納ム可キ金額ヲ假定シ之
 ヲ上院并ニ各邦ニ報告シ己ノ意見書ヲ添ヘテ每歲右ノ金額ニ係ル最
 終ノ決定書ヲ上院ニ提出シ上院ニ於テハ更ニ此決定書ヲ議決ス
 聯盟各邦ノ商船ハ唯一ノ商船隊ニシテ帝國ハ商船ノ噸數ヲ量ル可キ
 法式ヲ定メ噸數證書ヲ出シ或ハ商ニ關スル其他ノ書類ノ事ヲ定ム又
 帝國ハ商船々長ノ免許ヲ求ムルニ就テノ規則ヲ定ム聯盟各邦ニ於ケ
 ル港及ヒ天然ノ河溝并ニ人造ノ河溝ニ於テ各邦ノ商船ハ均シク通航

航海ニ關スル
法律

スルヲ得ルナリ燈臺浮標ヲ設置シタルニ由リ各港ニ於テ商船及ヒ其貨物ニ課スルノ租税ハ之ヲ維持スルニ必要ナル費額ニ超過スルコトヲ得ズ總テ天然河溝ニ於テ課ス可キ租税ハ其航行ヲ助グル者ノ爲メニ課税ス可キナリ右ノ收税并ニ聯盟各邦ニ屬スル所ノ人造河溝ヲ航行スルニ由テ課ス可キ租税ハ其修理ノ爲メニ必要ナル費額ニ超過スルコト能ハズ筏ニ在テハ航行ス可キ河溝ノミニ於テ右ノ規則ニ循フ外國ノ船舶及ヒ貨物ニ付キ聯盟各邦ノ船舶及ヒ貨物ヨリ取り立ル所ノ租税ト違フタル租税若クハ夫レヨリ多キ租税ヲ課スルコトハ聯盟各邦ノ爲シ能ハザル所ニシテ獨リ帝國ノ爲ス所ニ任セリ又商船ノ旗章黑白赤色ト定メタリ

帝國ノ通商貿易ハ早堡不來梅ノ二都府ヲ除クノ外ハ帝國全邦ヲ包括スル所ノ所謂關稅同盟ヨリ發布スル特別ノ法律規則ノ管理保護ニ屬ス而シテ千八百六十八年ニ於テ許サレタル早堡及ヒ不來梅ノ二都府ガ自由港タル特許ハ千八百七十一年ノ帝國憲法ノ第三十四條ヲ以テ

之ヲ批准シタリ而シテ早堡ノ自由都府タル特許ハ早堡全體ニ通セシト雖也今ハ然ラズ乃チ帝國政府ト條約ニ由リ唯ダ其市街ト港場ニ行フコトヲ得ルノミ千八百七十一年マテハ關稅同盟上院關稅同盟代議院ノ二政府ヲ設立シ北獨乙同盟國會議院ト同一ノ方法ヲ以テ關稅同盟代議院ノ代議士ヲ擧擧シ毎歲ノ首メニ會議ヲ開キタリ然レド千八百七十一年四月十六日ノ布告ニ係ル憲法ヲ以テ關稅同盟上院ハ帝國同盟上院ト併セ關稅同盟代議院ハ帝國同盟代議院ト合シ其事務ヲシテ三名ノ常置委員ニ委任セリ即チ會計委員租稅委員是レナリ而シテ關稅院ノ一切ノ入額ハ之ヲ帝國大藏省ニ收メ帝國各州ノ人口ニ比例シテ之ヲ配分ス

千八百八十二年ノ輸出入品原價左ノ如シ

消費物	十一億〇七百六十五[マルク]
未製品	九億七千〇五十[マルク]
製造品	五億四千八百七十[マルク]
他ノ物品	五億〇百六十五[マルク]

輸入商品原價合計 三十一億二千八百四十五[マルク]

○ 輸入 金銀塊及ヒ貨幣三千六百三十五[マルク]

輸入品原價總計 三十一億六千四百七十五[マルク]

○ 輸出 消費物 六億二千六百八十五[マルク]
未製品 五億五千七百六十五[マルク]
製造品 十六億三千九百五十五[マルク]
他ノ物品 三億六千五百五[マルク]

輸出商品原價合計 三十一億八千八百九十五[マルク]

○ 輸出 金銀塊及貨幣五千五百八十五[マルク]

輸出品原價總計 三十二億四千四百七十五[マルク]

動物ノ輸入ノ中馬五万四千八百五十四頭家畜七万七千二百五十三頭
豕百三十六万五千〇〇六頭アリ然ルニ其輸出ハ家畜十二万六千三百
五十三頭、牝牛十一万二千九百十八頭、羊及ヒ山羊百二十五万〇八百〇
八頭アリ又穀物ノ輸出ハ小麥三十六万九千九百四十九噸、裸麥五十七万
五千四百五十四噸、燕麥二十六万二千五百九十噸、大麥二十四万七千八

百二十九噸、玉蜀黍四十三万〇三百七十四噸、ニシテ穀物及ヒ馬鈴薯ノ
原價合計九千七百万圓ナリトス又鐵品ノ輸出三千〇五十七万五千圓
ナリ毛、綿絹等ノ織ル可キ未製品ノ輸入ハ一億二千二百五十五万圓、絲
類ノ輸入ハ七千二百九十万圓ナリトス、雖ヒ衣服地ノ輸出原價ハ一億〇
二百〇五万四千圓ナリトス、砂糖ノ輸出原價ハ三千七百九十七万二千
五百圓ナリトス而シテ獨乙ノ貿易ハ英吉利、埃地利、佛蘭西、魯西亞、和蘭、
比耳時、及ヒ合衆國等ノ諸國ト殊ニ盛ンナリ

歲入ノ重モナル原因ハ多クハ輸入品ニ於ケル關稅及ヒ酒類、麥酒、麥芽、
食鹽、甜菜ノ根ヨリ製スル砂糖、煙草等ニ課スルノ租稅ナリトス、千八百
八十二年獨乙全國ヨリ英國ヘ輸出シタル貨物ノ原價ハ一億〇一千八
百二十五万四千四百二十五弗ニシテ又英國ヨリ獨乙ヘ輸入シタル貨物
ノ原價ハ八千七百七十五万七千九百九十五弗ナリ而シテ獨乙ヨリ英國ヘ
ノ輸出品ハ概テ農産物ニシテ其重モナル者ハ麵粉、精製セザル砂糖、生
活動物、材木、馬鈴薯等最モ多シ乃チ小麥、大麥ノ原價一千四百六十五万

英國ヨリノ輸入原價

一千四百十五弗未製砂糖ノ原價二千三百六十四万四千五百八十弗、生活動物ノ原價七千四百八十三万三千六百九十弗、馬鈴薯ノ原價八百五十八万二千七百七十五弗ナリ、又麪粉、豌豆、裸麥、燕麥ノ輸出モ近年ニ至リ大ニ増加シタリ、此外輸出品種々アリト雖モ概テ農産物ナリトス、英國ヨリ獨乙ヘ輸入品ノ重モナル者ハ製毛、製綿、及ヒ製鐵或ハ不製鐵ナリトス、千八百八十一年英國ヨリ獨乙ヘノ輸入品價額ハ毛布五百九十三万六千六百五十弗、毛絲七百四十四万四千六百七十五弗、綿布綿絲一千五百四十一万一千二百三十弗、製鐵及ヒ未製鐵六百十五万七千七百七十弗ナリ、此ノ外輸入品ハ種々アリト雖モ五百萬弗以上ノ價額ニ達スル者一モ之レアラズ、

千八百七十三年一月十日ノ農事調査ニ據レハ帝國ニ於テ馬三百三十五万二千二百三十一、騾及ヒ驢馬壹万三千三百十五、家畜千五百七十七万六千七百〇二、羊二千四百九十九万九千七百〇六、豕七百七十二万四千〇八十八、山羊二百三十二万〇〇〇二頭アリト云フ

金屬及礦物ノ出產高

金屬及ヒ礦物ノ產出ハ千八百八十年ノ調査ニ據レハ鐵塊鐵二百四十六萬八千三百七十一噸、亞鉛九萬九千七百〇五噸、鉛八萬九千九百三十六噸、銅一萬四千八百六十二噸、錫九百八十四噸、安質母尼二千三百七十六噸、石炭四千六百九十七萬三千六百七十七噸、リグナイト〔石炭ノ一種〕千二百十四萬四千五百十噸、地松香〔黑琥珀ノ類〕五千三百五十萬一千七百三十一噸ノ多キヲ產セリ、帝國ノ南部中央ノ地ハ葡萄ヲ產シ酒ヲ醸ス、其量甚タ多ク殊ニ來因河ノ近傍ヨリ產スル者最モ佳美ニシテ國內第一等ノ地位ヲ占ム、凡テ南部谿澗ノ地ハ葡萄及ヒ百種ノ果物ニ適シ、北部ノ平地ハ甚タ肥沃ニシテ大麥、燕麥ヲ產スル最モ夥シク且麥酒ヲ醸ス、其甚タ多ク外國ヘ輸出スル、少ナカラズ、麻苧ヲ生スル亦盛ナリ、森林ハ全國ノ三分ノ一ニ居リ、頗ル良材アリ、豕ハ殊ニ佳良ニシテ其肥大ナルヲ遠ク他邦ノ產ニ勝レリ、羊毛ハ其質ヲ備ヘ輸出亦少ナカラズ、鐵物ハ此國富盛ヲ致スノ源ニシテ物産ノ第一位ニ居ル、製造物ハ各地一般ニ盛ニシテ製造場歳ヲ逐フテ増加ス、普魯士、薩索尼ノ地方ハ麻布

木綿ヲ製出スルコト多ク毛布之レニ亞ク殊ニ薩索尼ノ地ハ陶器ヲ以テ
 鳴ル波希米ハ玻璃品ノ精造最モ精巧ニシテ世界ニ冠タリ望遠鏡ノ巨
 大ナル者多クハ此地ヨリ出テ其名萬國ニ傳播セリ
 運河ノ便鐵道ノ利アルヲ以テ鄰國トノ貿易殊ニ盛ンナリ就中阜堡不
 來梅ヲ以テ第一トナス往昔ハ海岸ノ地ヲ領スルコト最モ少ナキ故ニ
 軍艦商船共ニ盛大ナラザリシガ近來稍ク隆興スルニ至レリ千八百八
 十一年一月一日ノ調査ニ據レハ商船總計四千六百六十艘噸數同二十
 一萬五千七百五十八其内譯左ノ如シ

國名	風帆船及蒸氣船		蒸氣船	
	數	噸	數	噸
普魯士諸港	三〇七九	四七四九二三	一七九	四六一八三
阜堡	四八三	二四四五六五	一二七	九九三一二
不來梅	三三五	二七〇二六〇	六九	五八六八五
メッレンブルクノ諸港	三八一八	一一二二三二八	一一	四四八九

オルデンブルク同	三四五	六九七二〇	—	—
ルベック同	四二	九七二九	二八	七〇八九
即チ				
北海ノ船	二七四九	七三八二六〇	二二三	一六〇五五六
バルチックノ船	一九一一	四四三二六五	二〇一	五五二〇二
合計	四、六六〇	一一、八二五二五	四一四	二一、五七五八

鐵道郵便及電信

鐵道ニ關スル法律

獨乙帝國ノ保護及ヒ一般交通ノ爲メニ必要ト思考スル時ハ鐵道其領
 分ヲ通スル所ノ各州之ヲ拒ムト雖モ其國ノ君權ヲ害セザル以上ハ帝
 國法律ノ効力ヲ以テ或ハ帝國ノ入費或ハ請負人ニ免許ヲ與ヘテ之ヲ
 築造シ現立シタル鐵道會社ハ其鐵道ニ新設鐵道ノ接續ヲ拒ムコト得
 ズ而シテ接續ニ關スル費額ハ新築者ヨリ之ヲ支辨ス又聯盟各邦ハ一般
 往來ノ爲メ全國ノ鐵道ヲ管理ス可キ約束ヲ立テ其新設ノ鐵道ハ同一

ノ法式ニ據リテ之ヲ造リ且同一ノ器械ヲ備ヘリ獨乙帝國ハ鐵道ヨリ起ル人民ノ危險ヲ防護シ又ハ其方略或ハ器械類ノ構造ヲ完備セシムル爲メニ一切ノ鐵道ヲ監督シ各鐵道會社ハ聯盟各邦ヲ通行ス可キ往來ノ爲メ互ニ相ヒ整正均一ナル時刻表ヲ製シ乗客列車載貨列車ヲ設備シ相當ノ賃銀ヲ得テ一ノ鐵道ヨリ他ノ鐵道ニ輸送ス可キ方法ヲ整備スルヲ憲法ノ第四十四條ヲ以テ制限ス又帝國ハ鐵道賃銀ニ關シ監督權ヲ有ス而シテ此監督權ニ由テ政府ノ管理ス可キハ第一成ル可ク獨乙ノ鐵道ハ同一ノ規則ヲ用ユ可キヲ第二賃銀表ハ成ル可ク均一ニシテ且ツ低價ナルヲ要ス特ニ石炭半礫石炭及ヒ薪木礦物石材食鹽鐵材肥料等ノ諸物ハ最モ低價ナル可キヲ要スルヲ是レナリ然リ而シテ急變ノ時殊ニ飢饉ノ場合ニ於テハ各鐵道會社ハ穀物粉類豆類馬鈴薯等ニ就テ上院ノ管轄シタル委員ノ發議ニ由リ皇帝ノ定ム可キ當時ノ必要ニ適當シタル特別ノ低價ナル賃銀表ヲ設ケザル可ラズ然レモ以上掲載シタル條則ノ内巴威里ニ適用セザル所アリ若シ巴威里ニ

郵便及ヒ電信
ニ關スル法律

對シテ獨乙ヲ保護スル爲メニ鐵道ヲ築キ及ヒ其要具ヲ備フル爲メ同一ノ規則ヲ用ユ可キヲハ議院ノ決議ニ由リテ命令スルノ權利ハ帝國ニ存シ獨乙ヲ保護スル爲メ獨乙全國内ニ於テ鐵道ヲ使用スルヲニ關スル帝國政府ノ求メハ各鐵道會社之ヲ拒ムヲ得ズ特ニ兵隊及ヒ軍用品ハ適宜ノ賃銀ヲ以テ輸送セサル可ラザルノ義務アリ
郵便及ヒ電信ハ全帝國各州ノ交際上便宜ノ爲メ其方法ヲ同一ニシテ之ヲ管理ス可キ者ト定メタリ郵便局電信局ノ收入金ハ帝國大藏省ニ收メ其局ニ係ル經費ハ帝國一般ノ入額ヨリ支出シ皇帝ハ郵便局及ヒ電信局ヲ指揮スル最上ノ權ヲ有シ皇帝ヨリ命シタル官吏ハ郵便局及ヒ電信局ノ管理及ヒ施行ノ方法ニ於ケルモ該局官吏ノ適任ニ於ケルモ全國中凡テ同一ナラシムルハ其人等ノ義務及ヒ權利ナリトス又皇帝ハ該規則及ヒ行政ニ關スル規則ヲ設クルノ權ヲ有シ又外國ノ郵便局及ヒ電信局ト交通聯合ヲ爲スノ權アリ郵便局及ヒ電信局ニ奉仕スル官吏ハ誓ヲ宣ヘ必ラズ皇帝ノ命令ヲ遵奉セザル可ラズ該局ノ上等

官吏ヲ任命シ及ビ各邦ニ於テ該局ヨリ任セラレタル監督官ヲ命スル時ハ皇帝ヨリ帝國一般ニ對シテ爲ス可キ者ニシテ右ノ官吏ハ皇帝ニ向ヒ職務ニ關スル誓詞ヲ宣フ聯盟各邦ノ政府ノ承認ヲ得又其布告ヲ爲サシムル爲メ官吏ヲ命シタル時ハ其關係シタル邦ノ政府へ速ニ通知ス可モノトセリ郵便局并ニ電信局ニ在ル所ノ官吏及ビ郵便電信ニ關スル百般ノ事務ヲ管理スル官吏ハ其關係シタル聯盟各邦ヨリ任命シ獨立ノ郵便局及ヒ電信局ナキ聯盟各邦ニ於テハ其郵便及ヒ電信ニ關スル一切ノ事件ハ現ニ成立スル諸規則ニ據レリ

鐵道ノ延長

帝國ノ鐵道ハ千八百八十二年五月ニ於テ既ニ落成ヲ告ケ運轉ヲ始メタル線路ノ長サ總計三萬四千七百二十七キロメートル即チ二萬千六百英里アリ此ノ線路ノ内二萬五千九百五十二キロメートルハ政府ノ築造シテ所有スル所ニ係リ其餘ハ私立會社ニ屬シ且其築造スル所ナリ然レトモ違カラズ政府ノ所有トナルベシ

電信ノ敷及ビ其線路ノ長

千八百八十一年間ニ於テ電信ヲ取扱ヒタル數千七百五十萬九十九ニ

郵便物ノ數

シテ其内國ノ通信ニ係ル者千二百四十三萬千九百八十九外國ノ通信ニ屬スル者五百〇七萬五千百十四而シテ同年ノ末ニ於テ電信線路ノ長サ七萬二千五百七十七キロメートル其線ヲ延長スレハ總シテ二十六萬七百九十キロメートルニ達ス

郵便電信ノ收入金

同年間帝國郵便局ニ於テ取扱ヒタル郵便物ノ數ハ書狀六億八千九百九十七萬六千三百五十通端書一億〇六千八百九十二萬九千四百八十枚諸見本類千四百〇一萬三千七百十個封印物一億五千四百四十九萬六千九百六十包新聞紙四億五千三百六十萬二千四百枚ニシテ總計郵便物ノ數十四億〇七千三百一萬八千九百個ナリ同年度ノ收入金ハ電信料ヲ合シテ六千四百二十五萬九千三百七十二マルクニシテ支出金ハ四千〇七十三萬三千五百二十二マルクナレバ差引二千三百五十二萬五千八百七十二マルクノ利潤アリ而シテ同年ノ末ニ於テ郵便局ノ數ハ一萬一千〇八十八箇所電信局ノ數ハ一萬〇三百〇八箇所ニシテ之レニ使用スル人員七萬八千五百〇二人ノ多キアリ

○第三篇

普魯士王國

獨乙帝國各州ノ形勢

積面及ヒ人口

普魯士王國ハ獨乙帝國中ノ一大部分ニシテ北ハ波羅的海及ヒ北海ニ濱シ南ハハルス山脈域内ニ連亘シ間々峻嶮ノ地アリト雖モ概スルニ地勢多クハ平坦ニシテ川流甚々多ク西部ハ殊ニ豐饒ニシテ人煙最モ稠密ナリ積面十三萬七千〇六十六英方里人口二千七百二十七萬九千一百一十一人ニシテ獨乙帝國ヲ三分シテ殆ント其二ヲ保チ人口五分ノ二ヲ有ス全國ヲ大別シテ十二州ト爲シ更ニ小別シテホヘンブルンノ侯國ヲ合セテ三十五政區ト爲シ每區地方政廳ヲ置ク但シ十二州ノ積面人口左ノ如シ

東普魯士州

積面一萬四千七百二十九英方里
人口百九十三萬三千九百三十六人

西普魯士州

積面一萬〇百五十英方里
人口百四十萬〇五千八百九十八人

ブランデンブルグ州

積面一萬五千五百〇五英方里
人口三百三十八萬九千五百五十五人

ボメラニア州

積面一萬二千百三十英方里
人口百五十四萬〇〇五十四人

ポーゼン州

積面一萬千三百三十英方里
人口百七十萬三千三百九十七人

シレシヤ州

積面一萬五千六百六十六英方里
人口四百萬七千九百二十五人

サキソニー州

積面九千七百二十九英方里
人口二百三十一萬二千〇〇七人

ハノーヴェル州

積面八千五百二十四英方里
人口百十二萬七千四百四十九人

ウエストフハリヤ州

積面七千七百七十一英方里
人口二百〇四萬三千四百四十二人

人口ノ増殖

ヘッス及ヒナスサウ州

積面五千九百四十三英方里
人口百五十五萬四千三百七十六人

ライン州

積面一萬〇二百八十九英方里
人口四百〇七萬四千人

ホヘンツルレルン州

積面四百五十三英方里
人口六十七萬〇六百二十四人

此内男子三百四十一萬四千八百六十六人、女千三百八十六萬四千二百四十五人ニシテ、女ノ數、男ノ數ニ超過スルヲ三十四萬九千三百七十九人ナリトス。千八百十九年ニ於テハ、人口一千〇九十八萬一千九百三十四人ナリシヲ、千八百五十八年十二月ニ至リテハ、増シテ一千七百七十三萬九千九百十三人トナリ、三十九年間ニ六割壹分三厘ヲ増シ、千八百六十一年ノ十二月ニ至リテハ、一千八百四十九萬一千二百二十八トナリ、三年間ニ四分二厘七毛ヲ増シ、千八百七十五年十二月ニ至リテハ、更に増シテ二千五百七十四萬二千四百〇四人トナリ、遂ニ現今ノ人口ニ

達シタリ又千八百六十六年ニ於テハ王國ノ領地十萬〇七千七百五十七英里ヨリ増シテ十三萬七千〇六十六英里トナレリ而シテ人口平均一英方里毎ニ百九十九人ノ割合ナリト雖モ地方ニ由リ甚々差違アリ乃チライオン州ノダツセルドルフ製造區ノ如キハ殆ント之レニ四倍シボメラニヤ州ノケッスリン區ノ如キハ僅カニ其五分ノ三ニ過キズ

都府ノ人口

國中ニ千二百八十九ノ都府アリ此内最モ廣大ナル者ヲ舉クレハ柏林(人口百十二萬二千三百六十)ブレス、ラウ(人口二十七萬二千九百十二)コログネ(人口十四萬四千七百七十二)ケニグスベルグ(人口十四萬〇九百〇九)マグテルベルグ(人口十三萬七千三百三十五)フランクホルド(人口十三萬六千八百十九)ハノーヴェル(人口十二萬二千八百四十三)ダントエグ(人口十萬八千五百五十一)バルメン(人口九萬五千九百四十一)ステッテン(人口九萬千七百五十六)等ナリトス而シテ凡テ歐洲諸國ニ於ケルガ如ク普魯士モ亦人口漸次都府ニ集合スルノ勢アリ千八百七十一年

國民ノ業務ノ比例

年十二月一日ノ調査ニ據レバ全國千二百八十九都府ノ人口七百九十六萬八千五百四十五ニシテ鄙野ノ人口ハ一千六百六十三萬七千六百五十二ナリ蓋シ千八百六十七年ヨリ都府ノ人口ヲ増殖セシコト六分二厘餘ニ當リ鄙野ハ僅カニ一分餘ヲ増殖セシニ過キズ
全國人口ノ半即チ千二百萬人ハ農事ヲ以テ專業ト爲シ其中五百萬人ハ實產即チ土地ヲ所有ス概シテ中央及ヒ西部ニ於テハ土地ヲ有スル者甚々多シト雖モ東部及ヒ王領ノ州ニ至テハ之レニ反シ陸地ハ大抵豪富ノ家ノミ之ヲ占有ス千八百五十八年ノ調査ニ據レハ陸地五モルゲン即チ三イール四分ノ一以下ヲ有スル地主百〇九萬九千人ナリト云フ

王室ノ起源

普魯士王統ハシャルレマン帝ノ將官タリシアルレルンノ伯タツシロノ後裔ナリタツシロノ嗣子伯フレドリツキ一世紀元九百八十年ダニウグ河ノ近傍ニ住ス是レホーヘンアルレン系統ノ初メナリ千二百七十